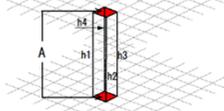
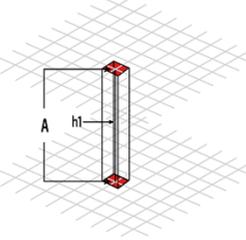
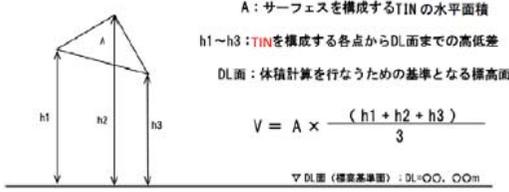
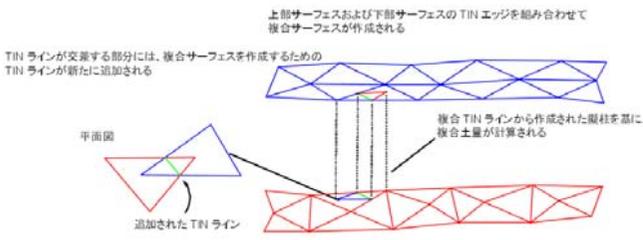
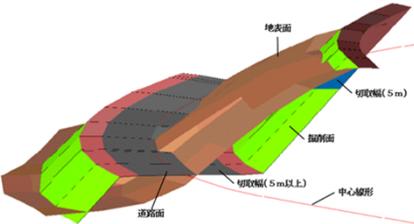
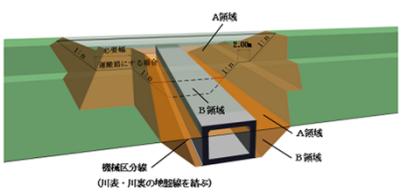


改正理由	新規制定	改正 現行	備考
	現 行	改 正	備 考
	<p>現行なし →</p>	<p>1.10 3次元モデルの基本的な表現方法 数量の算出は「1.2 数量計算方法」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>1. 土構造物 (1) 算出方法 3次元 CAD ソフト等を用いた a)~d) の方式 数量算出に用いる 3 次元点群座標データまたは同様に数量算出に用いるサーフェスデータのメッシュの大きさは、50cm 間隔以下の密度とする。ただし、3 次元点群座標データにおいて植生等により測定した点が正しく地表を捉えられず、標準の点密度の取得が困難な場合には、この限りでない。</p> <p>a) 点高法 2つの面データに重ね合わせたメッシュ（等間隔）交点で標高を算出し、標高差にメッシュ間隔の面積を乗じたものを総和する。メッシュ間隔は 50cm 以内とし、標高差の算出には、以下の方法とする。</p> <p>4 点平均法：メッシュ交点の四隅の標高差を平均する方法</p> <div style="text-align: center;">  $V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3 + h4)}{4}$ </div> <p>1 点法：メッシュ交点にて標高差を算出する方法</p> <div style="text-align: center;">  $V = A \times h1$ </div> <p>b) TIN 分割等を用いて求積する方法 2つの面データを作成した上で TIN からなる面データを作成したうえで、ある一定の標高値にて DL 面（標高基準面）を設定し、各 TIN の水平面積と、TIN を構成する各点から DL 面までの高低差の平均（平均高低差）を乗じた体積を総和する。 なお、TIN とは Triangular Irregular Network の略。TIN は、標高データを補間する最も一般的なデジタルデータ構造である。TIN は、多くの点を 3 次元上の直線で繋いで三角形の頂点の組合せで面（サーフェス）を形成する。</p>	<p>新規追加</p>
積算上の注意事項			<p>（控え頁）</p> <p>1 / 8</p>

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	現 行	改 正	備 考
	<p style="text-align: center;">現行なし →</p>	<div style="text-align: center;">  <p>A: 表面を構成するTINの水平面積 h1~h3: TINを構成する各点からDL面までの高低差 DL面: 体積計算を行なうための基準となる標高面</p> $V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3)}{3}$ <p>▽ DL面(標準基準面): DL=○○.○○m</p> </div> <p>c) プリズモイダル法 2つの面データを作成した上で TIN からなる面データを作成し、面データのポイントの位置を互いの面データに投影する。次に各面データから、本来の自身を持つポイントと相手のポイントを合わせたポイント位置により新たな三角網を形成し、この三角網の結節点の位置での標高差に基づき複合した面データの標高を計算する。面データの各 TIN を構成する点をそれぞれの面データに投影すると、各面データに同じ水平位置で標高の異なる点が作成されるので、その作成された点で再度面データを構築し、三角形水平面積と高低差を乗じた体積を総和する。</p> <div style="text-align: center;">  <p>上部サーフェスおよび下部サーフェスの TIN エッジを組み合わせて複合サーフェスが作成される</p> <p>TIN ラインが交差する部分には、複合サーフェスを作成するための TIN ラインが新たに追加される</p> <p>平面図</p> <p>追加された TIN ライン</p> <p>複合 TIN ラインから作成された縦柱を基に、複合土量計算される</p> </div> <p>d) その他算出結果について結果を確認できるもの</p>	<p style="text-align: center;">新規追加</p>
積算上の注意事項		1-1-48	(控え頁) 2/8

改正理由	一部改正	改正 現 行	備 考
	現 行	改 正	備 考
	現 行 な し	<p>(2) 3次元モデルの基本的な表現方法</p> <p>土構造物の数量算出に用いる3次元モデル(サーフェスモデル等)は、地表面や地層面をモデル化した「3次元地盤モデル」と、「掘削」における施工基面又は法面や「盛土」における路床面又は法面等をモデル化した「土工モデル」である。これらのモデルを重ね合わせて、各面の標高差分を用いる点高法等により、土構造物の数量を算出する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>土工(掘削、盛土)や残土処分の数量は、3次元地盤モデルに現地盤線や施工基面(計画路床・河床面)等を表現した土工モデルや構造物モデル等を重ね合わせ、その体積の差分等により算出する。</p> </div> <p>1) 土質区分「3次元地盤モデル」</p> <p>「3次元地盤モデル」を用いて表現する。「3次元地盤モデル」は、平均断面法と同様にボーリングデータ等に基づく地質断面図を用いて土質区分の断面を表現し、一次比例で断面を補完して断面間を接続し、土質区分の境界面を表現する。</p> <p style="text-align: right;">1-1-49</p>	新規追加
積算上の注意事項			(控え頁) 3/8

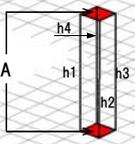
改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	現 行	改 正	備 考
	<p>現行なし →</p>	<p>2) 施工形態（土工モデル）</p> <p>(A) 掘削</p> <p>a) 道路</p> <p>オープンカットや片切掘削等における切取幅（数量算出区分に応じた幅）の境界面は、サーフェスモデル等を用いて表現する。切取幅の境界面サーフェスは、平均断面法と同様に切り出した断面で切取幅の境界線を表現し、一次比例で断面間を補充して接続し、境界面を表現する。</p>  <p>b) 河川</p> <p>堤防横断構造物のA領域、B領域を区別する機械区分の境界面は、サーフェスモデル等を用いて表現する。</p>  <p>(B) 盛土</p> <p>a) 道路</p> <p>路体盛土の施工幅員（数量算出区分に応じた幅）は、サーフェスモデル等を用いて表現する。施工幅員の境界面のサーフェスモデルは、平均断面法と同様に切り出した断面で切取幅の境界線を表現し、一次比例で断面間を補充して接続し、境界面を表現する。</p> <p>なお、路床盛土の平均幅員（（上幅＋下幅）×1/2）は、測点毎に3次元モデルより断面を切り出して路床盛土の平均幅員を算出し、その結果を施工形態の属性情報とする。</p> <p>b) 河川</p> <p>築堤盛土の施工幅員（数量算出区分に応じた幅）は、サーフェスモデル等を用いて表現する。施工幅員の境界面のサーフェスモデルは、上記の道路盛土と同様に、切り出した断面で切取幅の境界線を表現し、一次比例で断面間を補充して接続し、境界面を表現する。</p> <p style="text-align: center;">1-1-50</p>	<p>新規追加</p>
積算上の注意事項			<p>（控え頁）</p> <p>4/8</p>

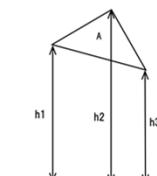
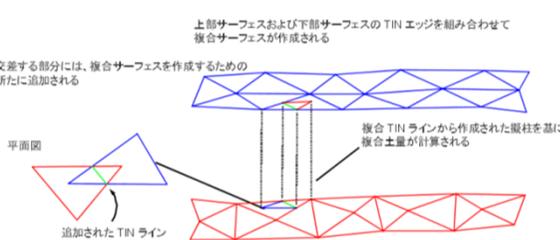
改 正 理 由	一 部 改 正	改 正 現 行	備 考
現 行	改 正	備 考	
		<p>2 コンクリート構造物</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【3次元モデルの基本的な表現方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A: 「体積」を算出する項目 3次元モデルを用いて位置と体積を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。コンクリート等に適用する。 ・ B: 「長さ」、「面積」や「個数」を算出する項目 簡易な形状(点、線、面)を用いて位置、延長や面積を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。鉄筋等に適用する。 ・ C: 「必要性の有無」を確認する項目 必要性の有無を確認し、必要な場合は計上する。ただし、材料の数量算出は不要で3次元モデルの作成も必要ない。3次元モデルに注記情報を付与して確認できるようにする。均しコンクリートや水抜パイプ等に適用する。 <p>なお、上記は、数量算出における3次元モデルの基本的な表現方法を示すものであり、必要に応じて「B」や「C」に分類されている項目に「A」や他の表現方法を用いることを妨げるものではない。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">※一般的な土木構造物の「足場」や「型枠」は、数量算出するため「B」を適用する。現場打ち擁壁、函渠工、橋台橋脚、共同溝工等の「足場」や「型枠」は、「コンクリート」に数量が含まれるため「C」を適用する。なお、「化粧型枠」は、数量を算出する必要があることから、本図では「B」を例示している。</p>	新規追加
積算上の注意事項		1-1-51	(控え頁) 5/8

改正理由	一部改正	改 正 現 行																																																																															
現 行	改 正		備 考																																																																														
	<p style="text-align: center;">(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="5">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>形式</th> <th>必要性 の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>橋台・橋脚本体コンクリート</td> <td></td> <td>A</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td style="text-align: center;">注)1 注)2</td> </tr> <tr> <td>基礎 敷均し厚 20cm 以下</td> <td></td> <td>C</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>砕石 敷均し厚 20cm 超え</td> <td></td> <td>B</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td></td> <td>C</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>化粧型枠</td> <td></td> <td>B</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">m²</td> <td style="text-align: center;">必要量計上</td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td>B</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td></td> <td>C</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">(×)</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">注)3</td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td></td> <td>C</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">逆T式橋台のみ必要に 応じ計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 鉄筋については「第1編（共通編）4.3.1 鉄筋工」によるものとする。 2. 基礎砕石（敷均し厚 20cm を超える場合）については、「第1編（共通編）9.1 基礎・裏込砕石工、基礎・裏込梁石工」によるものとする。 3. 冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編（共通編）11.6.2 雪寒仮囲い工」によるものとする。 4. 逆T式橋台において水抜パイプが必要な場合は、別途考慮するものとする。</p> <p>「橋台・橋脚本体コンクリート」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格・形式を区分することより「A」を適用する。 「基礎砕石」の「敷均し厚 20cm 以下」は、必要性の有無を確認し、必要な場合は計上するが、材料数量の算出は不要のため「C」を適用する。 「基礎砕石」の「敷均し厚 20cm 超え」は、3次元モデルより面積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「化粧型枠」を使用する場合は、3次元モデルより面積を算出するため「B」を適用する。なお、一般の型枠を使用する場合は、「C」を適用する。 「均しコンクリート」、「足場」と「水抜パイプ」は、必要性の有無を確認し、必要な場合は計上するが、材料数量の算出は不要のため「C」を適用する。 「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。</p>	項目	区分	3次元 モデル	属性情報					備考	規格	形式	必要性 の有無	単位	数量	橋台・橋脚本体コンクリート		A	○	○	-	m ³	注)1 注)2	基礎 敷均し厚 20cm 以下		C	×	×	○	-		砕石 敷均し厚 20cm 超え		B	○	×	-	m ²		均しコンクリート		C	×	×	○	-		化粧型枠		B	×	×	-	m ²	必要量計上	鉄筋		B	○	×	-	t		足場		C	×	×	(×)	-	注)3	水抜パイプ		C	×	×	-	-	逆T式橋台のみ必要に 応じ計上	<p>現行なし →</p>	新規追加
項目	区分				3次元 モデル	属性情報					備考																																																																						
		規格	形式	必要性 の有無		単位	数量																																																																										
橋台・橋脚本体コンクリート		A	○	○	-	m ³	注)1 注)2																																																																										
基礎 敷均し厚 20cm 以下		C	×	×	○	-																																																																											
砕石 敷均し厚 20cm 超え		B	○	×	-	m ²																																																																											
均しコンクリート		C	×	×	○	-																																																																											
化粧型枠		B	×	×	-	m ²	必要量計上																																																																										
鉄筋		B	○	×	-	t																																																																											
足場		C	×	×	(×)	-	注)3																																																																										
水抜パイプ		C	×	×	-	-	逆T式橋台のみ必要に 応じ計上																																																																										
積算上の注意事項		1-1-52	(控え頁) 6/8																																																																														

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	現 行	改 正	備 考
	<p style="text-align: center;">現行なし →</p>	<p>3 鋼構造物</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【3次元モデルの基本的な表現方法】</p> <p>I：「質量」を算出する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3次元モデルを用いて位置とネット質量を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。台形部材、全長にわたってテーパのついた部材等に適用する。 ・ グロス質量を必要とする場合は、属性情報を用いて質量を算出する。ガセットプレートや板厚変化のテーパ等に適用する。 <p>II：「長さ」、「面積」や「個数」を算出する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 簡易な形状(点、線、面)を用いて位置、延長や面積を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。溶接延長、ハンドホール、マンホール、ボルト・ナットやボルト孔等に適用する。 <p>III：3次元モデルに関連付けした属性情報より数量算出条件を抽出する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主桁間隔や高さ等を算出する項目に適用する。 ・ 塗装工等の全表面積等を算出する項目に適用する。 <p>なお、上記は、数量算出における3次元モデルの基本的な表現方法を示すものであり、必要に応じて「II」や「III」に分類されている項目に「I」や他の表現方法を用いることを妨げるものではない。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>【I】(例)板厚変化のテーパ グロス質量を必要とする場合は、属性情報を用いて質量を算出する。</p> <p>【II】(例)ボルト・ナットやボルト孔 簡易な形状(点、線、面)を用いて位置、延長や面積を、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。</p> <p>【III】主桁間隔 3次元モデルに関連付けした属性情報より数量算出条件を抽出する項目</p> </div>	<p>新規追加</p>
積算上の注意事項		1-1-53	(控え頁) 7/8

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																					
現 行	改 正	備 考																																																																																					
	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 10px;">現行なし →</div> <table border="1" style="border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">区分 項目</th> <th rowspan="3">構造名称</th> <th rowspan="3">3次元 モデル</th> <th colspan="6">属性情報</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">構造 形式</th> <th colspan="3">規格</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>材種</th> <th>材質</th> <th>寸法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">鋼材 質量</td> <td>橋 体 (連毎に区分)</td> <td>I</td> <td>○</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="7">付属物</td> <td>支承</td> <td>II</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>個(kg)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高欄</td> <td>II</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護柵</td> <td>II</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg</td> <td></td> </tr> <tr> <td>伸縮継手</td> <td>II</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg</td> <td></td> </tr> <tr> <td>検査路</td> <td>II</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg</td> <td></td> </tr> <tr> <td>排水装置</td> <td>II</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐震連結装置</td> <td>II</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div>	区分 項目	構造名称	3次元 モデル	属性情報						構造 形式	規格			単位	数量	備考	材種	材質	寸法	鋼材 質量	橋 体 (連毎に区分)	I	○	○			kg		付属物	支承	II	×	○			個(kg)		高欄	II	×	○			kg		防護柵	II	×	○			kg		伸縮継手	II	×	○			kg		検査路	II	×	○			kg		排水装置	II	×	○			kg		耐震連結装置	II	×	○			kg		新規追加
区分 項目	構造名称				3次元 モデル	属性情報																																																																																	
						構造 形式	規格			単位	数量	備考																																																																											
		材種	材質	寸法																																																																																			
鋼材 質量	橋 体 (連毎に区分)	I	○	○			kg																																																																																
	付属物	支承	II	×	○			個(kg)																																																																															
		高欄	II	×	○			kg																																																																															
		防護柵	II	×	○			kg																																																																															
		伸縮継手	II	×	○			kg																																																																															
		検査路	II	×	○			kg																																																																															
		排水装置	II	×	○			kg																																																																															
		耐震連結装置	II	×	○			kg																																																																															
積算上の注意事項	1-1-54		(控え頁) 8/8																																																																																				

改 正 理 由	一 部 改 正	改 正 現 行	備 考
現	行	改	正
	<p>(3) 構造物区分 構造物ごとに区分して算出する。 また、河川では、築堤、高水敷、低水路に区分して算出する。(「2. 数量算出項目(2) 盛土」参照)</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>平均断面法または3次元CADソフト等を用いた以下の方式によることを標準とする。</p> <p>① 平均断面法 土量=平均断面積×延長 法面積=平均法長×延長</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>② 3次元CADソフト等を用いたa)~c)の方式 数量算出に用いる3次元点群座標データは、50cm間隔以下の点密度とする。ただし、植生等により測定した点が正しく地表を捉えられず、標準の点密度の取得が困難な場合には、この限りでない。</p> <p>a) 点高法 現況地形や出来形計測結果等(出来形計測データ、起工測量計測データ、岩線計測データ)からなる2つの面データに重ね合わせたメッシュ(等間隔)交点で標高を算出し、標高差にメッシュ間隔の面積を乗じたものを総和する。メッシュ間隔は50cm以内とし、標高差の算出には、以下の方法とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4点平均法:メッシュ交点の四隅の標高差を平均する方法(下図のとおり) ・1点法:メッシュ交点にて標高差を算出する方法 <div style="text-align: center;">  $V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3 + h4)}{4}$ </div> <p>b) TIN分割等を用いて求積する方法 現況地形や出来形計測結果等(出来形計測データ、起工測量計測データ、岩線計測データ)からそれぞれの面データとしてTINからなる面データを作成したうえで、ある一定の標高値にてDL面(標高基準面)を設定し、各TINの水平投影面積と、TINを構成する各点からDL面までの高低差の平均(平均高低差)を乗じた体積を総和する。</p> </div> <p style="text-align: center;">1-2-6</p>	<p style="font-size: 2em;">}</p> <p>現行どおり</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>平均断面法または3次元CADソフト等を用いた以下の方式1.10.3次元モデルの基本的な表現方法によることを標準とする。</p> <p>① 平均断面法 土量=平均断面積×延長 法面積=平均法長×延長</p> <p>→ 「1.10 3次元モデルの基本的な表現方法」に集約のため削除</p>	<p>記載の修正</p> <p>記載の削除</p>
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>なお、TINとは Triangular Irregular Network の略。TINは、標高データを補間する最も一般的なデジタルデータ構造である。TINは、多くの点を3次元上の直線で繋いで三角形の頂点の組合せで面（サーフェス）を形成する。</p> <div style="text-align: center;">  <p>A : サーフェスを構成するTINの水平面積 h1~h3 : Tinを構成する各点からDL面までの高低差 DL面 : 体積計算を行なうための基準となる標高面</p> $V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3)}{3}$ <p>▽ DL面 (標高基準面) : DL=〇〇. 〇〇m</p> </div> <p>c) プリズモイダル法 現況地形や出来形計測結果等（出来形計測データ、起工測量計測データ、岩線計測データ）からそれぞれの面データとしてTINからなる面データを作成し、面データのポイントの位置を互いの面データに投影する。次に各面データから、本来の自身が持つポイントと相手のポイントを合わせたポイント位置により新たな三角網を形成し、この三角網の結節点の位置での標高差に基づき複合した面データの標高を計算する。面データの各TINを構成する点をそれぞれの面データに投影すると、各面データに同じ水平位置で標高の異なる点が作成されるので、その作成された点で再度面データを構築し、三角形水平面積と高低差を乗じた体積を総和する。</p> <div style="text-align: center;">  <p>上部サーフェスおよび下部サーフェスのTIN エッジを組み合わせて複合サーフェスが作成される</p> <p>TIN ラインが交差する部分には、複合サーフェスを作成するためのTIN ラインが新たに追加される</p> <p>平面図</p> <p>追加されたTIN ライン</p> <p>複合TIN ラインから作成された擬柱を基に、複合土量計算される</p> </div> <p>d) その他算出結果について結果を確認できるもの</p> </div>	<p>「1. 10 3次元モデルの基本的な表現方法」に集約のため削除</p>	<p>記載の削除</p>
積算上の注意事項	1-2-7		(控え頁) 2/2

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																																																							
現 行	改 正		備 考																																																																																																																																																																						
<p>3章 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工</p> <p>3.1 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工</p> <p>1. 適用</p> <p>超軽量材としての発泡スチロールを盛土、擁壁および橋台等の抗土圧構造物の裏込め等に使用する発泡スチロール工を人力で施工する場合に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>発泡スチロール設置、発泡スチロール（材料費）、緊結金具（材料費）、コンクリート床版、支柱結合アンカー（材料費）、支柱設置、支柱（材料費）、壁面材設置、壁面材（材料費）、裏込砕石（軽量盛土）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、雑工種、生コンクリート規格、養生工、圧送管延長距離、床板厚さ、溶接金網規格、盛土高、附帯工の割合、砕石の種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>雑工種</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>養生工</th> <th>圧送管延長距離</th> <th>床板厚さ</th> <th>溶接金網規格</th> <th>盛土高</th> <th>附帯工の割合</th> <th>砕石の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発泡スチロール設置</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>発泡スチロール（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>緊結金具（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート床版</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支柱結合アンカー（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支柱設置</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支柱（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁面材設置</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁面材（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込砕石（軽量盛土）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 軽量盛土（発泡スチロール）の排水材（不織布：厚さ10mm以下）、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、敷砂（敷均し厚10cm以下）を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。</p>		項目	区分	規格	雑工種	生コンクリート規格	養生工	圧送管延長距離	床板厚さ	溶接金網規格	盛土高	附帯工の割合	砕石の種類	単位	数量	備考	発泡スチロール設置		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³			発泡スチロール（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³			緊結金具（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個			コンクリート床版		○	×	○	○	○	○	×	×	×	×	m ³			支柱結合アンカー（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³			支柱設置		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本			支柱（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本			壁面材設置		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²			壁面材（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²			裏込砕石（軽量盛土）		○	×	×	×	×	×	○	○	○	○	m ³			<p>現行どおり</p>		<p>積算基準の改定に伴う記載の追加</p> <p>積算基準の改定に伴う記載の追加</p>
項目	区分	規格	雑工種	生コンクリート規格	養生工	圧送管延長距離	床板厚さ	溶接金網規格	盛土高	附帯工の割合	砕石の種類	単位	数量	備考																																																																																																																																																											
発泡スチロール設置		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³																																																																																																																																																													
発泡スチロール（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³																																																																																																																																																													
緊結金具（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個																																																																																																																																																													
コンクリート床版		○	×	○	○	○	○	×	×	×	×	m ³																																																																																																																																																													
支柱結合アンカー（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ³																																																																																																																																																													
支柱設置		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本																																																																																																																																																													
支柱（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本																																																																																																																																																													
壁面材設置		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²																																																																																																																																																													
壁面材（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m ²																																																																																																																																																													
裏込砕石（軽量盛土）		○	×	×	×	×	×	○	○	○	○	m ³																																																																																																																																																													
1-3-2																																																																																																																																																																									
積算上の注意事項			(控え頁) 1/3																																																																																																																																																																						

改 正 理 由	一 部 改 正	改 正 現 行	備 考																																																									
現	行	改	正																																																									
<p>(7) 裏込砕石（軽量盛土）の付帯工の割合による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>付帯工の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> — 0.1 以下 — 0.1 を超え 0.2 以下 — 0.2 を超え 0.3 以下 — 0.3 を超え 0.4 以下 — 0.4 を超え 0.5 以下 — 0.5 を超え 0.6 以下 — 0.6 を超え 0.7 以下 — 0.7 を超え 0.8 以下 — 0.8 を超え 0.9 以下 — 0.9 を超え 1.0 以下 <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート (基礎コンクリート部)</td> <td>m³</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4.1コンクリート工」参照</td> </tr> <tr> <td>型枠 (基礎コンクリート部)</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4.2型枠工」参照</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工 (基礎コンクリート部)</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」参照</td> </tr> <tr> <td>基礎材 (基礎コンクリート部)</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）9.1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 発泡スチロール（材料費）は、ロス率を以下とし体積（m³）を算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>ロス率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発泡スチロール</td> <td>+0.03</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 緊結金具（材料費）の発泡スチロールm³当りの使用量は、ロス率を含み以下とし個数を算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊結金具</td> <td>2.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 支柱結合アンカー（材料費）は、規格ごとにコンクリート床板体積当りの必要本数（本/m³）を算出する。</p> <p>(4) 支柱（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。</p> <p>(5) 壁面材（材料費）は、壁面固定金具を含み、規格ごとに壁面面積当りの必要数量（枚/m²及び個/m²）を算出する。</p> <p>(6) 裏込砕石（軽量盛土）は、設計数量を算出する。</p> <p style="text-align: center;">1-3-4</p>		項目	単位	数量	備考	コンクリート (基礎コンクリート部)	m ³		「第1編（共通編）4.1コンクリート工」参照	型枠 (基礎コンクリート部)	m ²		「第1編（共通編）4.2型枠工」参照	鉄筋工 (基礎コンクリート部)	t		「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」参照	基礎材 (基礎コンクリート部)	m ²		「第1編（共通編）9.1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」参照	項目	ロス率	発泡スチロール	+0.03	項目	数量	緊結金具	2.3	<p>(7) 裏込砕石（軽量盛土）の付帯工の割合による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>付帯工の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> — 0.1 以下 — 0.1 を超え 0.2 以下 — 0.2 を超え 0.3 以下 — 0.3 を超え 0.4 以下 — 0.4 を超え 0.5 以下 — 0.5 を超え 0.6 以下 — 0.6 を超え 0.7 以下 — 0.7 を超え 0.8 以下 — 0.8 を超え 0.9 以下 — 0.9 を超え 1.0 以下 <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート (基礎コンクリート部)</td> <td>m³</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4.1コンクリート工」参照</td> </tr> <tr> <td>型枠 (基礎コンクリート部)</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4.2型枠工」参照</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工 (基礎コンクリート部)</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」参照</td> </tr> <tr> <td>基礎材 (基礎コンクリート部)</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）9.1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 発泡スチロール（材料費）は、ロス率を以下とし体積（m³）を算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>ロス率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発泡スチロール</td> <td>+0.03 0.04</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 緊結金具（材料費）の発泡スチロールm³当りの使用量は、ロス率を含み以下とし個数を算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊結金具</td> <td>2.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 支柱結合アンカー（材料費）は、規格ごとにコンクリート床板体積当りの必要本数（本/m³）を算出する。</p> <p>(4) 支柱（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。</p> <p>(5) 壁面材（材料費）は、壁面固定金具を含み、規格ごとに壁面面積当りの必要数量（枚/m²及び個/m²）を算出する。</p> <p>(6) 裏込砕石（軽量盛土）は、設計数量を算出する。</p>		項目	単位	数量	備考	コンクリート (基礎コンクリート部)	m ³		「第1編（共通編）4.1コンクリート工」参照	型枠 (基礎コンクリート部)	m ²		「第1編（共通編）4.2型枠工」参照	鉄筋工 (基礎コンクリート部)	t		「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」参照	基礎材 (基礎コンクリート部)	m ²		「第1編（共通編）9.1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」参照	項目	ロス率	発泡スチロール	+0.03 0.04	項目	数量	緊結金具	2.3	<p>積算基準の改定に伴う記載の変更</p>
項目	単位	数量	備考																																																									
コンクリート (基礎コンクリート部)	m ³		「第1編（共通編）4.1コンクリート工」参照																																																									
型枠 (基礎コンクリート部)	m ²		「第1編（共通編）4.2型枠工」参照																																																									
鉄筋工 (基礎コンクリート部)	t		「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」参照																																																									
基礎材 (基礎コンクリート部)	m ²		「第1編（共通編）9.1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」参照																																																									
項目	ロス率																																																											
発泡スチロール	+0.03																																																											
項目	数量																																																											
緊結金具	2.3																																																											
項目	単位	数量	備考																																																									
コンクリート (基礎コンクリート部)	m ³		「第1編（共通編）4.1コンクリート工」参照																																																									
型枠 (基礎コンクリート部)	m ²		「第1編（共通編）4.2型枠工」参照																																																									
鉄筋工 (基礎コンクリート部)	t		「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」参照																																																									
基礎材 (基礎コンクリート部)	m ²		「第1編（共通編）9.1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」参照																																																									
項目	ロス率																																																											
発泡スチロール	+0.03 0.04																																																											
項目	数量																																																											
緊結金具	2.3																																																											
積算上の注意事項			(控え頁) 2/3																																																									

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	<p style="text-align: center;">現 行</p> <p>(7) 付帯工の割合は下式にて算出する。 付帯工の割合 = $\frac{\text{裏込砕石工の盛土高6mを超える部分の設計量(m}^3\text{)}}{\text{裏込砕石工全体の設計量(m}^3\text{)}}$ <small>設計量(m³): ロスを含まない数量</small></p> <p>5. 参考図 (1) 壁体構造を伴う場合 [参考図1(両側壁面)] [参考図2(片側壁面)]</p> <p>(2) 壁体構造を伴わない場合 [参考図3(盛土)] [参考図4(橋台裏込)]</p>	<p style="text-align: center;">改 正</p> <p style="text-align: center;">現 行</p> <p>現行どおり</p> <p>5. 参考図 5-1. 壁面材有り ・支柱設置工が必要な場合</p> <p>・支柱設置工が必要無い場合</p> <p>5-2. 壁面材無し 橋台裏込 盛土</p>	<p style="text-align: center;">備 考</p> <p>積算基準の改定に伴う記載の変更</p>
積算上の注意事項	1-3-5		(控え頁) 3/3

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																		
現	行	改	正																																																																																																	
<p>第4章 コンクリート工</p> <p>4.1 コンクリート工</p> <p>1. 適用</p> <p>一般的な構造物のコンクリート打設に適用する。 ただし、ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、砂防コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック工、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、第1編(共通編)6章6.4場所打擁壁工(1)(2)、7章函渠工(1)(2)、第3編(道路編)7章橋台・橋脚工(1)(2)、10章共同溝工(1)(2)には適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>コンクリート、均しコンクリートの数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、構造物種別、施工条件、コンクリート規格、設計日打設量、養生工の種類、圧送管延長距離区分、現場内小運搬の有無、打設高さ、水平距離とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="10">区分</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>構造物種別</th> <th>施工条件</th> <th>コンクリート規格</th> <th>設計日打設量</th> <th>養生工の種類</th> <th>圧送管延長距離区分</th> <th>現場内小運搬の有無</th> <th>打設高さ、水平距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>参考として施工厚さ(cm)及び体積を算出する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 構造物種別区分 構造物種別ごとに各部ごとの数量を算出し集計する。</p>		項目	区分										備考	構造物種別	施工条件	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類	圧送管延長距離区分	現場内小運搬の有無	打設高さ、水平距離	単位	数量	コンクリート	○	○	○	○	○	○	○	○	m ³			均しコンクリート			○						m ²		参考として施工厚さ(cm)及び体積を算出する。	<p>第4章 コンクリート工</p> <p>4.1 コンクリート工</p> <p>1. 適用</p> <p>一般的な構造物のコンクリート打設に適用する。 ただし、ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、砂防コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック工、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、4.4張りコンクリート工、第1編(共通編)6章6.4場所打擁壁工(1)(2)、7章函渠工(1)(2)、第3編(道路編)7章橋台・橋脚工(1)(2)、10章共同溝工(1)(2)に、張りコンクリートは適用しない。</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="10">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>構造物種別</th> <th>打設工法</th> <th>コンクリート規格</th> <th>設計日打設量</th> <th>養生工の種類</th> <th>圧送管延長距離区分</th> <th>現場内小運搬の有無</th> <th>打設地上高さ、水平打設距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>B</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td>参考として施工厚さ(cm)及び体積を算出する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>「コンクリート」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて構造物種別等を区分することより「A」を適用する。 「均しコンクリート」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて構造物種別等を区分することより「B」を適用する。</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	属性情報										備考	3次元モデル	構造物種別	打設工法	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類	圧送管延長距離区分	現場内小運搬の有無	打設地上高さ、水平打設距離	単位	数量	コンクリート	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	m ³		均しコンクリート	B	○		○							m ²	参考として施工厚さ(cm)及び体積を算出する。	<p>積算基準の改定に伴う記載の追加</p> <p>積算基準の改定に伴う記載の修正・追加</p>
項目	区分										備考																																																																																									
	構造物種別	施工条件	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類	圧送管延長距離区分	現場内小運搬の有無	打設高さ、水平距離	単位	数量																																																																																										
コンクリート	○	○	○	○	○	○	○	○	m ³																																																																																											
均しコンクリート			○						m ²		参考として施工厚さ(cm)及び体積を算出する。																																																																																									
項目	区分	属性情報										備考																																																																																								
		3次元モデル	構造物種別	打設工法	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類	圧送管延長距離区分	現場内小運搬の有無	打設地上高さ、水平打設距離	単位		数量																																																																																							
コンクリート	A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	m ³																																																																																									
均しコンクリート	B	○		○							m ²	参考として施工厚さ(cm)及び体積を算出する。																																																																																								
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																																	

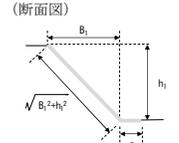
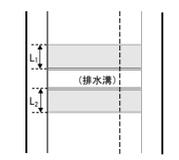
改正理由	一部改正	改正 現行																																			
現	行	改	正																																		
<p>4.2 型枠工</p> <p>1. 適用</p> <p>一般土木工事の構造物施工にかかる型枠工に適用する。 ただし、鋼橋床版、コンクリート桁、砂防、ダム、トンネル、第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)、7章7.1.1函渠工(1)、第3編(道路編)7章7.1.1橋台・橋脚工(1)、10章10.1共同溝工(1)等には適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>型枠の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、型枠の種類、構造物の種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>型枠の種類</th> <th>構造物の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型 枠</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 撤去しない埋設型枠の発泡スチロールについては、平均厚を備考欄に明記する。 2. 鉄筋・無筋構造物(合板円形型枠使用)は、半径5m以下の円形部分に適用する。</p> <p>(2) 型枠の種類区分</p> <p>型枠の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> — 一般型枠 — 化粧型枠 — 撤去しない埋設型枠 <p>(3) 構造物の種類区分</p> <p>構造物の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 鉄筋・無筋構造物 — 小型構造物 — 鉄筋・無筋構造物(合板円形型枠使用) — 均しコンクリート — 床版部 — 支承部・連結部 		項目	区分		単位	数量	備考	型枠の種類	構造物の種類	型 枠	○	○	m ²			<p>4.2 型枠工</p> <p>1. 適用</p> <p>一般土木工事の構造物施工にかかる型枠工に適用する。 ただし、鋼橋床版、コンクリート桁、砂防、ダム、トンネル、<u>4.4張りコンクリート工</u>第1編(共通編)6章6.4.1場所打擁壁工(1)、7章7.1.1函渠工(1)、第3編(道路編)7章7.1.1橋台・橋脚工(1)、10章10.1共同溝工(1)等には適用しない。</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区分</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th><u>3次元モデル</u></th> <th>型枠の種類</th> <th>構造物の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型 枠</td> <td style="text-align: center;"><u>B</u></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 撤去しない埋設型枠の発泡スチロールについては、平均厚を備考欄に明記する。 2. 鉄筋・無筋構造物(合板円形型枠使用)は、半径5m以下の円形部分に適用する。 <u>「型枠」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて型枠の種類や構造物種別を区分することより「B」を適用する。</u></p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>(3) 構造物の種類区分</p> <p>構造物の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 鉄筋・無筋構造物 — 小型構造物 — 鉄筋・無筋構造物(合板円形型枠使用) — <u>トンネル非常駐車帯、箱抜き</u> — 均しコンクリート — 床版部 — 支承部・連結部 		項目	区分		属性情報			<u>3次元モデル</u>	型枠の種類	構造物の種類	単位	数量	備考	型 枠	<u>B</u>	○	○	m ²			<p>積算基準の改定に伴う記載の追加</p> <p>記載の追加</p> <p>積算基準の改定に伴う記載の追加</p>
項目	区分		単位	数量				備考																													
	型枠の種類	構造物の種類																																			
型 枠	○	○	m ²																																		
項目	区分		属性情報																																		
	<u>3次元モデル</u>	型枠の種類	構造物の種類	単位	数量	備考																															
型 枠	<u>B</u>	○	○	m ²																																	
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																		

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																												
	<p>現 行</p> <p>4.3.2 ガス圧接</p> <p>1. 適用</p> <p>鉄筋構造物の組立作業における手動式（半自動式）、自動式のガス圧接工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>鉄筋のガス圧接箇所を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、施工規模とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>施工規模</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガス圧接</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規 格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>D16+D16</td></tr> <tr><td>D19+D19</td></tr> <tr><td>D22+D22</td></tr> <tr><td>D25+D25</td></tr> <tr><td>D29+D29</td></tr> <tr><td>D32+D32</td></tr> <tr><td>D35+D35</td></tr> <tr><td>D38+D38</td></tr> <tr><td>D41+D41</td></tr> <tr><td>D51+D51</td></tr> </tbody> </table> <p>(注) 径違いの圧接の場合は、上位の規格による。</p> <p>(3) 施工規模区分 1工事における全規模の全体数量が100箇所以上であれば「無」、100箇所未満であれば「有」として区分する。</p> <p>1-4-12</p>	項目	区分	規格	施工規模	単位	数量	備考	ガス圧接		○	○	箇所			規 格	D16+D16	D19+D19	D22+D22	D25+D25	D29+D29	D32+D32	D35+D35	D38+D38	D41+D41	D51+D51	<p>改 正</p> <p>現 行</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>施工規模</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガス圧接</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「ガス圧接」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と個数を算出し、属性情報を用いて規格や施工規模を区分することより「B」を適用する。</p> <p>現行どおり</p>	項目	区分	3次元モデル		属性情報			規格	施工規模	単位	数量	備考	ガス圧接		B	○	○	箇所		<p>備考</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	規格	施工規模	単位	数量	備考																																									
ガス圧接		○	○	箇所																																											
規 格																																															
D16+D16																																															
D19+D19																																															
D22+D22																																															
D25+D25																																															
D29+D29																																															
D32+D32																																															
D35+D35																																															
D38+D38																																															
D41+D41																																															
D51+D51																																															
項目	区分	3次元モデル		属性情報																																											
		規格	施工規模	単位	数量	備考																																									
ガス圧接		B	○	○	箇所																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																												

改正理由	新規改定による追加工種のため	改正 ----- 現行	
------	----------------	-------------------	--

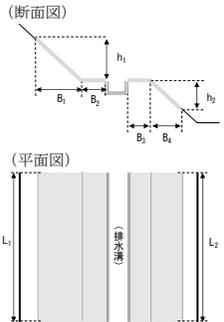
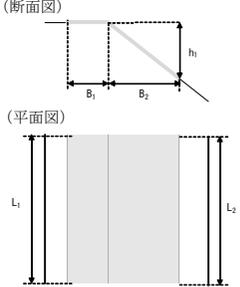
現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

現行なし

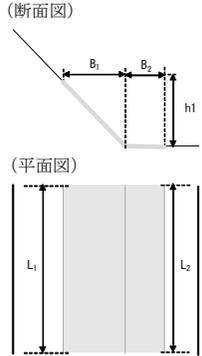
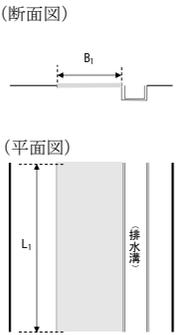
<p>4. 4 張りコンクリート工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">張りコンクリート工(コンクリートの厚さが平均5cm以上10cm以下)に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">張りコンクリートの数量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、対象構造物、施工区分、コンクリート規格、目地材の有無とする。</div> <p>(1)数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>1)張りコンクリート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>対象構造物</th> <th>施工区分</th> <th>コンクリート規格</th> <th>目地材の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型 枠</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)対象構造物区分 下記の通り、対象構造物ごとに区分して算出する。 ①縦排水溝 ②小段排水溝 ③防草コンクリート</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 ※対象構造物の幅、長さが一定でない場合は、平均値を用いて算出することとする。</p> <p>(1)縦排水溝</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> $S = (L_1+L_2) \times \sqrt{(B_1^2+h_1^2)} + (L_1+L_2) \times B_2 \quad (\text{m}^2)$ </div> <p>S : 張りコンクリート面積(m²) B₁ : 対象構造物の幅(m) B₂ : 対象構造物の幅(m) h₁ : 対象構造物の高さ(m) L₁ : 対象構造物の長さ(m) L₂ : 対象構造物の長さ(m)</p> <div style="text-align: right;"> <p>(断面図)</p>  <p>(平面図)</p>  </div>	項目	区分	対象構造物	施工区分	コンクリート規格	目地材の有無	単位	数量	備考	コンクリート		○	○	○	○	m ²			型 枠		○				m ²			新規追加
項目	区分	対象構造物	施工区分	コンクリート規格	目地材の有無	単位	数量	備考																				
コンクリート		○	○	○	○	m ²																						
型 枠		○				m ²																						

1-4-13

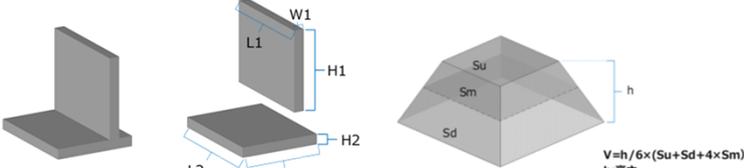
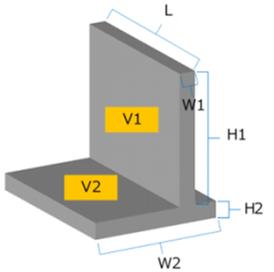
工 種	張りコンクリート工
-----	-----------

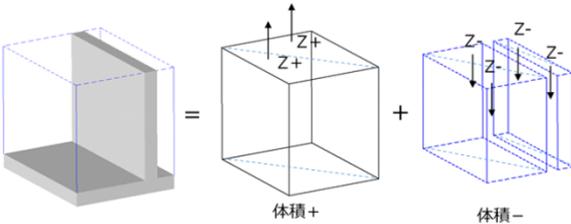
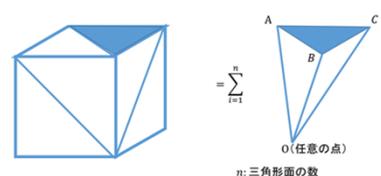
改正理由	新規改定による追加工種のため	改正 — 現 行	
現 行	改 正		備 考
<p style="text-align: center;">現行なし</p>	<p>(2) 小段排水溝</p> $S = (L_1 \times \sqrt{(B_1^2 + h_1^2)}) + (L_1 \times B_2) + (L_2 \times B_3) + (L_2 \times \sqrt{(B_4^2 + h_2^2)}) \quad (\text{m}^2)$ <p>S : 張りコンクリート面積 (m²) B₁ : 対象構造物の幅 (m) B₂ : 対象構造物の幅 (m) B₃ : 対象構造物の幅 (m) B₄ : 対象構造物の幅 (m) h₁ : 対象構造物の高さ (m) h₂ : 対象構造物の高さ (m) L₁ : 対象構造物の長さ (m) L₂ : 対象構造物の長さ (m)</p>  <p>(3) 防草コンクリート(法肩部)</p> $S = (L_1 \times B_1) + (L_2 \times \sqrt{(B_2^2 + h_1^2)}) \quad (\text{m}^2)$ <p>S : 張りコンクリート面積 (m²) B₁ : 対象構造物の幅 (m) B₂ : 対象構造物の幅 (m) h₁ : 対象構造物の高さ (m) L₁ : 対象構造物の長さ (m) L₂ : 対象構造物の長さ (m)</p>  <p style="text-align: right;">1-4-14</p>		<p style="text-align: center;">新規追加</p>
積算上の注意事項			<p style="text-align: right;">(控え頁) 2/3</p>

工 種	張りコンクリート工
-----	-----------

改正理由	新規改定による追加工種のため	改正 現 行	
現 行	改 正		備 考
<p style="text-align: center;">現行なし</p>	<div style="text-align: center;"> <p>(4) 防草コンクリート(法尻部)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> $S = (L_1 \times \sqrt{B_1^2 + h_1^2}) + (L_2 \times B_2) \quad (\text{m}^2)$ </div> <p>S : 張りコンクリート面積 (m²) B₁ : 対象構造物の幅 (m) B₂ : 対象構造物の幅 (m) h₁ : 対象構造物の高さ (m) L₁ : 対象構造物の長さ (m) L₂ : 対象構造物の長さ (m)</p>  <p>(断面図)</p> <p>(平面図)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(5) 防草コンクリート(排水部)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> $S = L_1 \times B_1 \quad (\text{m}^2)$ </div> <p>S : 張りコンクリート面積 (m²) B₁ : 対象構造物の幅 (m) L₁ : 対象構造物の長さ (m)</p>  <p>(断面図)</p> <p>(平面図)</p> </div> <p style="text-align: right;">1-4-15</p>		<p>新規追加</p>
積算上の注意事項			<p>(控え頁) 3/3</p>

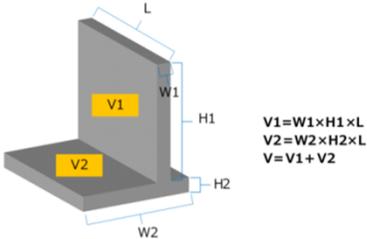
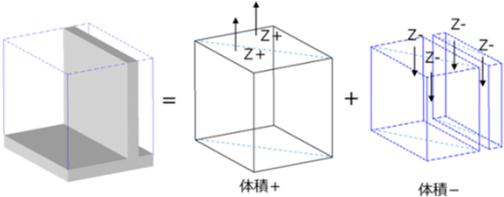
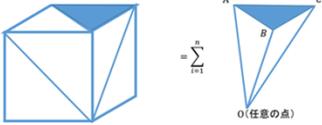
改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																																																																																																			
現	行	改	正																																																																																																																																																																																																																		
<p>6.4 場所打擁壁工</p> <p>6.4.1 場所打擁壁工(1)</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">擁壁工の施工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小型擁壁 (A)、小型擁壁 (B)、重力式擁壁、もたれ式擁壁、逆T型擁壁、L型擁壁、ペーラインコンクリートの数量を区分ごとに算出する。</div> <p>注) 1. 基礎砕石厚さ20cmを超える場合は、「第1編(共通編) 9. 1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」によるものとする。 2. ペーラインコンクリートについては、「第1編(共通編) 4. 1コンクリート工」によるものとする。</p> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、平均擁壁高さ、コンクリート規格、施工条件、鉄筋量、基礎砕石の有無、均しコンクリートの有無、養生工の種類、圧送管延長距離区分とする。</div>		<p>現行どおり</p>																																																																																																																																																																																																																			
<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">平均擁壁高さ</th> <th rowspan="2">コンクリート規格</th> <th rowspan="2">施工条件</th> <th rowspan="2">鉄筋量</th> <th rowspan="2">基礎砕石の有無</th> <th rowspan="2">均しコンクリートの有無</th> <th rowspan="2">養生工の種類</th> <th rowspan="2">圧送管延長距離区分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th colspan="10">属性情報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小型擁壁(A)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小型擁壁(B)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>重力式擁壁</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>もたれ式擁壁</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>逆T型擁壁</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>L型擁壁</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 設計数量は、つま先版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。 2. 基礎砕石の数均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。 3. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。 4. 圧送管延長区分は、6.4.2 場所打擁壁工(2) 3. 区分(3)に準ずる。</p>		項目	区分	平均擁壁高さ	コンクリート規格	施工条件	鉄筋量	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考	3次元モデル	属性情報										小型擁壁(A)		○	○	×	×	○	○	○	×		m ³		小型擁壁(B)		○	○	○	×	○	○	○	×		m ³		重力式擁壁		○	○	×	×	○	○	○	○		m ³		もたれ式擁壁		×	○	×	×	○	○	○	○		m ³		逆T型擁壁		×	○	×	○	○	○	○	○		m ³		L型擁壁		×	○	×	○	○	○	○	○		m ³		<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th rowspan="2">平均擁壁高さ</th> <th rowspan="2">コンクリート規格</th> <th rowspan="2">施工条件</th> <th rowspan="2">鉄筋量</th> <th rowspan="2">基礎砕石の有無</th> <th rowspan="2">均しコンクリートの有無</th> <th rowspan="2">養生工の種類</th> <th rowspan="2">圧送管延長距離区分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th colspan="10">属性情報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小型擁壁(A)</td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小型擁壁(B)</td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>重力式擁壁</td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>もたれ式擁壁</td> <td></td> <td>A</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>逆T型擁壁</td> <td></td> <td>A</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>L型擁壁</td> <td></td> <td>A</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>各項目は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて平均擁壁高さ等を区分することにより「A」を適用する。</p>		項目	区分	3次元モデル	平均擁壁高さ	コンクリート規格	施工条件	鉄筋量	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考	属性情報										小型擁壁(A)		A	○	○	×	×	○	○	○	×		m ³		小型擁壁(B)		A	○	○	○	×	○	○	○	×		m ³		重力式擁壁		A	○	○	×	×	○	○	○	○		m ³		もたれ式擁壁		A	×	○	×	×	○	○	○	○		m ³		逆T型擁壁		A	×	○	×	○	○	○	○	○		m ³		L型擁壁		A	×	○	×	○	○	○	○	○		m ³	
項目	区分														平均擁壁高さ	コンクリート規格	施工条件	鉄筋量	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																												
		3次元モデル	属性情報																																																																																																																																																																																																																		
小型擁壁(A)		○	○	×	×	○	○	○	×		m ³																																																																																																																																																																																																										
小型擁壁(B)		○	○	○	×	○	○	○	×		m ³																																																																																																																																																																																																										
重力式擁壁		○	○	×	×	○	○	○	○		m ³																																																																																																																																																																																																										
もたれ式擁壁		×	○	×	×	○	○	○	○		m ³																																																																																																																																																																																																										
逆T型擁壁		×	○	×	○	○	○	○	○		m ³																																																																																																																																																																																																										
L型擁壁		×	○	×	○	○	○	○	○		m ³																																																																																																																																																																																																										
項目	区分	3次元モデル	平均擁壁高さ	コンクリート規格	施工条件	鉄筋量	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																																								
														属性情報																																																																																																																																																																																																							
小型擁壁(A)		A	○	○	×	×	○	○	○	×		m ³																																																																																																																																																																																																									
小型擁壁(B)		A	○	○	○	×	○	○	○	×		m ³																																																																																																																																																																																																									
重力式擁壁		A	○	○	×	×	○	○	○	○		m ³																																																																																																																																																																																																									
もたれ式擁壁		A	×	○	×	×	○	○	○	○		m ³																																																																																																																																																																																																									
逆T型擁壁		A	×	○	×	○	○	○	○	○		m ³																																																																																																																																																																																																									
L型擁壁		A	×	○	×	○	○	○	○	○		m ³																																																																																																																																																																																																									
積算上の注意事項		(控え頁) 1/3																																																																																																																																																																																																																			

改正理由	一部改正	改正 現行	
現 行	改 正	備 考	
<p>なお、体積の計算において、3次元CAD等を用いる場合は、3次元CADソフト等の自動計算機能により3次元モデルを分割し、各分割の体積算出及び各分割の合計等を自動計算により算出することができるものとする。</p> <p>(参考) 3次元モデルの分割、各分割の合計等の方式の例</p> <p>a) 水平方向等の分割による算出</p> <p>① 3次元モデルを変化点ごとに、XY平面の水平方向の多角錐体に分割後、多角錐体の各体積を合計し算出する。</p>  $V1 = H1 \times 1/6 \times (W1 \times L1 + W1 \times L1 + 4 \times (W1 \times L1))$ $V2 = H2 \times 1/6 \times (W2 \times L2 + W2 \times L2 + 4 \times (W2 \times L2))$ $V = V1 + V2$ <p>② 単純な幾何図形に分割した各体積を基に各体積の和、差等の集合演算により算出する。</p>  $V1 = W1 \times H1 \times L$ $V2 = W2 \times H2 \times L$ $V = V1 + V2$	<p style="text-align: center;">削除</p>	<p style="text-align: center;">記載の削除</p>	
<p>積算上の注意事項</p>			<p style="text-align: right;">(控え頁) 2/3</p>

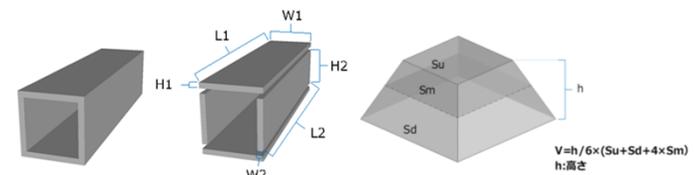
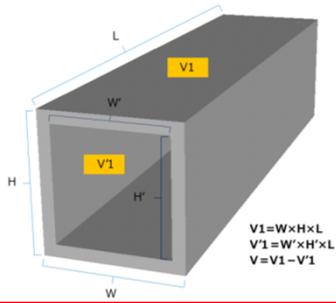
改正理由	一部改正	改正 現行	
現 行	改 正		備 考
<p>b) 三角形分割による算出</p> <p>① 3次元モデル表面を三角形分割し、各面とモデル最下水平面との間の柱体積の合計をモデルの体積とする。この時、面の法線ベクトルのZ成分の符号を柱体積の符号とし、+は加算、-は控除する。</p>  <p>② 3次元モデル表面を三角形分割し、それぞれの三角形に対して、三角形の3点と1点（例えばモデル原点）を結んで作られる三角錐の体積を合計する。</p> <p>計算式</p> $V_{tetra} = \frac{1}{6} ((\vec{OA} \times \vec{OB}) \cdot \vec{OC})$ $V = \sum V_{tetra}$  <p>n: 三角形面の数</p> <p>三角形ABCは表が反時計回りとなるように定める。 三角形面の外側に1点がある場合、計算される体積値は負となるが、その場合、他の三角錐から控除するべき体積であるので、和は全体の体積と等しくなる。</p>	<p>削除</p>		<p>記載の削除</p>
積算上の注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>3/3</p>

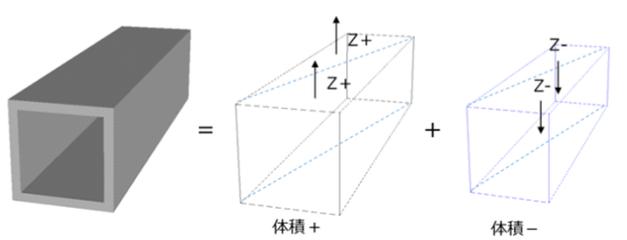
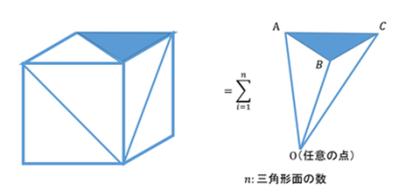
改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																			
	<p>6.4.2 場所打擁壁工(2)</p> <p>1. 適用</p> <p>場所打擁壁工(1)の適用範囲を外れた擁壁工のコンクリート打設に適用する。</p> <p>参考(場所打揚壁工(1)の適用範囲を外れた擁壁工)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重力式擁壁[擁壁平均高さ5mを超えるもの] ・もたれ式擁壁[擁壁平均高さ1mを超え3m未満のもの、或いは8mを超えるもの] ・逆T型擁壁[擁壁平均高さ1mを超え3m未満のもの、或いは10mを超えるもの] ・L型擁壁[擁壁平均高さ1mを超え3m未満のもの、或いは7mを超えるもの] ・重力式擁壁、もたれ式擁壁、逆T型擁壁、L型擁壁以外の形式の現場打擁壁 <p>2. 数量算出項目</p> <p>コンクリート(場所打擁壁)の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、生コンクリート規格、養生工の種類、圧送管延長距離区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="7">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>養生工の種類</th> <th>圧送管延長距離区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート(場所打擁壁)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) コンクリート(場所打擁壁)の養生工の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>養生工の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般養生 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) 仮囲い内ジェットヒータ養生 <p>(3) コンクリート(場所打擁壁)の圧送管延長距離区分は、以下のとおりとする。</p> <p>圧送管延長距離区分</p> <ul style="list-style-type: none"> 延長無し 90m未満 90m以上180m未満 180m以上280m以下 <p>注) 圧送管延長距離区分は、作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合に、超えた部分の延長距離を該当する区分から選択する。</p> <p>1-6-14</p>	項目	区分	属性情報							規格	生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備	コンクリート(場所打擁壁)	○	○	○	○	○	m ³			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="7">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>養生工の種類</th> <th>圧送管延長距離区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート(場所打擁壁)</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「コンクリート(場所打擁壁)」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格等を区分することより「A」を適用する。</p> <p>現行どおり</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報							規格	生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備	コンクリート(場所打擁壁)	A	○	○	○	○	m ³			<p>記載の追加</p>
項目	区分			属性情報																																																		
		規格	生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備																																														
コンクリート(場所打擁壁)	○	○	○	○	○	m ³																																																
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																			
			規格	生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備																																													
コンクリート(場所打擁壁)	A	○	○	○	○	m ³																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 1/3																																																			

改正理由	一部改正	改正 現行																																								
現 行	改 正		備 考																																							
<p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ペーラインコンクリート (材料費)</td> <td>m³</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 4. 1 コンクリート工」参照</td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 4. 2 型枠工」参照</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11. 4 足場工」参照</td> </tr> <tr> <td>基礎材</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>t</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td>m</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>目地板</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記によるものとする。</p> <p>(1) 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断する。</p> <p>(2) 体積の計算において、3次元CAD等を用いる場合は、3次元CADソフト等の自動計算機能により3次元モデルを分割し、各分割の体積算出及び各分割の合計等を自動計算により算出することができるものとする。</p> <p>(参考) 3次元モデルの分割、各分割の合計等の方式の例 a) 水平方向等の分割による算出 ① 3次元モデルを変化点ごとに、XY 平面の水平方向の多角錐体に分割後、多角錐体の各体積を合計し算出する。</p> <p>1-6-15</p>	項目	単位	数量	備考	ペーラインコンクリート (材料費)	m ³		「第1編 (共通編) 4. 1 コンクリート工」参照	型枠	m ²		「第1編 (共通編) 4. 2 型枠工」参照	足場工	掛m ²		「第1編 (共通編) 11. 4 足場工」参照	基礎材	m ²		必要な場合別途計上	均しコンクリート	m ³		必要な場合別途計上	鉄筋工	t		必要な場合別途計上	水抜パイプ	m		必要な場合別途計上	吸出し防止材	m ²		必要な場合別途計上	目地板	m ²		必要な場合別途計上	<p>現行どおり</p> <p>削除</p>	<p>記載の削除</p>
項目	単位	数量	備考																																							
ペーラインコンクリート (材料費)	m ³		「第1編 (共通編) 4. 1 コンクリート工」参照																																							
型枠	m ²		「第1編 (共通編) 4. 2 型枠工」参照																																							
足場工	掛m ²		「第1編 (共通編) 11. 4 足場工」参照																																							
基礎材	m ²		必要な場合別途計上																																							
均しコンクリート	m ³		必要な場合別途計上																																							
鉄筋工	t		必要な場合別途計上																																							
水抜パイプ	m		必要な場合別途計上																																							
吸出し防止材	m ²		必要な場合別途計上																																							
目地板	m ²		必要な場合別途計上																																							
積算上の注意事項			(控え頁) 2/3																																							

改正理由	一部改正	改正 現行	
現 行	改 正		備 考
<p>② 単純な幾何図形に分割した各体積を基に各体積の和、差等の集合演算により算出する。</p>  <p> $V1=W1 \times H1 \times L$ $V2=W2 \times H2 \times L$ $V=V1+V2$ </p> <p>b) 三角形分割による算出</p> <p>① 3次元モデル表面を三角形分割し、各面とモデル最下水平面との間の柱体積の合計をモデルの体積とする。この時、面の法線ベクトルのZ成分の符号を柱体積の符号とし、+は加算、-は控除する。</p>  <p>体積+ 体積-</p> <p>② 3次元モデル表面を三角形分割し、それぞれの三角形に対して、三角形の3点と1点（例えばモデル原点）を結んで作られる三角錐の体積を合計する。</p> <p>計算式</p> $V_{tetra} = \frac{1}{6} ((\vec{OA} \times \vec{OB}) \cdot \vec{OC})$ $V = \sum_{i=1}^n V_{tetra}$  <p> n: 三角形面の数 <small>三角形ABCは表が反時計回りとなるように定める。 三角形面の外側に1点がある場合、計算される体積値は負となるが、 その場合、他の三角錐から控除するべき体積であるので、和は全体の体積と等しくなる。</small> </p>	→ 削除		記載の削除
積算上の注意事項			(控え頁) 3/3

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																	
現	行	改	正																																																																
	<p>7章 函渠工</p> <p>7.1 函渠工</p> <p>7.1.1 函渠工(1)</p> <p>1. 適用</p> <p>以下のいずれかに該当する函渠工（現場打カルバート工）の施工に適用する。</p> <p>(1) 土盛り範囲 9 m以下で 1層の現場打ちボックスカルバート（アーチ等形状は問わない）</p> <p>(2) 土盛り範囲 9 m以下で 1層 2連の現場打ちボックスカルバート</p> <p>(3) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が340m以下の場合</p> <p>また、適用を外れる現場打カルバート工については、函渠工（2）を適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>函渠本体コンクリート（ウイング、段落ち防止用枕を含む）、化粧型枠の数量を区分毎に算出する。</p> <p>また、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、均しコンクリート、目地・止水板（I型）については必要の有無を確認する。</p> <p>注）1. 基礎砕石（敷均し厚20cmを超える場合）については、「第1編（共通編）9. 1 基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」によるものとする。</p> <p>2. 目地・止水板（I型以外の形状）については、別途考慮するものとする。</p> <p>3. 冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編（共通編）11. 6. 2 雪寒仮囲い工」によるものとする。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、コンクリート規格、内空寸法、養生工の種類、基礎砕石の有無、均しコンクリートの有無、目地・止水板の有無、圧送管延長距離とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="241 1070 969 1270"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="10">区分</th> </tr> <tr> <th>コンクリート規格</th> <th>内空寸法</th> <th>養生工の種類</th> <th>基礎砕石の有無</th> <th>均しコンクリートの有無</th> <th>目地・止水板の有無</th> <th>圧送管延長距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>函 渠</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1-7-2</p> <p>次頁から移動</p>	項目	区分										コンクリート規格	内空寸法	養生工の種類	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	目地・止水板の有無	圧送管延長距離	単位	数量	備考	函 渠	○	○	○	○	○	○	○	m ³	○		<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1200 1070 1850 1214"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="7">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>コンクリート規格</th> <th>内空寸法</th> <th>養生工の種類</th> <th>基礎砕石の有無</th> <th>均しコンクリートの有無</th> <th>目地・止水板の有無</th> <th>圧送管延長距離</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>函 渠</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「函渠」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いてコンクリート規格等を区分することより「A」を適用する。</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。</p> <p>記載の追加</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報							単位	数量	備考	コンクリート規格	内空寸法	養生工の種類	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	目地・止水板の有無	圧送管延長距離	函 渠	A	○	○	○	○	○	○	○	m ³			備考
項目	区分																																																																		
	コンクリート規格	内空寸法	養生工の種類	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	目地・止水板の有無	圧送管延長距離	単位	数量	備考																																																									
函 渠	○	○	○	○	○	○	○	m ³	○																																																										
項目	区分	3次元モデル	属性情報							単位	数量	備考																																																							
			コンクリート規格	内空寸法	養生工の種類	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	目地・止水板の有無	圧送管延長距離																																																										
函 渠	A	○	○	○	○	○	○	○	m ³																																																										
積算上の注意事項		(控え頁) 1/3																																																																	

改正理由	一部改正	改正 現行	
現 行	改 正	備 考	
<p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。</p> <p>なお、体積の計算において、3次元CAD等を用いる場合は、3次元CADソフト等の自動計算機能により3次元モデルを分割し、各分割の体積算出及び各分割の合計等を自動計算により算出することができるものとする。</p> <p>(参考) 3次元モデルの分割、各分割の合計等の方式の例</p> <p>a) 水平方向等の分割による算出</p> <p>① 3次元モデルを変化点ごとに、XY平面の水平方向の多角錐体に分割後、多角錐体の各体積を合計し算出する。</p>  <p> $V = h / 6 \times (Su + Sd + 4 \times Sm)$ h: 高さ Su: 上面面積 Sm: 中間面積 Sd: 下面面積 </p> <p> $V1 = H1 \times 1 / 6 \times (W1 \times L1 + W1 \times L1 + 4 \times (W1 \times L1))$ $V2 = H2 \times 1 / 6 \times (W2 \times L2 + W2 \times L2 + 4 \times (W2 \times L2))$ $V = 2 \times V1 + 2 \times V2$ </p> <p>② 単純な幾何図形に分割した各体積を基に各体積の和、差等の集合演算により算出する。</p>  <p> $V1 = W \times H \times L$ $V'1 = W' \times H' \times L$ $V = V1 - V'1$ </p> <p>1-7-3</p>	<p>→ 前頁へ移動</p> <p>→ 削除</p>	<p>記載の削除</p>	
積算上の注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>2/3</p>

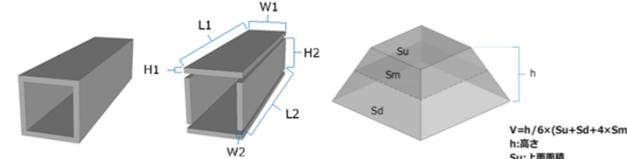
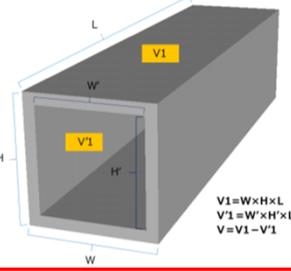
改 正 理 由	一 部 改 正	改 正 現 行	備 考
現	行	改 正	備 考
<p>b) 三角形分割による算出</p> <p>① 3次元モデル表面を三角形分割し、各面とモデル最下水平面との間の柱体積の合計をモデルの体積とする。この時、面の法線ベクトルのZ成分の符号を柱体積の符号とし、+は加算、-は控除する。</p>  <p>② 3次元モデル表面を三角形分割し、それぞれの三角形に対して、三角形の3点と1点（例えばモデル原点）を結んで作られる三角錐の体積を合計する。</p> <p>計算式</p> $V_{tetra} = \frac{1}{6} ((\vec{OA} \times \vec{OB}) \cdot \vec{OC})$ $V = \sum V_{tetra}$  <p style="font-size: small;">n: 三角形面の数</p> <p style="font-size: x-small;">三角形ABCは表が反時計回りとなるように定める。 三角形面の外側に1点がある場合、計算される体積値は負となるが、 その場合、他の三角錐から控除するべき体積であるので、和は全体の体積と等しくなる。</p>		削除	記載の削除
積算上の注意事項			(控え頁) 3/3

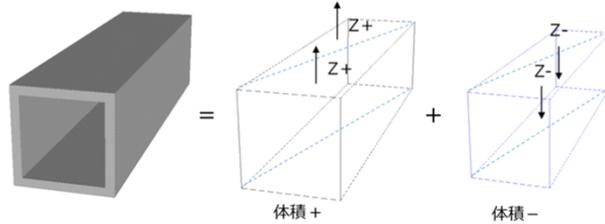
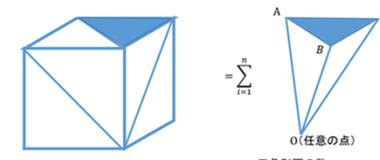
改正理由	一部改正	改正 現行																																														
現	行	改	正																																													
<p>7.1.2 函渠工(2)</p> <p>1. 適用</p> <p>函渠工(1)の適用範囲を外れた函渠工コンクリート打設に適用する。</p> <p>参考(函渠工(1)の適用範囲を外れた函渠工)</p> <p>河川工事で施工する函渠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樋門・樋管(函渠(門柱等含む)、翼壁、水叩)、ボックス形式の水路等 <p>道路工事で施工する函渠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボックスカルバート以外の函渠 ・1層又は1層2連以外の函渠 ・土被りが9mを超える函渠 ・「第1編(共通編)7.1.1 函渠工(1)」の適用範囲を外れる函渠(下図参照) <p style="text-align: center;">函渠工(1)適用範囲</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>コンクリート(場所打函渠)の体積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、生コンクリート規格、養生工の種類、圧送管延長距離区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">生コンクリート規格</th> <th rowspan="2">養生工の種類</th> <th rowspan="2">圧送管延長距離区分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート(場所打函渠)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	区分	規格	生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考	3次元モデル	属性情報			コンクリート(場所打函渠)	○	○	○	○	○	m ³			<p>現行どおり</p>		<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">生コンクリート規格</th> <th rowspan="2">養生工の種類</th> <th rowspan="2">圧送管延長距離区分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート(場所打函渠)</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「コンクリート(場所打函渠)」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格等を区分することより「A」を適用する。</p>	項目	区分	規格	生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考	3次元モデル	属性情報			コンクリート(場所打函渠)	A	○	○	○	○	m ³		
項目	区分										規格	生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考																															
		3次元モデル	属性情報																																													
コンクリート(場所打函渠)	○	○	○	○	○	m ³																																										
項目	区分	規格	生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考																																								
									3次元モデル	属性情報																																						
コンクリート(場所打函渠)	A	○	○	○	○	m ³																																										
積算上の注意事項			記載の追加																																													
			(控え頁) 1/4																																													

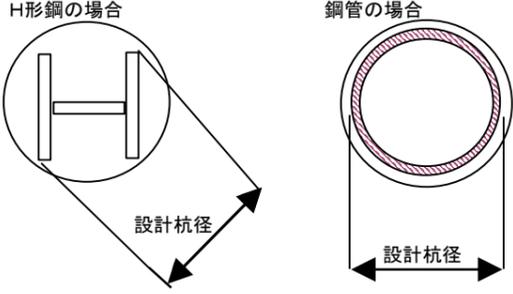
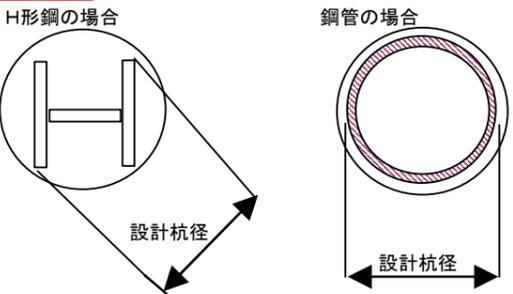
改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																												
	<p style="text-align: center;">現 行</p> <p>(2) コンクリート（場所打函渠）の養生工の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>養生工の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> — 一般養生 — 特殊養生（練炭・ジェットヒータ） — 仮囲い内ジェットヒータ養生 <p>(3) コンクリート（場所打函渠）の圧送管延長距離区分は、以下のとおりとする。</p> <p>圧送管延長距離区分</p> <ul style="list-style-type: none"> — 延長無し — 110m未満 — 110m以上 220m未満 — 220m以上 340m以下 <p>注) 圧送管延長距離区分は、作業範囲（30m）を超えて圧送管を延長する場合に、超えた部分の延長距離を該当する区分から選択する。</p> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型枠</td> <td>m²</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4. 2型枠工」参照</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4. 3. 1鉄筋工」参照</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）11. 4足場工」参照</td> </tr> <tr> <td>支保工</td> <td>空m³</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）11. 5支保工」参照</td> </tr> <tr> <td>基礎材</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td>m</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>目地板</td> <td>m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>止水板</td> <td>m</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">1-7-6</p>	項目	単位	数量	備考	型枠	m ²		「第1編（共通編）4. 2型枠工」参照	鉄筋工	t		「第1編（共通編）4. 3. 1鉄筋工」参照	足場工	掛m ²		「第1編（共通編）11. 4足場工」参照	支保工	空m ³		「第1編（共通編）11. 5支保工」参照	基礎材	m ²		必要な場合別途計上	均しコンクリート	m ³			水抜パイプ	m		必要な場合別途計上	吸出し防止材	m ²		必要な場合別途計上	目地板	m ²		必要な場合別途計上	止水板	m		必要な場合別途計上	<p>現行どおり</p>	
項目	単位	数量	備考																																												
型枠	m ²		「第1編（共通編）4. 2型枠工」参照																																												
鉄筋工	t		「第1編（共通編）4. 3. 1鉄筋工」参照																																												
足場工	掛m ²		「第1編（共通編）11. 4足場工」参照																																												
支保工	空m ³		「第1編（共通編）11. 5支保工」参照																																												
基礎材	m ²		必要な場合別途計上																																												
均しコンクリート	m ³																																														
水抜パイプ	m		必要な場合別途計上																																												
吸出し防止材	m ²		必要な場合別途計上																																												
目地板	m ²		必要な場合別途計上																																												
止水板	m		必要な場合別途計上																																												
積算上の注意事項			(控え頁) 2/4																																												

次頁から移動

4. 数量算出方法
 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。
 (1) コンクリート（場所打函渠）の数量は、ウイング、段落ち防止用枕を含む本体コンクリートの数量とする。

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	<p style="text-align: center;">現 行</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) コンクリート（場所打函渠）の数量は、ウイング、段落ち防止用枕を含む本体コンクリートの数量とする。</p> </div> <p style="text-align: right;">→ 前頁へ移動</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>(2) 体積の計算において、3次元CAD等を用いる場合は、3次元CADソフト等の自動計算機能により3次元モデルを分割し、各分割の体積算出及び各分割の合計等を自動計算により算出することができるものとする。-</p> <p>(参考) 3次元モデルの分割、各分割の合計等の方式の例</p> <p>a) 水平方向等の分割による算出</p> <p>① 3次元モデルを変化点ごとに、XY 平面の水平方向の多角錐体に分割後、多角錐体の各体積を合計し算出する。</p>  <p> $V = h/6 \times (Su + Sd + 4 \times Sm)$ h:高さ Su:上面面積 Sm:中間面積 Sd:下面面積 </p> <p> $V1 = H1 \times 1/6 \times (W1 \times L1 + W1 \times L1 + 4 \times (W1 \times L1))$ $V2 = H2 \times 1/6 \times (W2 \times L2 + W2 \times L2 + 4 \times (W2 \times L2))$ $V = 2 \times V1 + 2 \times V2$ </p> <p>② 単純な幾何図形に分割した各体積を基に各体積の和、差等の集合演算により算出する。</p>  <p> $V1 = W \times H \times L$ $V'1 = W' \times H' \times L'$ $V = V1 - V'1$ </p> <p style="text-align: center;">1-7-7</p> </div> <p style="text-align: right;">→ 削除</p>		記載の削除
積算上の注意事項			(控え頁) 3/4

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	<p style="text-align: center;">現 行</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>b) 三角形分割による算出</p> <p>① 3次元モデル表面を三角形分割し、各面とモデル最下水平面との間の柱体積の合計をモデルの体積とする。この時、面の法線ベクトルのZ成分の符号を柱体積の符号とし、+は加算、-は控除する。</p>  <p>② 3次元モデル表面を三角形分割し、それぞれの三角形に対して、三角形の3点と1点（例えばモデル原点）を結んで作られる三角錐の体積を合計する。</p> <p>計算式</p> $V_{tetra} = \frac{1}{6} ((\vec{OA} \times \vec{OB}) \cdot \vec{OC})$ $V = \sum V_{tetra}$  <p style="font-size: small;">n: 三角形面の数</p> <p style="font-size: x-small;">三角形ABCは表が反時計回りとなるように定める。 三角形面の外側に1点がある場合、計算される体積値は負となるが、その場合、他の三角錐から控除するべき体積であるので、和は全体の体積と等しくなる。</p> </div> <p style="text-align: center;">1-7-8</p>	削除	記載の削除
積算上の注意事項			(控え頁) 4 / 4

改正理由	土木工事積算基準書改定に伴い一部改正	改正 現 行																																																				
現 行	改 正	備 考																																																				
<p>(4) 大口径ボーリングマシン工 別紙-1の数量のほか下記の項目について算出する。</p> <p>1) H形鋼を使用する場合は、H形鋼の対角線長とし、鋼管を使用する場合の設計杭径は鋼管の外径とし、とし数量を算出する。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>※ 掘削長=杭長=材料長</p> <p>2) 土質区分別掘削長(1本当り) 杭打込長の最小単位は、0.1mを標準とする。</p> <table border="1" data-bbox="368 1136 1205 1310"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th colspan="3">杭種別</th> <th colspan="5">土質区分</th> </tr> <tr> <th>モルタル杭 (H鋼)</th> <th>モルタル杭 (鋼管)</th> <th>コンクリート杭 (鋼管)</th> <th>レキ質土・軟岩 (I)</th> <th>砂及び砂質土・粘性土</th> <th>岩塊玉石</th> <th>軟岩 (II)</th> <th>硬岩</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削長(m)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>3) モルタルおよびコンクリート量</p> <p>a) モルタルを使用する場合 $Q = \pi/4 \times D^2 \times L$ Q : モルタル使用量……………(m³/本) D : H形鋼の場合は削孔径……………(m) 鋼管の場合は設計杭径 L : 打設長……………(m)</p> <p>b) コンクリート(生コン)を使用する場合 $Q1 = \pi/4 \times (D1^2 - D^2) \times L$ $Q2 = \pi/4 \times D^2 \times L$ Q1 : モルタル使用量……………(m³/本) Q2 : 中詰コンクリート使用量……………(m³/本) D : 設計杭径……………(m) D1 : 削孔径……………(m) L : 打設長……………(m)</p>	区分 項目	杭種別			土質区分					モルタル杭 (H鋼)	モルタル杭 (鋼管)	コンクリート杭 (鋼管)	レキ質土・軟岩 (I)	砂及び砂質土・粘性土	岩塊玉石	軟岩 (II)	硬岩	掘削長(m)	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>(4) 大口径ボーリングマシン工 別紙-1の数量のほか下記の項目について算出する。</p> <p>1) H形鋼を使用する場合の設計杭径は、H形鋼の対角線長とし、鋼管を使用する場合の設計杭径は鋼管の外径として、とし数量を算出する。なお、設計杭径については小数第1位以下を四捨五入して算出する。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>※ 杭長=材料長、掘削長=打設長</p> <p>2) 土質区分別掘削長(1本当り) 杭打込長の最小単位は、0.1mを標準とする。</p> <table border="1" data-bbox="1635 1136 2472 1310"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th colspan="3">杭種別</th> <th colspan="5">土質区分</th> </tr> <tr> <th>モルタル杭 (H形鋼)</th> <th>モルタル杭 (鋼管)</th> <th>コンクリート杭 (鋼管)</th> <th>レキ質土・軟岩 (I)</th> <th>砂及び砂質土・粘性土</th> <th>岩塊玉石</th> <th>軟岩 (II)</th> <th>硬岩</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削長(m)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>3) 杭1本当りモルタルおよびコンクリート使用量</p> <p>a) モルタルを使用する場合 $Q = \pi/4 \times D^2 \times L$ Q : モルタル使用量……………(m³/本) D : H形鋼の場合は削孔径……………(m) 鋼管の場合は設計杭径 L : 打設長……………(m)</p> <p>b) コンクリート(生コン)を使用する場合 $Q1 = \pi/4 \times (D1^2 - D^2) \times L$ $Q2 = \pi/4 \times D^2 \times L$ Q1 : モルタル使用量……………(m³/本) Q2 : 中詰コンクリート使用量……………(m³/本) D : 設計杭径……………(m) D1 : 削孔径……………(m) L : 打設長……………(m)</p>	区分 項目	杭種別			土質区分					モルタル杭 (H形鋼)	モルタル杭 (鋼管)	コンクリート杭 (鋼管)	レキ質土・軟岩 (I)	砂及び砂質土・粘性土	岩塊玉石	軟岩 (II)	硬岩	掘削長(m)	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>語句の修正</p> <p>語句の修正</p> <p>語句の修正</p> <p>語句の修正</p> <p>語句の修正</p>
区分 項目		杭種別			土質区分																																																	
	モルタル杭 (H鋼)	モルタル杭 (鋼管)	コンクリート杭 (鋼管)	レキ質土・軟岩 (I)	砂及び砂質土・粘性土	岩塊玉石	軟岩 (II)	硬岩																																														
掘削長(m)	○	○	○	○	○	○	○	○																																														
区分 項目	杭種別			土質区分																																																		
	モルタル杭 (H形鋼)	モルタル杭 (鋼管)	コンクリート杭 (鋼管)	レキ質土・軟岩 (I)	砂及び砂質土・粘性土	岩塊玉石	軟岩 (II)	硬岩																																														
掘削長(m)	○	○	○	○	○	○	○	○																																														
積算上の注意事項	1-9-13	(控え頁) 1/3																																																				

改正理由	土木工事積算基準書改定に伴い一部改正		改正 現行	
	現行	改正		備考
	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>4) 削孔径 鋼管を使用する場合は、削孔径 (m) を算出する。</p> <p>5) 溶接回数 継杭の場合は、1本当たりの溶接回数 (回) を算出する。 また、鋼管の場合は鋼管版厚を算出する。</p> </div>	→	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>4) 削孔径H形鋼等 鋼管を使用する場合は、削孔径H形鋼・鋼管材料長 (m) を算出する。</p> <p>5) 溶接回数 継杭の場合は、1本当たりの溶接回数 (回) を算出する。 また、鋼管の場合は鋼管版厚を算出する。</p> </div>	語句の修正
積算上の注意事項	1-9-14			(控え頁) 2/3

改正理由	土木工事積算基準書改定に伴い一部改正	改正 現 行	
------	--------------------	-----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

別紙-1

(1) 場所打杭

工 種	種 別	杭 径	杭 長	杭 1 本 当 り												杭 総 本 数														
				鉄 筋										コンクリート	モルタル		モルタル規格	中詰材規格	H形鋼規格	鋼管規格	管取	杭頭処理	継材の有無							
				D=13	D=16	16≤D≤25	29≤D≤32	D=35	D=38	D=41	D=51	計	種類											種類						
種 門	本 体	mm	m	Kg	Kg	Kg	Kg	Kg	kg	Kg	Kg	Kg	Kg	m3		m3												m3	本	
種 管	胸 壁																													
水 門	翼 壁																													
排 水 機	水 叩																													
	調 圧 槽																													
	沈砂池																													
橋 梁	橋 台																													
	橋 脚																													
擁 壁																														
山 留																														
地すべり抑止																														

注) 1. 杭の種類に応じて必要材料の算出を行う。
 2. 杭頭鉄筋の鉄筋量は鉄筋規格・径別に集計する。
 3. 橋梁については、各橋台・橋脚ごとに集計する。
 4. 掘削残土については、第1編2章土工により別途算出する。
 5. 泥水については別途算出する。

別紙-1

(1) 場所打杭

工 種	種 別	杭 径	杭 長	杭 1 本 当 り												杭 総 本 数															
				鉄 筋										コンクリート	モルタル		モルタル規格	中詰材規格	H形鋼規格	鋼管規格	管取	杭頭処理	継材の有無								
				D=13	D=16	16≤D≤25	29≤D≤32	D=35	D=38	D=41	D=51	計	種類											種類							
種 門	本 体	mm	m	Kg	Kg	Kg	Kg	Kg	kg	Kg	Kg	Kg	Kg	m3		m3															
種 管	胸 壁																														
水 門	翼 壁																														
排 水 機	水 叩																														
	調 圧 槽																														
	沈砂池																														
橋 梁	橋 台																														
	橋 脚																														
擁 壁																															
山 留																															
地すべり抑止																															
基礎杭																															

注) 1. 杭の種類に応じて必要材料の算出を行う。
 2. 杭頭鉄筋の鉄筋量は鉄筋規格・径別に集計する。
 3. 橋梁については、各橋台・橋脚ごとに集計する。
 4. 掘削残土については、第1編2章土工により別途算出する。
 5. 泥水については別途算出する。

欄の追加

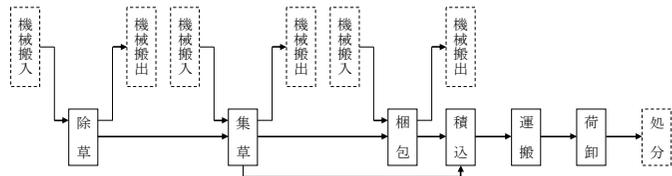
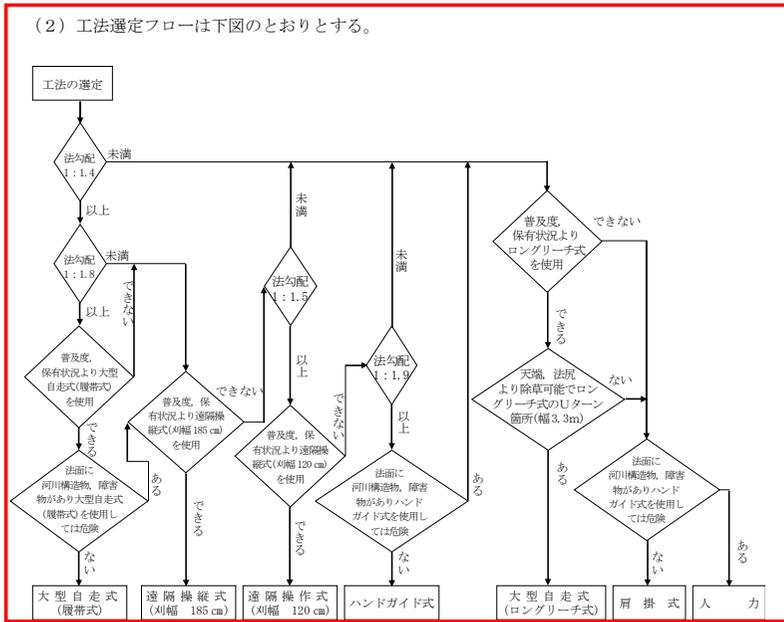
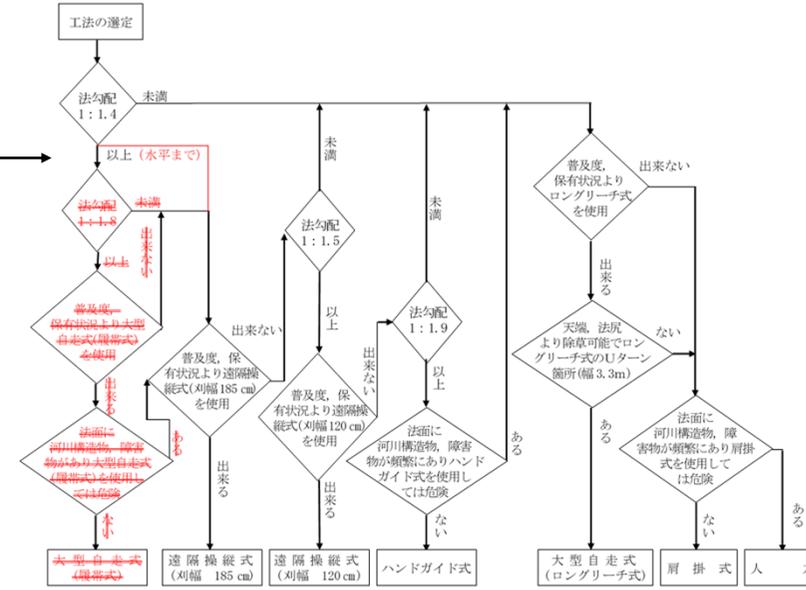
積算上の注意事項		(控え頁) 3/3
----------	--	--------------

改正理由	一部改正		改正 現行											
現 行	改 正			備 考										
<p>11.6.2 雪寒仮囲い工</p> <p>1. 適用</p> <div data-bbox="264 432 902 496" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 積雪寒冷地の冬期における土木建造物の施工において、平均設置高30m以下の「雪寒仮囲い」の設置及び撤去に適用する。なお、小型建造物には適用しない。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div data-bbox="264 555 607 592" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 雪寒仮囲いの面積を区分毎に算出する。 </div> <p>3. 区分</p> <div data-bbox="264 651 607 687" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 区分は、雪寒仮囲いの構造形式とする。 </div> <p>(1)数量算出項目一覧表</p> <table border="1" data-bbox="264 746 701 839"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>構造形式</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雪寒仮囲い</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)構造形式区分 下記のとおり、構造形式ごとに区分して算出する。 ①Pタイプ ②Wタイプ ③PWタイプ</p> <p>※さらに、「②Wタイプ、③PWタイプ」については、枠組足場と枠組足場以外で数量を区分すること。</p> <p style="text-align: center;">1-11-27</p>	項目	区分	構造形式	単位	数 量	備 考	雪寒仮囲い	○		m ²			<p>11.6.2 雪寒仮囲い工</p> <p>1. 適用</p> <div data-bbox="1178 432 1821 512" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 積雪寒冷地の冬期における土木建造物の施工において、平均設置高30m以下の「雪寒仮囲い」の設置及び撤去に適用する。なお、<u>Pタイプで設置高4mを超える場合</u>、小型建造物には適用しない。 </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	<p>積算基準の改定に伴う記載の追加</p>
項目	区分	構造形式	単位	数 量	備 考									
雪寒仮囲い	○		m ²											
積算上の注意事項				(控え頁) 1/1										

改正理由	一部改正	改正 現行	備考												
	<p style="text-align: center;">現 行</p> <p>(3) グラウト注入の規格はその配合を1m²当りで算出し、アンカー1本当りのグラウト注入量も算出する。</p> <p>アンカー1本当りに必要なグラウト注入量は、次式を標準とする。</p> $V = \frac{D^2 \times \pi}{4 \times 10^6} \times L \times (1 + K)$ <p style="margin-left: 40px;">V: グラウト注入量 (m³) D: 削孔径 (mm) L: 削孔長 (m) K: 補正係数 (= 0.4)</p> <p>(4) 垂直高</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項 目</th> <th colspan="2">法面垂直高による区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場条件Ⅰ</td> <td>① 3.0m以下</td> <td>② 3.0mを超える</td> </tr> <tr> <td>現場条件Ⅱ</td> <td>① 4.0m以下</td> <td>② 4.0mを超える</td> </tr> <tr> <td>現場条件Ⅲ</td> <td>① 4.0m以下</td> <td>② 4.0mを超える</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 法面垂直高さとは、法面下部からの高さである。</p> <p>(5) 仮設足場 仮設足場は現場条件(Ⅱ)の場合で、必要な場所に計上する。 又、作業面の足場幅は2.0mを標準とする。</p> <p>(6) 削孔機械の上下移動 削孔機械の上下移動は現場条件(Ⅱ)の場合で、必要な場所に計上する。</p> <p style="text-align: center;">1-11-40</p>	項 目	法面垂直高による区分		現場条件Ⅰ	① 3.0m以下	② 3.0mを超える	現場条件Ⅱ	① 4.0m以下	② 4.0mを超える	現場条件Ⅲ	① 4.0m以下	② 4.0mを超える	<p style="text-align: center;">改 正</p> <p style="text-align: center;">現 行</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	<p style="text-align: center;">備 考</p> <p style="text-align: center;">積算基準の改定に伴う足場幅の修正</p>
項 目	法面垂直高による区分														
現場条件Ⅰ	① 3.0m以下	② 3.0mを超える													
現場条件Ⅱ	① 4.0m以下	② 4.0mを超える													
現場条件Ⅲ	① 4.0m以下	② 4.0mを超える													
注意事項			(控え頁) 1/1												

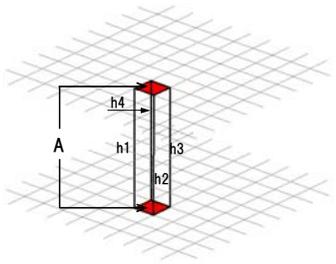
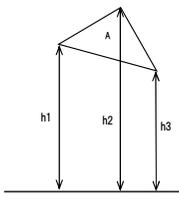
改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																		
現	行	改	正																																																																																																	
<p>2章 樋門・樋管</p> <p>2.1 軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管</p> <p>1. 適用</p> <p>軟弱地盤上の河川堤防内に設置するPCプレキャスト構造の樋門・樋管に適用する。但し、特殊な構造の樋管や函体の沈下を許容することが困難な樋管等については適用しない。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>プレキャストブロック数、目地の箇所数、PCケーブル組立、グラウト注入延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレキャストブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>ブロック</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地</td> <td></td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>PCケーブル組立</td> <td></td> <td>○</td> <td>式</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>グラウト</td> <td></td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td>シース延長</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分 目地の箇所数を目地の材質によって区分して算出する。</p> <p>目地材質 — 無収縮モルタル — ゴム</p> <p>無収縮モルタルの使用量は1㎡当たり0.06m³とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCケーブル</td> <td></td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td>ロス率 5%</td> </tr> <tr> <td>シース</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>ロス率 6%</td> </tr> <tr> <td>定着装置</td> <td></td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>PCケーブル組立</td> <td></td> <td>×</td> <td>ケーブル数</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ケーブル延長は定着装置内面間の実延長とし、シースは実長より算出する。なお、ロス率は含まない数量とする。</p> <p style="text-align: center;">2-2-2</p>		項目	区分	規格	単位	数量	備考	プレキャストブロック		○	ブロック			目地		○	箇所			PCケーブル組立		○	式			グラウト		×	m		シース延長	項目	区分	規格	単位	数量	備考	PCケーブル		○	kg		ロス率 5%	シース		○	m		ロス率 6%	定着装置		○	個			PCケーブル組立		×	ケーブル数			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">3次元モデル</th> <th colspan="2">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレキャストブロック</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>ブロック</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>PCケーブル組立</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>式</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>グラウト</td> <td>B</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td>シース延長</td> </tr> </tbody> </table> <p>「プレキャストブロック」は、3次元モデルより必要ブロック数をカウントし、属性情報より規格を区分することより「A」を適用する。 「目地」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と箇所数を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「PCケーブル組立」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置とPCケーブル延長等を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「グラウト」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出することより「B」を適用する。</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元モデル				属性情報		規格	単位	数量	備考	プレキャストブロック	A	○	ブロック			目地	B	○	箇所			PCケーブル組立	B	○	式			グラウト	B	×	m		シース延長	記載の追加
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																															
プレキャストブロック		○	ブロック																																																																																																	
目地		○	箇所																																																																																																	
PCケーブル組立		○	式																																																																																																	
グラウト		×	m		シース延長																																																																																															
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																															
PCケーブル		○	kg		ロス率 5%																																																																																															
シース		○	m		ロス率 6%																																																																																															
定着装置		○	個																																																																																																	
PCケーブル組立		×	ケーブル数																																																																																																	
項目	区分	3次元モデル				属性情報																																																																																														
		規格	単位	数量	備考																																																																																															
プレキャストブロック	A	○	ブロック																																																																																																	
目地	B	○	箇所																																																																																																	
PCケーブル組立	B	○	式																																																																																																	
グラウト	B	×	m		シース延長																																																																																															
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																																	

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
現 行	改 正	備 考	
<p>(2) 除草機種による区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 除草機種 <ul style="list-style-type: none"> — 大型自走式（ロングリーチ式） — 大型自走式（履帯式） — 遠隔操縦式（刈幅185cm） — 遠隔操縦式（刈幅120cm） — ハンドガイド式（刈幅150cm） — 肩掛式（カッタ径255mm） — 人力 <p>(3) 飛散防止措置による区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛散防止措置 <ul style="list-style-type: none"> — 有り — 無し <p>(4) 集草機種による区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 集草機種 <ul style="list-style-type: none"> — 大型自走式（履帯式） — 遠隔操縦式（集草幅180cm） — 遠隔操縦式（集草幅160cm） — ハンドガイド式（集草幅200cm） — 人力 <p>(5) 積込・荷卸における機種による区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 機種 <ul style="list-style-type: none"> — ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2 t 積級）（梱包無し） — ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2 t 積級）（梱包有り） — バッカー車（回転式・積載容量8 m³） <p>(6) 運搬機械による区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 機種 <ul style="list-style-type: none"> — ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2 t 積級） — バッカー車（回転式・積載容量8 m³） <p>(7) 梱包の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 梱包の有無 <ul style="list-style-type: none"> — 梱包有り — 梱包無し <p>(8) DID 区間の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> DID 区間の有無 <ul style="list-style-type: none"> — 無し — 有り <p style="text-align: center;">2-4-3</p>	<p>(2) 除草機種による区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 除草機種 <ul style="list-style-type: none"> — 大型自走式（ロングリーチ式） — 大型自走式（履帯式） — 遠隔操縦式（刈幅185cm） — 遠隔操縦式（刈幅120cm） — ハンドガイド式（刈幅150cm） — 肩掛式（カッタ径255mm） — 人力 <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>(4) 集草機種による区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 集草機種 <ul style="list-style-type: none"> — 大型自走式（履帯式） — 遠隔操縦式（集草幅180cm） — 遠隔操縦式（集草幅160cm） — ハンドガイド式（集草幅200cm） — 人力 <p style="text-align: center;">現行どおり</p>	<p>積算基準の改定に伴う記載の削除</p> <p>積算基準の改定に伴う記載の削除</p>	
積算上の注意事項		（控え頁）	1 / 2

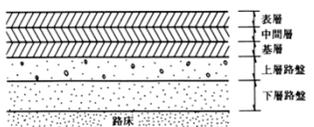
改正理由	一部改正	改正 現行	備 考
	<p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。</p> <p>5. 参考図 (1) 標準施工フローは下図のとおりとする。</p>  <p>(2) 工法選定フローは下図のとおりとする。</p> 	<p>現行どおり</p> <p>(2) 工法選定フローは下図のとおりとする。</p> 	<p>積算基準の改定に伴う記載の削除</p>
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2

2-4-4

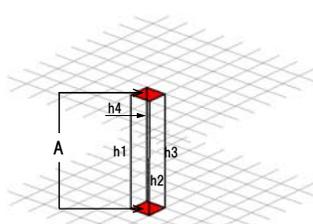
改正理由	一部改正	改正 現行																									
現	行	改	正																								
<p>1章 舗装工</p> <p>1.1 不陸整正</p> <p>1. 適用</p> <p>アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>路床及び路盤の不陸整正の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、補足材料の有無、補足材料平均厚さ、補足材料の規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>補足材料の有無</th> <th>補足材料平均厚さ</th> <th>補足材料の規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不陸整正</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>不陸整正 (ICT)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに3次元設計データ若しくは不陸整正の3次元計測データがある場合における補修材の平均厚さの算出は、以下のとおりとする。 平均厚さ=体積/面積 体積については、3次元CADソフト等を用いた場合、以下の方式によることを標準とする。 3次元CADソフト等を用いたa)~c)の方式 数量算出に用いる3次元点群座標データは、50cm間隔以下の点密度とする。ただし、植生等により測定した点が正しく地表を捉えられず、標準の点密度の取得が困難な場合には、この限りでない。</p> <p>a) 点高法 現況地形や出来形計測結果等（出来形計測データ、起工測量計測データ）からなる2つの面データに重ね合わせたメッシュ（等間隔）交点で標高を算出し、標高差にメッシュ間隔の面積を乗じたものを総和する。メッシュ間隔は50cm以内とし、標高差の算出には、以下の方法とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4点平均法：メッシュ交点の四隅の標高差を平均する方法（下図のとおり） ・1点法：メッシュ交点にて標高差を算出する方法 		項目	区分	補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料の規格	単位	数量	備考	不陸整正		○	○	○	m ²			不陸整正 (ICT)		○	○	○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>削除</p> <p>(2) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに3次元設計データ若しくは不陸整正の3次元計測データがある場合における補修材の平均厚さの算出は、以下のとおりとする。 平均厚さ=体積/面積 体積については、3次元CAD等を用いた場合、1.10 3次元モデルの基本的な表現方法によることを標準とする。</p>	<p>備考</p> <p>記載の修正・削除</p> <p>記載の削除</p>
項目	区分	補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料の規格	単位	数量	備考																				
不陸整正		○	○	○	m ²																						
不陸整正 (ICT)		○	○	○	m ²																						
積算上の注意事項			(控え頁) 1/3																								

改正理由	一部改正	改正 現行	
現 行	改 正		備 考
<div data-bbox="232 399 965 1339" style="border: 2px solid red; padding: 10px;">  <p style="text-align: center;">$V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3 + h4)}{4}$</p> <p>b) TIN分割等を用いて求積する方法 現況地形や出来形計測結果等（出来形計測データ、起工測量計測データ）からそれぞれの面データとしてTINからなる面データを作成したうえで、ある一定の標高値にてDL面（標高基準面）を設定し、各TINの水平投影面積と、TINを構成する各点からDL面までの高低差の平均（平均高低差）を乗じた体積を総和する。 なお、TINとは Triangular Irregular Network の略。TINは、標高データを補間する最も一般的なデジタルデータ構造である。TINは、多くの点を3次元上の直線で繋いで三角形の頂点の組合せで面（サーフェス）を形成する。</p> <div style="text-align: center;">  <p>A : サーフェスを構成するTINの水平面積 h1~h3 : Tinを構成する各点からDL面までの高低差 DL面 : 体積計算を行なうための基準となる標高面</p> <p style="text-align: center;">$V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3)}{3}$</p> <p>▽ DL面（標高基準面）：DL=〇〇.〇〇m</p> </div> <p>c) プリズモイダル法 現況地形や出来形計測結果等（出来形計測データ、起工測量計測データ）からそれぞれの面データとしてTINからなる面データを作成し、面データのポイントの位置を互いの面データに投影する。次に各面データから、本来の自身が持つポイントと相手のポイントを合わせたポイント位置により新たな三角網を形成し、この三角網の結節点の位置での標高差に基づき複合した面データの標高を計算する。面データの各TINを構成する点をそれぞれの面データに投影すると、各面データに同じ水平位置で標高の異なる点を作成されるので、その作成された点で再度面データを構築し、三角形水平面積と高低差を乗じた体積を総和する。</p> <p style="text-align: center;">3-1-3</p> </div>	<p>削除</p>	<p>記載の削除</p>	
積算上の注意事項			<p>（控え頁） 2/3</p>

改正理由	一部改正		改正 現行	
現 行	改 正			備 考
<div data-bbox="197 395 969 863" data-label="Diagram"> <p>上部サーフェスおよび下部サーフェスの TIN エッジを組み合わせて複合サーフェスが作成される</p> <p>TIN ラインが交差する部分には、複合サーフェスを作成するための TIN ラインが新たに追加される</p> <p>平面図</p> <p>追加された TIN ライン</p> <p>複合 TIN ラインから作成された楕柱を基に、複合土量計算される</p> <p>d) その他算出結果について結果を確認できるもの</p> </div> <p style="text-align: center;">→ 削除</p>				<p>記載の削除</p>
積算上の注意事項	3-1-4			<p>(控え頁)</p> <p>3/3</p>

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																																																																																																
現	行	改	正																																																																																																																																																
<p>1.2 路盤工</p> <p>1. 適用 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の路盤工（瀝青安定処理路盤を含む）に適用する。</div> </p> <p>2. 数量算出項目 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">下層路盤、上層路盤の面積を区分ごとに算出する。</div> </p> <p>3. 区分 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、平均厚さ、規格、平均幅員、瀝青材料種類・締固め後密度とする。</div> </p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>平均厚さ (mm)</th> <th>規格 (材料)</th> <th>平均幅員</th> <th>瀝青材料種類・締固め後密度</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下層路盤（車道・路肩部）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下層路盤（車道・路肩部） （ICT）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下層路盤（歩道部）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層路盤（車道・路肩部）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層路盤（車道・路肩部） （ICT）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層路盤（歩道部）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 平均厚さ区分及び規格区分 路盤の平均厚さ及び材料の規格（粒調砕石40～0、クラッシュラン40～0等）ごとに区分して算出する。</p> <p>(アスファルト舗装の構成例)</p>  <p style="text-align: center;">3-1-5</p> </div>		項目	区分	平均厚さ (mm)	規格 (材料)	平均幅員	瀝青材料種類・締固め後密度	単位	数量	備考	下層路盤（車道・路肩部）		○	○	-	-	m ²			下層路盤（車道・路肩部） （ICT）		○	○	-	-	m ²			下層路盤（歩道部）		○	○	-	-	m ²			上層路盤（車道・路肩部）		○	○	○	○	m ²			上層路盤（車道・路肩部） （ICT）		○	○	○	-	m ²			上層路盤（歩道部）		○	○	-	-	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th>一層当り平均厚</th> <th>全仕上り厚</th> <th>施工区分</th> <th rowspan="2">規格 (材料)</th> <th rowspan="2">平均幅員</th> <th rowspan="2">瀝青材料種類・締固め後密度</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>(mm)</th> <th>(mm)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下層路盤（車道・路肩部）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下層路盤（車道・路肩部） （ICT）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下層路盤（歩道部）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層路盤（車道・路肩部）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層路盤（車道・路肩部） （ICT）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層路盤（歩道部）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>現行どおり</p>		項目	区分	一層当り平均厚	全仕上り厚	施工区分	規格 (材料)	平均幅員	瀝青材料種類・締固め後密度	単位	数量	備考	(mm)	(mm)		下層路盤（車道・路肩部）		○	○	○	○	-	-	m ²			下層路盤（車道・路肩部） （ICT）		○	○	○	○	-	-	m ²			下層路盤（歩道部）		○	○	○	○	-	-	m ²			上層路盤（車道・路肩部）		○	○	○	○	○	○	m ²			上層路盤（車道・路肩部） （ICT）		○	○	○	○	○	-	m ²			上層路盤（歩道部）		○	○	○	○	-	-	m ²			記載の修正・追加
項目	区分	平均厚さ (mm)	規格 (材料)	平均幅員	瀝青材料種類・締固め後密度	単位	数量	備考																																																																																																																																											
下層路盤（車道・路肩部）		○	○	-	-	m ²																																																																																																																																													
下層路盤（車道・路肩部） （ICT）		○	○	-	-	m ²																																																																																																																																													
下層路盤（歩道部）		○	○	-	-	m ²																																																																																																																																													
上層路盤（車道・路肩部）		○	○	○	○	m ²																																																																																																																																													
上層路盤（車道・路肩部） （ICT）		○	○	○	-	m ²																																																																																																																																													
上層路盤（歩道部）		○	○	-	-	m ²																																																																																																																																													
項目	区分	一層当り平均厚	全仕上り厚	施工区分	規格 (材料)	平均幅員	瀝青材料種類・締固め後密度	単位	数量	備考																																																																																																																																									
		(mm)	(mm)																																																																																																																																																
下層路盤（車道・路肩部）		○	○	○	○	-	-	m ²																																																																																																																																											
下層路盤（車道・路肩部） （ICT）		○	○	○	○	-	-	m ²																																																																																																																																											
下層路盤（歩道部）		○	○	○	○	-	-	m ²																																																																																																																																											
上層路盤（車道・路肩部）		○	○	○	○	○	○	m ²																																																																																																																																											
上層路盤（車道・路肩部） （ICT）		○	○	○	○	○	-	m ²																																																																																																																																											
上層路盤（歩道部）		○	○	○	○	-	-	m ²																																																																																																																																											
積算上の注意事項			(控え頁) 1/4																																																																																																																																																

改 正 理 由	一 部 改 正	改 正 現 行	備 考																																																															
現	行	改 正	備 考																																																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 15%;">材 料</th> <th style="width: 70%;">平均厚さ区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="20" style="text-align: center;">下層路盤 (車道・路肩部) 及び 下層路盤 (車道・路肩部) (I C T)</td> <td rowspan="20" style="text-align: center;">—</td> <td>75mm 以上 125mm 以下</td> </tr> <tr><td>125mm 超 175mm 以下</td></tr> <tr><td>175mm 超 200mm 以下</td></tr> <tr><td>200mm 超 225mm 以下</td></tr> <tr><td>225mm 超 275mm 以下</td></tr> <tr><td>275mm 超 325mm 以下</td></tr> <tr><td>325mm 超 375mm 以下</td></tr> <tr><td>375mm 超 400mm 以下</td></tr> <tr><td>400mm 超 425mm 以下</td></tr> <tr><td>425mm 超 475mm 以下</td></tr> <tr><td>475mm 超 525mm 以下</td></tr> <tr><td>525mm 超 575mm 以下</td></tr> <tr><td>575mm 超 600mm 以下</td></tr> <tr><td>600mm 超 625mm 以下</td></tr> <tr><td>625mm 超 675mm 以下</td></tr> <tr><td>675mm 超 725mm 以下</td></tr> <tr><td>725mm 超 775mm 以下</td></tr> <tr><td>775mm 超 800mm 以下</td></tr> <tr><td>800mm 超 825mm 以下</td></tr> <tr><td>825mm 超 875mm 以下</td></tr> <tr><td>875mm 超 925mm 以下</td></tr> <tr><td>925mm 超 975mm 以下</td></tr> <tr><td>975mm 超 1000mm 以下</td></tr> <tr><td>1000mm 超 1025mm 以下</td></tr> <tr><td>1025mm 超 1075mm 以下</td></tr> <tr><td>1075mm 超 1125mm 以下</td></tr> <tr><td>1125mm 超 125mm 以下</td></tr> <tr><td>75mm 超 125mm 以下</td></tr> <tr><td>125mm 超 175mm 以下</td></tr> <tr><td>175mm 超 200mm 以下</td></tr> <tr><td>200mm 超 225mm 以下</td></tr> <tr><td>225mm 超 275mm 以下</td></tr> <tr><td>275mm 超 325mm 以下</td></tr> <tr><td>325mm 超 375mm 以下</td></tr> <tr><td>375mm 超 400mm 以下</td></tr> <tr><td>400mm 超 425mm 以下</td></tr> <tr><td>425mm 超 475mm 以下</td></tr> <tr><td>475mm 超 525mm 以下</td></tr> <tr><td>45mm 以上 55mm 以下</td></tr> <tr><td>55mm 超 65mm 以下</td></tr> <tr><td>65mm 超 75mm 以下</td></tr> <tr><td>75mm 超 85mm 以下</td></tr> <tr><td>85mm 超 95mm 以下</td></tr> <tr><td>95mm 超 100mm 以下</td></tr> <tr><td>25mm 以上 75mm 以下</td></tr> <tr><td>75mm 超 125mm 以下</td></tr> <tr><td>125mm 超 150mm 以下</td></tr> <tr><td>150mm 超 175mm 以下</td></tr> <tr><td>175mm 超 225mm 以下</td></tr> <tr><td>225mm 超 275mm 以下</td></tr> <tr><td>275mm 超 300mm 以下</td></tr> <tr><td>300mm 超 325mm 以下</td></tr> <tr><td>325mm 超 375mm 以下</td></tr> <tr><td>375mm 超 425mm 以下</td></tr> <tr><td>425mm 超 450mm 以下</td></tr> <tr><td>75mm 以上 125mm 以下</td></tr> <tr><td>125mm 超 150mm 以下</td></tr> <tr><td>150mm 超 175mm 以下</td></tr> </tbody> </table>		項目	材 料	平均厚さ区分	下層路盤 (車道・路肩部) 及び 下層路盤 (車道・路肩部) (I C T)	—	75mm 以上 125mm 以下	125mm 超 175mm 以下	175mm 超 200mm 以下	200mm 超 225mm 以下	225mm 超 275mm 以下	275mm 超 325mm 以下	325mm 超 375mm 以下	375mm 超 400mm 以下	400mm 超 425mm 以下	425mm 超 475mm 以下	475mm 超 525mm 以下	525mm 超 575mm 以下	575mm 超 600mm 以下	600mm 超 625mm 以下	625mm 超 675mm 以下	675mm 超 725mm 以下	725mm 超 775mm 以下	775mm 超 800mm 以下	800mm 超 825mm 以下	825mm 超 875mm 以下	875mm 超 925mm 以下	925mm 超 975mm 以下	975mm 超 1000mm 以下	1000mm 超 1025mm 以下	1025mm 超 1075mm 以下	1075mm 超 1125mm 以下	1125mm 超 125mm 以下	75mm 超 125mm 以下	125mm 超 175mm 以下	175mm 超 200mm 以下	200mm 超 225mm 以下	225mm 超 275mm 以下	275mm 超 325mm 以下	325mm 超 375mm 以下	375mm 超 400mm 以下	400mm 超 425mm 以下	425mm 超 475mm 以下	475mm 超 525mm 以下	45mm 以上 55mm 以下	55mm 超 65mm 以下	65mm 超 75mm 以下	75mm 超 85mm 以下	85mm 超 95mm 以下	95mm 超 100mm 以下	25mm 以上 75mm 以下	75mm 超 125mm 以下	125mm 超 150mm 以下	150mm 超 175mm 以下	175mm 超 225mm 以下	225mm 超 275mm 以下	275mm 超 300mm 以下	300mm 超 325mm 以下	325mm 超 375mm 以下	375mm 超 425mm 以下	425mm 超 450mm 以下	75mm 以上 125mm 以下	125mm 超 150mm 以下	150mm 超 175mm 以下	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="width: 20px; height: 20px; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></div> → </div> <p style="margin-left: 20px;">削除</p>	記載の削除
項目	材 料	平均厚さ区分																																																																
下層路盤 (車道・路肩部) 及び 下層路盤 (車道・路肩部) (I C T)	—	75mm 以上 125mm 以下																																																																
		125mm 超 175mm 以下																																																																
		175mm 超 200mm 以下																																																																
		200mm 超 225mm 以下																																																																
		225mm 超 275mm 以下																																																																
		275mm 超 325mm 以下																																																																
		325mm 超 375mm 以下																																																																
		375mm 超 400mm 以下																																																																
		400mm 超 425mm 以下																																																																
		425mm 超 475mm 以下																																																																
		475mm 超 525mm 以下																																																																
		525mm 超 575mm 以下																																																																
		575mm 超 600mm 以下																																																																
		600mm 超 625mm 以下																																																																
		625mm 超 675mm 以下																																																																
		675mm 超 725mm 以下																																																																
		725mm 超 775mm 以下																																																																
		775mm 超 800mm 以下																																																																
		800mm 超 825mm 以下																																																																
		825mm 超 875mm 以下																																																																
875mm 超 925mm 以下																																																																		
925mm 超 975mm 以下																																																																		
975mm 超 1000mm 以下																																																																		
1000mm 超 1025mm 以下																																																																		
1025mm 超 1075mm 以下																																																																		
1075mm 超 1125mm 以下																																																																		
1125mm 超 125mm 以下																																																																		
75mm 超 125mm 以下																																																																		
125mm 超 175mm 以下																																																																		
175mm 超 200mm 以下																																																																		
200mm 超 225mm 以下																																																																		
225mm 超 275mm 以下																																																																		
275mm 超 325mm 以下																																																																		
325mm 超 375mm 以下																																																																		
375mm 超 400mm 以下																																																																		
400mm 超 425mm 以下																																																																		
425mm 超 475mm 以下																																																																		
475mm 超 525mm 以下																																																																		
45mm 以上 55mm 以下																																																																		
55mm 超 65mm 以下																																																																		
65mm 超 75mm 以下																																																																		
75mm 超 85mm 以下																																																																		
85mm 超 95mm 以下																																																																		
95mm 超 100mm 以下																																																																		
25mm 以上 75mm 以下																																																																		
75mm 超 125mm 以下																																																																		
125mm 超 150mm 以下																																																																		
150mm 超 175mm 以下																																																																		
175mm 超 225mm 以下																																																																		
225mm 超 275mm 以下																																																																		
275mm 超 300mm 以下																																																																		
300mm 超 325mm 以下																																																																		
325mm 超 375mm 以下																																																																		
375mm 超 425mm 以下																																																																		
425mm 超 450mm 以下																																																																		
75mm 以上 125mm 以下																																																																		
125mm 超 150mm 以下																																																																		
150mm 超 175mm 以下																																																																		
積算上の注意事項	3-1-6		(控え頁) 2/4																																																															

改 正 理 由	一 部 改 正	改 正 現 行	備 考																																										
現	行	改	正																																										
	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"> <tr><td style="width: 20px;"></td><td style="width: 20px;"></td><td style="width: 20px;"></td><td style="width: 20px;"></td><td style="width: 20px;"></td><td style="width: 20px;"></td><td>175mm 超 225mm 以下</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>225mm 超 275mm 以下</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>275mm 超 300mm 以下</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>300mm 超 325mm 以下</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>325mm 超 375mm 以下</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>375mm 超 425mm 以下</td></tr> </table> <p>(3) 平均幅員区分 ① 1. 4m未満 ② 1. 4m以上</p> <p>(4) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに路盤面の3次元設計データがある場合における路盤の平均厚さの算出は、以下のとおりとする。 平均厚さ=体積/面積 体積については、3次元CADソフト等を用いた場合、以下の方式によることを標準とする。 3次元CADソフト等を用いたa)~c)の方式 数量算出に用いる3次元点群座標データは、50cm間隔以下の点密度とする。ただし、植生等により測定した点が正しく地表を捉えられず、標準の点密度の取得が困難な場合には、この限りでない。</p> <p>a) 点高法 現況地形や出来形計測結果等（出来形計測データ、起工測量計測データ）からなる2つの面データに重ね合わせたメッシュ（等間隔）交点で標高を算出し、標高差にメッシュ間隔の面積を乗じたものを総和する。メッシュ間隔は50cm以内とし、標高差の算出には、以下の方法とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4点平均法：メッシュ交点の四隅の標高差を平均する方法（下図のとおり） ・ 1点法：メッシュ交点にて標高差を算出する方法 <div style="text-align: center;">  $V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3 + h4)}{4}$ </div> <p>b) TIN分割等を用いて求積する方法 データとしてTINからなる面データを作成したうえで、ある一定の標高値にてDL面（標高基準面）を設定し、各TINの水平投影面積と、TINを構成する各点からDL面までの高低差の平均（平均高低差）を乗じた体積を総和する。 なお、TINとは Triangular Irregular Network の略。TINは、標高データを補間する最も一般的なデジタルデータ構造である。TINは、多くの点を3次元上の直線で繋いで三角形の頂点の組合せで面（サーフェス）を形成する。</p> </div>							175mm 超 225mm 以下							225mm 超 275mm 以下							275mm 超 300mm 以下							300mm 超 325mm 以下							325mm 超 375mm 以下							375mm 超 425mm 以下	<p>削除</p> <p>(3) 平均幅員区分 ① 1. 4m未満 ② 1. 4m以上</p> <p>(4) 施工区分 ① 1層施工 ② 2層施工 ③ 3層施工 ④ 4層施工 ⑤ 5層施工 ⑥ 6層施工</p> <p>(5) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに路盤面の3次元設計データがある場合における路盤の平均厚さの算出は、以下のとおりとする。 平均厚さ=体積/面積 体積については、3次元CAD等を用いた場合、1.10 3次元モデルの基本的な表現方法によることを標準とする。</p> <p>削除</p>	<p>記載の削除</p> <p>記載の追加</p> <p>語句の修正</p> <p>記載の削除</p>
						175mm 超 225mm 以下																																							
						225mm 超 275mm 以下																																							
						275mm 超 300mm 以下																																							
						300mm 超 325mm 以下																																							
						325mm 超 375mm 以下																																							
						375mm 超 425mm 以下																																							
積算上の注意事項			(控え頁) 3/4																																										

改正理由	一部改正	改正 現行	
現 行	改 正		備 考
<div data-bbox="197 395 972 1289" style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">A : サーフェスを構成するTinの水平面積</p> <p style="text-align: center;">h1~h3 : Tinを構成する各点からDL面までの高低差</p> <p style="text-align: center;">DL面 : 体積計算を行なうための基準となる標高面</p> $V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3)}{3}$ <p style="text-align: center;">▽ DL面 (標高基準面) : DL=〇〇. 〇〇m</p> <p>e) プリズモイダル法</p> <p>現況地形や出来形計測結果等（出来形計測データ、起工測量計測データ）からそれぞれの面データとしてTINからなる面データを作成し、面データのポイントの位置を互いの面データに投影する。次に各面データから、本来の自身を持つポイントと相手のポイントを合わせたポイント位置により新たな三角網を形成し、この三角網の結節点の位置での標高差に基づき複合した面データの標高を計算する。面データの各TINを構成する点をそれぞれの面データに投影すると、各面データに同じ水平位置で標高の異なる点を作成されるので、その作成された点で再度面データを構築し、三角形水平面積と高低差を乗じた体積を総和する。</p> <p style="text-align: center;">上部サーフェスおよび下部サーフェスの TIN エッジを組み合わせて 複合サーフェスが作成される</p> <p>TIN ラインが交差する部分には、複合サーフェスを作成するための TIN ラインが新たに追加される</p> <p>平面図</p> <p>追加された TIN ライン</p> <p>複合 TIN ラインから作成された擬柱を基に、 複合土量が計算される</p> <p>d) その他算出結果について結果を確認できるもの</p> </div>	<p>→ 削除</p>	<p>記載の削除</p>	
積算上の注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>4 / 4</p>

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																									
	<p>1.4 半たわみ性(コンポジット)舗装工</p> <p>1. 適用 開粒度タイプ加熱アスファルト混合物を舗設後、セメントミルクを浸透させる半たわみ性舗装工及び半たわみ性コンポジット舗装工におけるセメントミルク浸透に適用する。 なお、アスファルト混合物の舗設はアスファルト舗装工を適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 セメントミルク浸透の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、施工厚さ、浸透用セメントミルク種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>施工厚さ</th> <th>浸透用セメントミルク種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セメントミルク浸透</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 施工厚さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <p>施工厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> — 25mm以上35mm未満 — 35mm以上45mm未満 — 45mm以上55mm未満 — 55mm以上65mm未満 — 65mm以上75mm未満 — 75mm以上85mm未満 — 85mm以上95mm未満 — 95mm以上100mm未満 <p>浸透用セメントミルクの使用量 (100m²当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工厚さ</th> <th>単位</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25mm以上35mm未満</td> <td>ℓ</td> <td>630～882</td> </tr> <tr> <td>35mm以上45mm未満</td> <td>〃</td> <td>882～1,134</td> </tr> <tr> <td>45mm以上55mm未満</td> <td>〃</td> <td>1,134～1,386</td> </tr> <tr> <td>55mm以上65mm未満</td> <td>〃</td> <td>1,386～1,638</td> </tr> <tr> <td>65mm以上75mm未満</td> <td>〃</td> <td>1,638～1,890</td> </tr> <tr> <td>75mm以上85mm未満</td> <td>〃</td> <td>1,890～2,142</td> </tr> <tr> <td>85mm以上95mm未満</td> <td>〃</td> <td>2,142～2,394</td> </tr> <tr> <td>95mm以上100mm以下</td> <td>〃</td> <td>2,394～2,520</td> </tr> </tbody> </table>	項目	区分	施工厚さ	浸透用セメントミルク種類	単位	数量	備考	セメントミルク浸透		○	○	m ²			施工厚さ	単位	使用量	25mm以上35mm未満	ℓ	630～882	35mm以上45mm未満	〃	882～1,134	45mm以上55mm未満	〃	1,134～1,386	55mm以上65mm未満	〃	1,386～1,638	65mm以上75mm未満	〃	1,638～1,890	75mm以上85mm未満	〃	1,890～2,142	85mm以上95mm未満	〃	2,142～2,394	95mm以上100mm以下	〃	2,394～2,520	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>施工厚さ</th> <th>浸透用セメントミルク種類</th> <th>浸透用セメントミルク使用量 (ℓ/100m²)</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セメントミルク浸透</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 施工厚さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <p>施工厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> — 50mm — 100mm — 各種 <p>削除</p>	項目	区分	施工厚さ	浸透用セメントミルク種類	浸透用セメントミルク使用量 (ℓ/100m ²)	単位	数量	備考	セメントミルク浸透		○	○	○	m ²			<p>記載の追加</p> <p>記載の修正</p> <p>記載の削除</p>
項目	区分	施工厚さ	浸透用セメントミルク種類	単位	数量	備考																																																						
セメントミルク浸透		○	○	m ²																																																								
施工厚さ	単位	使用量																																																										
25mm以上35mm未満	ℓ	630～882																																																										
35mm以上45mm未満	〃	882～1,134																																																										
45mm以上55mm未満	〃	1,134～1,386																																																										
55mm以上65mm未満	〃	1,386～1,638																																																										
65mm以上75mm未満	〃	1,638～1,890																																																										
75mm以上85mm未満	〃	1,890～2,142																																																										
85mm以上95mm未満	〃	2,142～2,394																																																										
95mm以上100mm以下	〃	2,394～2,520																																																										
項目	区分	施工厚さ	浸透用セメントミルク種類	浸透用セメントミルク使用量 (ℓ/100m ²)	単位	数量	備考																																																					
セメントミルク浸透		○	○	○	m ²																																																							
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																									

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																
現	行	改	正																																																																																																																															
<p>2.5.2 路側工</p> <p>1. 適用</p> <p>歩車道境界ブロック、地先境界ブロック、インターロッキングブロック、ブロック規格が30cm×30cm及び40cm×40cmの平板ブロック（透水性ブロック含む）及び視覚障害者誘導用ブロック（点状ブロック、線状ブロック）の設置工及び撤去工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>歩車道境界ブロック、地先境界ブロックの延長、及びインターロッキングブロック、平板ブロック及び視覚障害者誘導用ブロックの面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、作業区分、基礎碎石の有無、均し基礎コンクリート規格、養生工の有無とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>基礎碎石の有無</th> <th>均し基礎コンクリート規格</th> <th>養生工の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩車道境界ブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地先境界ブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>インターロッキングブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td>敷材料の厚さと種類を明記</td> </tr> <tr> <td>平板ブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>視覚障害者誘導用ブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分</p> <p>平板ブロック </p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 土工（床掘り・埋戻し）、基礎（碎石・コンクリート等）、舗装版切断等が必要な場合は、別途算出する。</p>		項目	区分	規格	作業区分	基礎碎石の有無	均し基礎コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考	歩車道境界ブロック		○	○	○	○	○	m			地先境界ブロック		○	○	○	○	○	m			インターロッキングブロック		○	×	×	×	×	m ²		敷材料の厚さと種類を明記	平板ブロック		○	×	×	×	×	m ²			視覚障害者誘導用ブロック		○	×	×	×	×	m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>基礎碎石の有無</th> <th>均し基礎コンクリート規格</th> <th>養生工の有無</th> <th>m当り使用量(個/m)</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩車道境界ブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地先境界ブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>インターロッキングブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>敷材料の厚さと種類を明記</td> </tr> <tr> <td>平板ブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>視覚障害者誘導用ブロック</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>現行どおり</p>		項目	区分	規格	作業区分	基礎碎石の有無	均し基礎コンクリート規格	養生工の有無	m当り使用量(個/m)	単位	数量	備考	歩車道境界ブロック		○	○	○	○	○	○	m			地先境界ブロック		○	○	○	○	○	○	m			インターロッキングブロック		○	×	×	×	×		m ²		敷材料の厚さと種類を明記	平板ブロック		○	×	×	×	×		m ²			視覚障害者誘導用ブロック		○	×	×	×	×		m ²			備考
項目	区分	規格	作業区分	基礎碎石の有無	均し基礎コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考																																																																																																																									
歩車道境界ブロック		○	○	○	○	○	m																																																																																																																											
地先境界ブロック		○	○	○	○	○	m																																																																																																																											
インターロッキングブロック		○	×	×	×	×	m ²		敷材料の厚さと種類を明記																																																																																																																									
平板ブロック		○	×	×	×	×	m ²																																																																																																																											
視覚障害者誘導用ブロック		○	×	×	×	×	m ²																																																																																																																											
項目	区分	規格	作業区分	基礎碎石の有無	均し基礎コンクリート規格	養生工の有無	m当り使用量(個/m)	単位	数量	備考																																																																																																																								
歩車道境界ブロック		○	○	○	○	○	○	m																																																																																																																										
地先境界ブロック		○	○	○	○	○	○	m																																																																																																																										
インターロッキングブロック		○	×	×	×	×		m ²		敷材料の厚さと種類を明記																																																																																																																								
平板ブロック		○	×	×	×	×		m ²																																																																																																																										
視覚障害者誘導用ブロック		○	×	×	×	×		m ²																																																																																																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																																																															

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																				
	現 行	改 正																																																																					
	<p>3. 2. 2 落橋防止装置工</p> <p>3. 2. 2. 1 落橋防止装置工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>落橋防止装置設置（けたかかり長、落橋防止構造、変位制限構造及び段差防止構造）に伴う、橋台・橋脚のコンクリート削孔、アンカー施工及び充填補修作業に適用する。</p> </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>コンクリート削孔（コアボーリングマシン）、コンクリート削孔（ハンマドリル）、コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕）、アンカー、アンカー材（材料費）、注入材（材料費）、充填補修、補修材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。</p> </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>区分は、アンカー材径、削孔深さ、適用アンカー材径、削孔方向とする。</p> </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①コンクリート削孔（コアボーリングマシン）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>アンカー材径</th> <th>削孔深さ</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔 （コアボーリングマシン）</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。</p> <p>②コンクリート削孔（ハンマドリル）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔 （ハンマドリル）</td> <td style="text-align: center;">孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。 2. 上方向のコンクリート削孔には適用しない。</p> <p>③コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>削孔深さ</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔 （さく岩機〔ハンドドリル〕）</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。 2. 上方向のコンクリート削孔には適用しない。</p>	項目	区分	アンカー材径	削孔深さ	単位	数量	備考	コンクリート削孔 （コアボーリングマシン）		○	○	孔			項目	単位	数量	備考	コンクリート削孔 （ハンマドリル）	孔			項目	区分	削孔深さ	単位	数量	備考	コンクリート削孔 （さく岩機〔ハンドドリル〕）		○	孔			<p>現行どおり</p>	<p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>コンクリート削孔（電動式コアボーリングマシン）、コンクリート削孔（電動ハンマドリル）、コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕（空圧式））、アンカー、アンカー材（材料費）、注入材（材料費）、充填補修、補修材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。</p> </div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>区分は、アンカー材径、削孔深さ、適用アンカー材径、削孔方向とする。</p> </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①コンクリート削孔（電動式コアボーリングマシン）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>アンカー材径</th> <th>削孔深さ</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔 （コアボーリングマシン）</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。</p> <p>②コンクリート削孔（電動ハンマドリル）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔 （ハンマドリル）</td> <td style="text-align: center;">孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。 2. 上方向のコンクリート削孔には適用しない。</p> <p>③コンクリート削孔（さく岩機〔ハンドドリル〕（空圧式））</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>削孔深さ</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔 （さく岩機〔ハンドドリル〕）</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。 2. 上方向のコンクリート削孔には適用しない。</p>	項目	区分	アンカー材径	削孔深さ	単位	数量	備考	コンクリート削孔 （コアボーリングマシン）		○	○	孔			項目	単位	数量	備考	コンクリート削孔 （ハンマドリル）	孔			項目	区分	削孔深さ	単位	数量	備考	コンクリート削孔 （さく岩機〔ハンドドリル〕）		○	孔		
項目	区分	アンカー材径	削孔深さ	単位	数量	備考																																																																	
コンクリート削孔 （コアボーリングマシン）		○	○	孔																																																																			
項目	単位	数量	備考																																																																				
コンクリート削孔 （ハンマドリル）	孔																																																																						
項目	区分	削孔深さ	単位	数量	備考																																																																		
コンクリート削孔 （さく岩機〔ハンドドリル〕）		○	孔																																																																				
項目	区分	アンカー材径	削孔深さ	単位	数量	備考																																																																	
コンクリート削孔 （コアボーリングマシン）		○	○	孔																																																																			
項目	単位	数量	備考																																																																				
コンクリート削孔 （ハンマドリル）	孔																																																																						
項目	区分	削孔深さ	単位	数量	備考																																																																		
コンクリート削孔 （さく岩機〔ハンドドリル〕）		○	孔																																																																				
積算上の注意事項			<p>（控え頁）</p> <p>1/4</p>																																																																				

積算基準の改定に伴う記載の追加

積算基準の改定に伴う記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																																														
現	行	改 正	備 考																																																																																														
<p>④アンカー</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>適用 アンカー材径</th> <th>削孔方向</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンカー</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー材 (材料費)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材 (材料費)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>充填補修</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>補修材 (材料費)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 上方向のアンカー打込みの場合は別途考慮する。</p> <p>(2) コンクリート削孔 (コアボーリングマシン) のアンカー材径による区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">アンカー材径</td> <td>├── 17mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 17mm を超え、23mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 23mm を超え、30mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 30mm を超え、43mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 43mm を超え、54mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 54mm を超え、67mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 67mm を超え、80mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>└── 80mm を超え、100mm 以下</td> </tr> </table> <p>(3) コンクリート削孔 (コアボーリングマシン) の削孔深さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">削孔深さ</td> <td>├── 500mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 500mm を超え、1,000mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>└── 1,000mm を超え、1,300mm 以下 (アンカー材径 30mm を超え、100mm 以下のみ)</td> </tr> </table> <p>(4) コンクリート削孔 (さく岩機 [ハンドドリル]) の削孔深さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">削孔深さ</td> <td>├── 200mm を超え、500mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>└── 500mm を超え、800mm 以下</td> </tr> </table>		項目	区分	適用 アンカー材径	削孔方向	単 位	数 量	備 考	アンカー		○	○	本			アンカー材 (材料費)		×	×	本			注入材 (材料費)		×	×	本			充填補修		×	×	孔			補修材 (材料費)		×	×	孔			アンカー材径	├── 17mm 以下		├── 17mm を超え、23mm 以下		├── 23mm を超え、30mm 以下		├── 30mm を超え、43mm 以下		├── 43mm を超え、54mm 以下		├── 54mm を超え、67mm 以下		├── 67mm を超え、80mm 以下		└── 80mm を超え、100mm 以下	削孔深さ	├── 500mm 以下		├── 500mm を超え、1,000mm 以下		└── 1,000mm を超え、1,300mm 以下 (アンカー材径 30mm を超え、100mm 以下のみ)	削孔深さ	├── 200mm を超え、500mm 以下		└── 500mm を超え、800mm 以下	<p style="text-align: center;">} 現行どおり</p> <p>(2) コンクリート削孔 (電動式コアボーリングマシン) のアンカー材径による区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">アンカー材径</td> <td>├── 17mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 17mm を超え、23mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 23mm を超え、30mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 30mm を超え、43mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 43mm を超え、54mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 54mm を超え、67mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 67mm を超え、80mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>└── 80mm を超え、100mm 以下</td> </tr> </table> <p>(3) コンクリート削孔 (電動式コアボーリングマシン) の削孔深さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">削孔深さ</td> <td>├── 500mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>├── 500mm を超え、1,000mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>└── 1,000mm を超え、1,300mm 以下 (アンカー材径 30mm を超え、100mm 以下のみ)</td> </tr> </table> <p>(4) コンクリート削孔 (さく岩機 [ハンドドリル]) (空圧式) の削孔深さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">削孔深さ</td> <td>├── 200mm を超え、500mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>└── 500mm を超え、800mm 以下</td> </tr> </table>	アンカー材径	├── 17mm 以下		├── 17mm を超え、23mm 以下		├── 23mm を超え、30mm 以下		├── 30mm を超え、43mm 以下		├── 43mm を超え、54mm 以下		├── 54mm を超え、67mm 以下		├── 67mm を超え、80mm 以下		└── 80mm を超え、100mm 以下	削孔深さ	├── 500mm 以下		├── 500mm を超え、1,000mm 以下		└── 1,000mm を超え、1,300mm 以下 (アンカー材径 30mm を超え、100mm 以下のみ)	削孔深さ	├── 200mm を超え、500mm 以下		└── 500mm を超え、800mm 以下	<p>積算基準の改定に伴う記載の追加</p> <p>積算基準の改定に伴う記載の追加</p> <p>積算基準の改定に伴う記載の追加</p>
項目	区分	適用 アンカー材径	削孔方向	単 位	数 量	備 考																																																																																											
アンカー		○	○	本																																																																																													
アンカー材 (材料費)		×	×	本																																																																																													
注入材 (材料費)		×	×	本																																																																																													
充填補修		×	×	孔																																																																																													
補修材 (材料費)		×	×	孔																																																																																													
アンカー材径	├── 17mm 以下																																																																																																
	├── 17mm を超え、23mm 以下																																																																																																
	├── 23mm を超え、30mm 以下																																																																																																
	├── 30mm を超え、43mm 以下																																																																																																
	├── 43mm を超え、54mm 以下																																																																																																
	├── 54mm を超え、67mm 以下																																																																																																
	├── 67mm を超え、80mm 以下																																																																																																
	└── 80mm を超え、100mm 以下																																																																																																
削孔深さ	├── 500mm 以下																																																																																																
	├── 500mm を超え、1,000mm 以下																																																																																																
	└── 1,000mm を超え、1,300mm 以下 (アンカー材径 30mm を超え、100mm 以下のみ)																																																																																																
削孔深さ	├── 200mm を超え、500mm 以下																																																																																																
	└── 500mm を超え、800mm 以下																																																																																																
アンカー材径	├── 17mm 以下																																																																																																
	├── 17mm を超え、23mm 以下																																																																																																
	├── 23mm を超え、30mm 以下																																																																																																
	├── 30mm を超え、43mm 以下																																																																																																
	├── 43mm を超え、54mm 以下																																																																																																
	├── 54mm を超え、67mm 以下																																																																																																
	├── 67mm を超え、80mm 以下																																																																																																
	└── 80mm を超え、100mm 以下																																																																																																
削孔深さ	├── 500mm 以下																																																																																																
	├── 500mm を超え、1,000mm 以下																																																																																																
	└── 1,000mm を超え、1,300mm 以下 (アンカー材径 30mm を超え、100mm 以下のみ)																																																																																																
削孔深さ	├── 200mm を超え、500mm 以下																																																																																																
	└── 500mm を超え、800mm 以下																																																																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 2/4																																																																																														

改正理由	一部改正	改正 現行	備考												
現	行	改 正	備 考												
<p>(5) アンカーの適用アンカー材径による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>適用アンカー材径</p> <ul style="list-style-type: none"> — 25mm 以下 — 25mm を超え、40mm 以下 — 40mm を超え、55mm 以下 — 55mm を超え、70mm 以下 — 70mm を超え、85mm 以下 <p>(6) アンカーの削孔方向による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>削孔方向</p> <ul style="list-style-type: none"> — 横方向 — 下方向 <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泥水処理工</td> <td>m³</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) アンカー材（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。</p> <p>(2) 注入材（材料費）はエポキシ樹脂系注入材を標準とし、1本当りの注入材使用量を下式により算出する。</p> $\text{使用量(kg)} = \{ (D^2 - d^2) \times \pi \times 1/4 \times \ell \} \times M \times (1 + K) \quad (\text{kg/本})$ <p>D：削孔径（m） d：アンカー材径（m） ℓ：削孔深（m） M：単位質量は1,200 kg/m³とする。 K：ロス率は+0.15とする。</p> <p>(3) 補修材（材料費）はセメント系グラウト材を標準とし、1孔当りの注入材使用量を下式により算出する。</p> $\text{使用量(kg)} = \{ D^2 \times \pi \times 1/4 \times \ell \} \times M \times (1 + K) \quad (\text{kg/孔})$ <p>D：削孔径（m） ℓ：削孔深（m）（削孔深は不達孔の平均削孔深とする） M：単位質量は1,875 kg/m³とする。 K：ロス率は+0.15とする。</p> <p style="text-align: right;">3-3-59</p>		項目	単位	数量	備考	泥水処理工	m ³		必要な場合別途計上	足場工	掛m ²		必要な場合別途計上	<p>現行どおり</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) アンカー材（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。</p> <p>(2) 注入材（材料費）はエポキシ樹脂系注入材を標準とし、1本当りの注入材使用量を下式により算出する。</p> $\text{使用量(kg)} = \{ (D^2 - d^2) \times \pi \times 1/4 \times \ell \} \times M \times (1 + K) \quad (\text{kg/本})$ <p>D：削孔径（m） d：アンカー材径（m） ℓ：削孔深（m） M：単位質量は1,200 kg/m³とする。 K：ロス率は+<u>0.15</u> <u>0.20</u>とする。</p> <p>現行どおり</p>	<p>積算基準の改定に伴う記載の変更</p>
項目	単位	数量	備考												
泥水処理工	m ³		必要な場合別途計上												
足場工	掛m ²		必要な場合別途計上												
積算上の注意事項			（控え頁） 3/4												

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

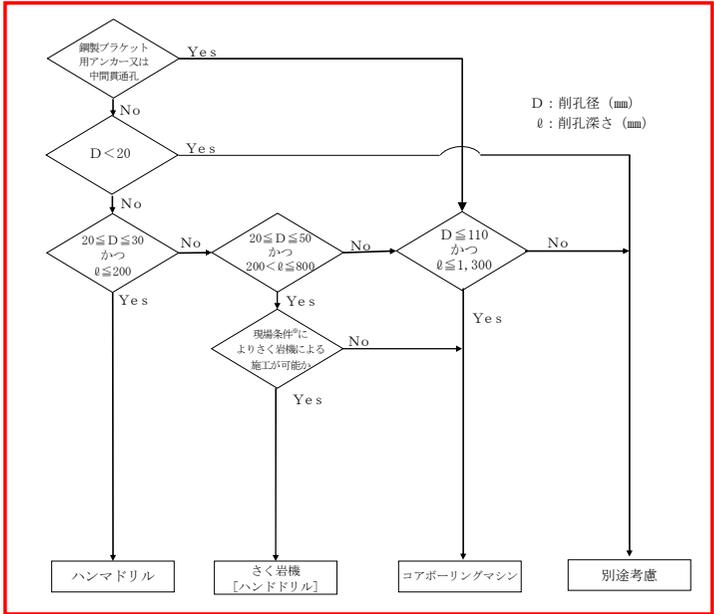
現 行

(4) 削孔径はアンカー材径+10 mm以上を確保できるビット径とし、アンカー材径に適用する削孔径と使用ビット径は下表を標準とする。

アンカー材径 (mm)	17 以下	17 を超え 23 以下	23 を超え 30 以下	30 を超え 43 以下	43 を超え 54 以下	54 を超え 67 以下	67 を超え 80 以下	80 を超え 100 以下
適用削孔径 (mm)	27 以下	27 を超え 33 以下	33 を超え 40 以下	40 を超え 53 以下	53 を超え 64 以下	64 を超え 77 以下	77 を超え 90 以下	90 を超え 110 以下
使用ビット径 (mm)	27.6	33.1	40.0	53.1	64.7	77.4	90.8	110.0

5. 参考

コンクリート削孔機種の選定は、下記を標準とする。



※現場条件とは、作業スペース、騒音・振動による制限及び既設配筋間隔等による施工障害とする。

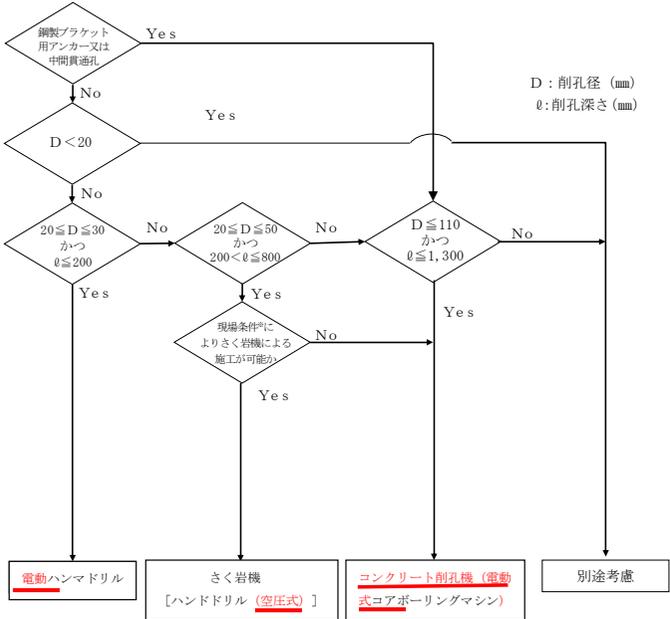
3-3-60

改 正

現行どおり

5. 参考

コンクリート削孔機種の選定は、下記を標準とする。



※現場条件とは、作業スペース、騒音・振動による制限及び既設配筋間隔等による施工障害とする。

備 考

積算基準の改定に伴う記載の追加

積算上の注意事項

(控え頁)
4/4

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

4章 鋼橋上部工

4.1 鋼材

4.1.1 橋梁本体

1. 適用

鋼橋上部工の製作工の鋼材に適用する。

2. 数量算出項目

鋼材質量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、構造形式ごとに構造名称、材種、材質、寸法とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	構造名称	構造 形式	規 格		単位	数量	備 考
			材種	材質			
鋼材 質量	橋 体	(連毎に区分)	○	○	kg		
	付属物	支承	×	○	個(kg)		
		高欄	×	○	kg		
		防護柵	×	○	kg		
		伸縮継手	×	○	kg		
		検査路	×	○	kg		
		排水装置	×	○	kg		
		耐震連結装置	×	○	kg		

(2) 構造形式

構造形式による区分は、以下のとおりとする。

- 単純継桁
- 連続継桁
- 箱桁
- 鋼床版継桁
- 鋼床版箱桁
- トラス
- アーチ
- ラーメン
- 角型鋼製脚
- 丸型鋼製脚
- 角型アンカーフレーム
- 丸型アンカーフレーム

3-4-2

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	構造名称	3次元 モデル	属性情報				単位	数量	備考
			構造 形式	材種	材質	寸法			
鋼材 質量	橋 体	(連毎に区分)	I	○	○	kg			
	付属物	支承	II	×	○	個(kg)			
		高欄	II	×	○	kg			
		防護柵	II	×	○	kg			
		伸縮継手	II	×	○	kg			
		検査路	II	×	○	kg			
		排水装置	II	×	○	kg			
		耐震連結装置	II	×	○	kg			

「橋体」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて構造形式と規格を区分することより「I」を適用する。
「付属物」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分するが、二次製品を使用する部材が含まれる場合があるため「II」を適用する。

現行どおり

記載の追加

積算上の注意事項		(控え頁)	1/1
----------	--	-------	-----

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																					
現	行	改	正																																																																																																																				
<p>4.1.2 付属物</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鋼橋上部工の付属物（落橋防止、排水装置、支承、高欄、防護柵、伸縮継手、検査路、耐震連結装置、その他）に適用する。</div> <p>（注）構造形式別数量集計方法は、「鋼道路橋数量集計マニュアル（案） 第1章概要 II. 数量集計方法」によるものとする。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">材片数、材片質量、部材数、加工鋼材質量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、構造名称、材種、材質、寸法とする。</div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">構造名称</th> <th colspan="3">規 格</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>材種</th> <th>材質</th> <th>寸法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>材 片 数</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>材 片 質 量</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>部 材 数</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>加工鋼材質量</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 構造名称区分 構造名称による区分は、以下の通りとする。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">構造名称</td> <td>落橋防止</td> </tr> <tr> <td></td> <td>排水装置</td> </tr> <tr> <td></td> <td>支承</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高欄</td> </tr> <tr> <td></td> <td>防護柵</td> </tr> <tr> <td></td> <td>伸縮継手</td> </tr> <tr> <td></td> <td>検査路</td> </tr> <tr> <td></td> <td>耐震連結装置</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他</td> </tr> </table> <p>(3) 材種区分 材種による区分は、「4.1.1 橋梁本体 3. 区分 (3) . 材種区分」によるものとする。</p> <p>(4) 材質区分 材質による区分は、「4.1.1 橋梁本体 3. 区分 (4) . 材質区分」によるものとする。</p> <p>(5) 寸法区分 寸法による区分は、「4.1.1 橋梁本体 3. 区分 (5) . 寸法区分」によるものとする。</p> <p style="text-align: center;">3-4-8</p> </div>		項目	区分	構造名称	規 格			単位	数 量	備 考	材種	材質	寸法	材 片 数	○			○		個			材 片 質 量	○			○		t			部 材 数	○			○		個			加工鋼材質量	○			○		t			構造名称	落橋防止		排水装置		支承		高欄		防護柵		伸縮継手		検査路		耐震連結装置		その他	<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <div style="margin-top: 20px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>構造名 称</th> <th>材種</th> <th>材質</th> <th>寸法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>材片数</td> <td>III</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>材片質量</td> <td>II</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>部材数</td> <td>III</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>加工鋼材質量</td> <td>II</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">「材片質量」と「加工鋼材質量」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて構造名称や規格を区分するが、二次製品を使用する部材が含まれる場合があるため「II」を適用する。 「材片数」は、「材片質量」を表現している3次元モデルを用いて個数を算出することより「III」を適用する。 「部材数」は、「加工鋼材質量」を表現している3次元モデルを用いて個数を算出することより「III」を適用する。 ※関連「4.1.1 橋梁本体」</p> </div> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>		項目	区分	3次元 モデル	属性情報			単位	数 量	備 考	構造名 称	材種	材質	寸法	材片数	III	○			○	個			材片質量	II	○			○	t			部材数	III	○			○	個			加工鋼材質量	II	○			○	t			記載の追加
項目	区分				構造名称	規 格					単位	数 量	備 考																																																																																																										
		材種	材質	寸法																																																																																																																			
材 片 数	○			○		個																																																																																																																	
材 片 質 量	○			○		t																																																																																																																	
部 材 数	○			○		個																																																																																																																	
加工鋼材質量	○			○		t																																																																																																																	
構造名称	落橋防止																																																																																																																						
	排水装置																																																																																																																						
	支承																																																																																																																						
	高欄																																																																																																																						
	防護柵																																																																																																																						
	伸縮継手																																																																																																																						
	検査路																																																																																																																						
	耐震連結装置																																																																																																																						
	その他																																																																																																																						
項目	区分	3次元 モデル	属性情報			単位	数 量	備 考																																																																																																															
			構造名 称	材種	材質				寸法																																																																																																														
材片数	III	○			○	個																																																																																																																	
材片質量	II	○			○	t																																																																																																																	
部材数	III	○			○	個																																																																																																																	
加工鋼材質量	II	○			○	t																																																																																																																	
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																																																				

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

4.2 工場製作工

4.2.1 鋼材質量

1. 適用

鋼橋上部工の製作工に適用する。

2. 数量算出項目

大型材片数、板継ぎ溶接延長等を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、構造名称ごとに橋梁本体および本体と同様に集計する付属物、付属物とする。

(1) 橋梁本体および本体と同様に集計する付属物

1) 数量算出項目及び区分一覧表

算出項目	区分	単 位	構 造 名 称	集 計 項 目						合 計	備 考
				本 体	落 橋 防 止	架 設 用 補 強 材	排 水 装 置	検 査 用 手 摺			
大型材片	材片数	ヶ	○	○	×	×	×	×	○		
	材片質量	kg	○	○	×	×	×	×	○		
小型材片	材片数	ヶ	○	○	○	○	×	×	○		
	材片質量	kg	○	○	○	○	○	○	○		
部材数	ヶ	○	○	×	×	×	×	○			
対傾構	加工鋼材質量	kg	○	○	×	×	×	×	○		
	トラス質量	ヶ	○	○	×	×	×	×	○		
横構	加工鋼材質量	kg	○	○	×	×	×	×	○		
	トラス質量	ヶ	○	○	×	×	×	×	○		
溶接構造	ヶ	○	○	×	×	×	×	○			
加工鋼材質量	kg	○	○	○	○	○	○	○			
部材数	ヶ	○	○	×	×	×	×	○			
板継ぎ溶接延長(6mm)	m	○	○	×	×	×	×	○			
大型材工継ぎ溶接延長(鉄)	m	○	○	×	×	×	×	○			
対傾構の部材数	個	○	×	×	×	×	×	○	①)		
横構の部材数	個	○	×	×	×	×	×	○	①)		
主桁間隔	m	○	×	×	×	×	×	×	②)		
主桁高	m	○	×	×	×	×	×	×	②)		
平均支間長	m	○	×	×	×	×	×	×	②)		

注1) 構造形式のうち単純縦桁、連続縦桁について算出する。
注2) 構造形式のうち単純縦桁、連続縦桁、箱桁、鋼床縦桁、鋼床縦桁、ラーメン、トラス、アーチについて算出する。

3-4-9

現行どおり

(1) 橋梁本体および本体と同様に集計する付属物

1) 数量算出項目及び区分一覧

項目	区分	単 位	3次元 モ デル	属 性 情 報						合 計	備 考	
				構 造 名 称	本 体	落 橋 防 止	架 設 用 補 強 材	排 水 装 置	検 査 用 手 摺			
主桁	大型材片	材片数	ヶ	Ⅲ	○	○	×	×	×	×	○	
		材片質量	kg	I	○	○	×	×	×	×	○	
	小型材片	材片数	ヶ	Ⅲ	○	○	○	○	×	×	○	
		材片質量	kg	I	○	○	○	○	○	○	○	
部材数(合計)	ヶ	Ⅲ	○	○	×	×	×	×	○			

「大型材片」の「材片質量」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて構造名称等を区分することより「I」を適用する。「材片数」は、「大型材片」を表現している3次元モデルを用いて個数を算出することより「Ⅲ」を適用する。
「小型材片」の「材片質量」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて構造名称等を区分することより「I」を適用する。「材片数」は、「小型材片」を表現している3次元モデルを用いて個数を算出することより「Ⅲ」を適用する。
「部材数(合計)」は、「大型材片」と「小型材片」を表現している3次元モデルを用いて個数を算出することより「Ⅲ」を適用する。
※関連「4.1.1 橋梁本体」

記載の追加・削除

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																																																																																																																																																																																														
現 行	改 正		備 考																																																																																																																																																																																																																																														
	前頁から(一部)移動 →	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="6">属性情報</th> <th rowspan="2">合計</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>構造 名称</th> <th>本体</th> <th>落 橋 防 止</th> <th>架 設 用 補 強 材</th> <th>排 水 装 置</th> <th>検 査 用 手 摺</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">対 傾 構 (小 構 造 計)</td> <td>加工鋼材質量</td> <td>kg</td> <td>I</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>部材数</td> <td>形鋼トラス</td> <td>ヶ</td> <td>III</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>部材数</td> <td>鋼板トラス</td> <td>ヶ</td> <td>III</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">横 構 (小 構 造 計)</td> <td>加工鋼材質量</td> <td>kg</td> <td>I</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>部材数</td> <td>形鋼トラス</td> <td>ヶ</td> <td>III</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>部材数</td> <td>溶接構造</td> <td>ヶ</td> <td>III</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>加工鋼材</td> <td>上記合計</td> <td>kg</td> <td>I</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>質量</td> <td>内 570 材相 当</td> <td>kg</td> <td>I</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>質量</td> <td>材加工質量</td> <td>kg</td> <td>I</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>部材数 (合計)</td> <td></td> <td>ヶ</td> <td>III</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; color: red;">「対傾構」の「加工鋼材質量」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて構造名称等を区分することより「I」を適用する。「部材数(小計)」は、「対傾構」を表現している3次元モデルを用いて個数を算出することより「III」を適用する。 「横構」の「加工鋼材質量」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて構造名称等を区分することより「I」を適用する。「部材数(小計)」は、「対傾構」を表現している3次元モデルを用いて個数を算出することより「III」を適用する。 「加工鋼材質量」は、「対傾構」と「横構」を表現している3次元モデルを用いて質量を算出することより「I」を適用する。 「部材数(合計)」は、「対傾構」と「横構」を表現している3次元モデルを用いて個数を算出することより「III」を適用する。 ※関連「4.1.1 橋梁本体」</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="6">属性情報</th> <th rowspan="2">合計</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>構造 名称</th> <th>本体</th> <th>落 橋 防 止</th> <th>架 設 用 補 強 材</th> <th>排 水 装 置</th> <th>検 査 用 手 摺</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>板継溶接延長(6mm換算長)</td> <td></td> <td>m</td> <td>II</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大型材T継手溶接長(実長)</td> <td></td> <td>m</td> <td>II</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対傾構の部材数</td> <td></td> <td>個</td> <td>III</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>注1)</td> </tr> <tr> <td>横構の部材数</td> <td></td> <td>個</td> <td>III</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>注1)</td> </tr> <tr> <td>主桁間隔</td> <td></td> <td>m</td> <td>III</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>注2)</td> </tr> <tr> <td>主桁高</td> <td></td> <td>m</td> <td>III</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>注2)</td> </tr> <tr> <td>平均支間長</td> <td></td> <td>m</td> <td>III</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>注2)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注1) 構造形式のうち単純钣桁、連続钣桁について算出する。 注2) 構造形式のうち単純钣桁、連続钣桁、箱桁、鋼床版钣桁、鋼床版箱桁、ラーメン、トラス、アーチについて算出する。</p>	項目	区分	単位	3次元 モデル	属性情報						合計	備考	構造 名称	本体	落 橋 防 止	架 設 用 補 強 材	排 水 装 置	検 査 用 手 摺	対 傾 構 (小 構 造 計)	加工鋼材質量	kg	I	○	○	×	×	×	×	○		部材数	形鋼トラス	ヶ	III	○	○	×	×	×	×	○	部材数	鋼板トラス	ヶ	III	○	○	×	×	×	×	○	横 構 (小 構 造 計)	加工鋼材質量	kg	I	○	○	×	×	×	×	○		部材数	形鋼トラス	ヶ	III	○	○	×	×	×	×	○	部材数	溶接構造	ヶ	III	○	○	×	×	×	×	○	加工鋼材	上記合計	kg	I	○	○	○	○	○	○	○		質量	内 570 材相 当	kg	I	○	○	○	○	○	○	○		質量	材加工質量	kg	I	○	○	○	○	○	○	○		部材数 (合計)		ヶ	III	○	○	×	×	×	×	○		項目	区分	単位	3次元 モデル	属性情報						合計	備考	構造 名称	本体	落 橋 防 止	架 設 用 補 強 材	排 水 装 置	検 査 用 手 摺	板継溶接延長(6mm換算長)		m	II	○	○	×	×	×	×	○		大型材T継手溶接長(実長)		m	II	○	○	×	×	×	×	○		対傾構の部材数		個	III	○	×	×	×	×	×	○	注1)	横構の部材数		個	III	○	×	×	×	×	×	○	注1)	主桁間隔		m	III	○	×	×	×	×	×	×	注2)	主桁高		m	III	○	×	×	×	×	×	×	注2)	平均支間長		m	III	○	×	×	×	×	×	×	注2)	現行なし →	前頁から(一部)移動 →	記載の追加・削除
項目	区分	単位					3次元 モデル	属性情報							合計	備考																																																																																																																																																																																																																																	
			構造 名称	本体	落 橋 防 止	架 設 用 補 強 材		排 水 装 置	検 査 用 手 摺																																																																																																																																																																																																																																								
対 傾 構 (小 構 造 計)	加工鋼材質量	kg	I	○	○	×	×	×	×	○																																																																																																																																																																																																																																							
	部材数	形鋼トラス	ヶ	III	○	○	×	×	×	×	○																																																																																																																																																																																																																																						
	部材数	鋼板トラス	ヶ	III	○	○	×	×	×	×	○																																																																																																																																																																																																																																						
横 構 (小 構 造 計)	加工鋼材質量	kg	I	○	○	×	×	×	×	○																																																																																																																																																																																																																																							
	部材数	形鋼トラス	ヶ	III	○	○	×	×	×	×	○																																																																																																																																																																																																																																						
	部材数	溶接構造	ヶ	III	○	○	×	×	×	×	○																																																																																																																																																																																																																																						
加工鋼材	上記合計	kg	I	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																							
質量	内 570 材相 当	kg	I	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																							
質量	材加工質量	kg	I	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																							
部材数 (合計)		ヶ	III	○	○	×	×	×	×	○																																																																																																																																																																																																																																							
項目	区分	単位	3次元 モデル	属性情報						合計	備考																																																																																																																																																																																																																																						
				構造 名称	本体	落 橋 防 止	架 設 用 補 強 材	排 水 装 置	検 査 用 手 摺																																																																																																																																																																																																																																								
板継溶接延長(6mm換算長)		m	II	○	○	×	×	×	×	○																																																																																																																																																																																																																																							
大型材T継手溶接長(実長)		m	II	○	○	×	×	×	×	○																																																																																																																																																																																																																																							
対傾構の部材数		個	III	○	×	×	×	×	×	○	注1)																																																																																																																																																																																																																																						
横構の部材数		個	III	○	×	×	×	×	×	○	注1)																																																																																																																																																																																																																																						
主桁間隔		m	III	○	×	×	×	×	×	×	注2)																																																																																																																																																																																																																																						
主桁高		m	III	○	×	×	×	×	×	×	注2)																																																																																																																																																																																																																																						
平均支間長		m	III	○	×	×	×	×	×	×	注2)																																																																																																																																																																																																																																						
積算上の注意事項			(控え頁) 2/3																																																																																																																																																																																																																																														

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																									
	<p>現 行</p> <p>2) 構造名称 構造名称による区分は、以下のとおりとする。なお、詳細は「鋼道路橋数量集計マニュアル(案)」によるものとする。</p> <p>構造名称</p> <ul style="list-style-type: none"> — 単純鋼桁 — 連続鋼桁 — 箱桁 — 鋼床版鋼桁 — 鋼床版箱桁 — トラス — アーチ — ラーメン — 角型鋼製脚 — 丸型鋼製脚 — 角型アンカーフレーム — 丸型アンカーフレーム <p>(2) 付属物 1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>算出項目</th> <th>区分</th> <th>付属物名称</th> <th>形式記号</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工質量</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 付属物名称 伸縮装置、高欄、防護柵、検査路、ケーブルラック、電らん管、標識柱、化粧板、架設材、塗装物に分ける。</p> <p>3) 形式記号 「鋼道路橋数量集計マニュアル(案)」による。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、「鋼道路橋数量集計マニュアル(案)」によるものとする。 ただし、排水装置、検査用手摺、足場用吊金具及びスラブアンカーの材片数は集計しない。 なお、H.T.B.スタッドジベル、高力ボルト等の購入品は、集計対象外とする。 また、付属物には、アルミ高欄、ゴムジョイント、挿物(支承・排水柵)等の工場で加工しない製品は対象外とする。</p>	算出項目	区分	付属物名称	形式記号	数 量	加工質量		○	○		<p>現行なし</p> <p>「板継溶接延長(0mm換算長)」と「大型材T継手溶接長(実長)」は、簡易な形状・記号(点、線、面)を用いて算出することより「Ⅱ」を適用する。 「対傾構の部材数」と「横構の部材数」は、「対傾構」と「横構」を表現している3次元モデルを用いて個数を算出することより「Ⅲ」を適用する。 「主桁間隔」、「主桁高」と「平均支間長」は、3次元モデルに関連付けした属性情報を用いて数量を算出することより「Ⅲ」を適用する。 ※関連「4.1.1 橋梁本体」</p> <p>2) 構造名称 構造名称による区分は、以下のとおりとする。なお、詳細は「鋼道路橋数量集計マニュアル(案)」によるものとする。</p> <p>構造名称</p> <ul style="list-style-type: none"> — 単純鋼桁 — 連続鋼桁 — 箱桁 — 鋼床版鋼桁 — 鋼床版箱桁 — トラス — アーチ — ラーメン — 角型鋼製脚 — 丸型鋼製脚 — 角型アンカーフレーム — 丸型アンカーフレーム <p>(2) 付属物 1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>付属物名称</th> <th>形式記号</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工質量</td> <td></td> <td>Ⅱ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「加工質量」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて付属物名称等を区分するが、二次製品を使用する部材が含まれる場合があるため「Ⅱ」を適用する。 ※関連「4.1.1 橋梁本体」</p> <p>2) 付属物名称 伸縮装置、高欄、防護柵、検査路、ケーブルラック、電らん管、標識柱、化粧板、架設材、塗装物に分ける。</p> <p>3) 形式記号 「鋼道路橋数量集計マニュアル(案)」による。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、「鋼道路橋数量集計マニュアル(案)」によるものとする。 ただし、排水装置、検査用手摺、足場用吊金具及びスラブアンカーの材片数は集計しない。 なお、H.T.B.スタッドジベル、高力ボルト等の購入品は、集計対象外とする。 また、付属物には、アルミ高欄、ゴムジョイント、挿物(支承・排水柵)等の工場で加工しない製品は対象外とする。</p>	項目	区分	3次元 モデル	属性情報			付属物名称	形式記号	数量	加工質量		Ⅱ	○	○		<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
算出項目	区分	付属物名称	形式記号	数 量																								
加工質量		○	○																									
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																									
			付属物名称	形式記号	数量																							
加工質量		Ⅱ	○	○																								
積算上の注意事項	3-4-10		(控え頁) 3/3																									

改 正 理 由	一 部 改 正	改 正 現 行	備 考																																																
現	行	改	正																																																
<p>4.2.2 溶接延長</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鋼橋上部工の製作工に適用する。</div> <p>(注) 構造形式別数量集計方法は、「鋼道路橋数量集計マニュアル(案) 第1章概要 II. 数量集計方法」によるものとする。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">板継溶接延長(6mm換算長)、大型材片T継手溶接延長(実長)を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、構造名称、材質とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">区 分</th> <th style="text-align: center;">構 造 名 称</th> <th style="text-align: center;">材 質</th> <th style="text-align: center;">単 位</th> <th style="text-align: center;">数 量</th> <th style="text-align: center;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>板継溶接延長(6mm換算長)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>大型材片T継手溶接延長(実長)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 構造名称区分 構造名称による区分は、以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 単純鋸桁・連続鋸桁 — 箱桁 — 鋼床版鋸桁 — 鋼床版箱桁 — トラス — アーチ — ラーメン — 鋼製橋脚 — アンカーフレーム — 立体ラーメン <p>(3) 材質区分 材質による区分は、「4.2.1 鋼材質量 3. 区分 (3). 材質区分」によるものとする。</p> <p style="text-align: center;">3-4-11</p>		項目	区 分	構 造 名 称	材 質	単 位	数 量	備 考	板継溶接延長(6mm換算長)	○	○	mm				大型材片T継手溶接延長(実長)	○	○	mm				<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="text-align: center;">項目</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">区 分</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">3次元 モデル</th> <th colspan="4" style="text-align: center;">属性情報</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">構造名称</th> <th style="text-align: center;">材質</th> <th style="text-align: center;">単 位</th> <th style="text-align: center;">数 量</th> <th style="text-align: center;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>板継溶接延長(6mm換算長)</td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>大型材片T継手溶接延長(実長)</td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">mm</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red;">「板継溶接延長(6mm換算長)」と「大型材T継手溶接長(実長)」は、簡易な形状・記号(点、線、面)を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて構造名称等を区分することより「II」を適用する。 ※関連「4.2.1 鋼材質量」</p> <p>現行どおり</p>	項目	区 分	3次元 モデル		属性情報				構造名称	材質	単 位	数 量	備 考	板継溶接延長(6mm換算長)	II	○	○	mm			大型材片T継手溶接延長(実長)	II	○	○	mm			記載の追加
項目	区 分	構 造 名 称	材 質	単 位	数 量	備 考																																													
板継溶接延長(6mm換算長)	○	○	mm																																																
大型材片T継手溶接延長(実長)	○	○	mm																																																
項目	区 分	3次元 モデル		属性情報																																															
		構造名称	材質	単 位	数 量	備 考																																													
板継溶接延長(6mm換算長)	II	○	○	mm																																															
大型材片T継手溶接延長(実長)	II	○	○	mm																																															
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																

改正理由	一部改正	改正 現行																																							
現	行	改	正																																						
	<p>4.3 塗装工</p> <p>1. 適用</p> <p>鋼橋上部工の塗装工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>塗装の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、塗装場所、塗装工程、塗装面、塗装の種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>塗装場所</th> <th>塗装工程</th> <th>塗装面</th> <th>塗装の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>塗装</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 構造部材ごとに数量をとりまとめるものとする。</p> <p>(2) 塗装場所区分 塗装場所による区分は、下記のとおりとする。 ① 工場塗装 ② 現場塗装</p> <p>(3) 塗装工程区分 塗装工程による区分は、下記のとおりとする。 ① 塗装前処理 (原板プラスト・プライマー) ② 塗装前処理 (二次素地調整) ③ 塗装前処理 (二次素地調整 (製品プラスト) を含む) ④ 塗装前処理 (原板プラストのみ) ⑤ 下塗り ⑥ 中塗り ⑦ 上塗り 注) 二次素地調整の処理方法は、動力工具処理及びプラスト処理の方法を問わず適用する。 また、二次素地調整 (製品プラスト) は二次素地調整で製品プラストを行う場合に適用する。</p> <p>(4) 塗装面区分 塗装面による区分は、下記のとおりとする。 ① 外面塗装 ② 内面塗装 ③ 現場雑手塗装 ④ コンクリート接触面塗装</p> <p>(5) 塗装の種類区分 塗装系により区分して算出する。 溶融亜鉛メッキは、別途計上するものとする。 溶融亜鉛メッキは、メッキ付着量の種類ごとに区分し、鋼材質量を算出する。</p> <p>3-4-12</p>	区分 項目	塗装場所	塗装工程	塗装面	塗装の種類	単位	数量	備考	塗装	○	○	○	○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th>3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>塗装場所</th> <th>塗装工程</th> <th>塗装面</th> <th>塗装の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>塗装</td> <td>Ⅲ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「塗装」は、全表面積、非塗装面積を算出することより「Ⅲ」を適用する。 注) 1. 構造部材ごとに数量をとりまとめるものとする。</p>	区分 項目	3次元 モデル	属性情報				単位	数量	備考	塗装場所	塗装工程	塗装面	塗装の種類	塗装	Ⅲ	○	○	○	○	m ²			<p>備考</p> <p>記載の追加</p>
区分 項目	塗装場所	塗装工程	塗装面	塗装の種類	単位	数量	備考																																		
塗装	○	○	○	○	m ²																																				
区分 項目	3次元 モデル	属性情報				単位	数量	備考																																	
	塗装場所	塗装工程	塗装面	塗装の種類																																					
塗装	Ⅲ	○	○	○	○	m ²																																			
積算上の注意事項				(控え頁) 1/1																																					

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																																																																																										
現	行	改	正																																																																																																																																																																																																									
<p>4.4 鋼橋架設工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鋼橋上部工の架設工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地組、架設、本締めボルト、現場溶接、金属支承、ゴム支承、落橋防止装置、仮設備の数量を区分毎に算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格・仕様、橋梁型式とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">規格・仕様</th> <th rowspan="2">橋梁型式</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地組質量</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">架設</td> <td>橋体総質量</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主桁質量</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主桁架設回数</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> <td>回</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本締めボルト本数</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場溶接</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Uリブ溶接</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">金属支承</td> <td>省総質量</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>省設置数</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>省据付材料</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ゴム支承</td> <td>支承設置数</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支承据付材料</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">仮設備</td> <td>落橋防止装置</td> <td>○</td> <td>×</td> <td></td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ベント柱本数</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ベント高さ</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ベント質量</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>外桁間隔</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 「地組質量」は、地上組立をすべき主桁（鋼床版・溶接版を含む）の質量であり、副部材及び高欄等の質量は除く。 2. 「橋体総質量」は、「鋼道路橋数量集計マニュアル（案）」における「工数算定要素集計表」の加工鋼材質量合計（本体及び本体と同様に集計する付属物の加工鋼材質量の合計）から排水装置の質量を除き、伸縮装置及び検査路（桁付・下部付）の加工鋼材質量を加算したものとす。なお、鋼床版桁の場合は排水桁の鋼材質量を加算する。</p>		項目	区分	規格・仕様		橋梁型式	単位	数量	備考	規格	仕様	地組質量		×	○		t			架設	橋体総質量	×	○		t			主桁質量	×	○		t			主桁架設回数	×	○		回			本締めボルト本数	○	×		本			現場溶接	○	×		m			Uリブ溶接	○	×		個			金属支承	省総質量	×	×		t			省設置数	○	×		基			省据付材料	○	×		m ³			ゴム支承	支承設置数	○	×		基			支承据付材料	○	×		m ³			仮設備	落橋防止装置	○	×		組			ベント柱本数	×	×		本			ベント高さ	×	×		m			ベント質量	×	×		t				外桁間隔	×	×		m			<p>現行どおり</p>	<p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>橋梁型式</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地組質量</td> <td></td> <td>I</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">架設</td> <td>橋体総質量</td> <td>I</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td>注) 2</td> </tr> <tr> <td>主桁質量</td> <td>I</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主桁架設回数</td> <td>III</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>回</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本締めボルト本数</td> <td>II</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場溶接</td> <td>II</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Uリブ溶接</td> <td>II</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「地組質量」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて橋梁形式等を算出することより「I」を適用する。 「架設」の「橋体総質量」と「主桁質量」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて橋梁形式等を算出することより「I」を適用する。 「主桁架設回数」は、「架設」を表現している3次元モデルを用いて個数を算出することより「III」を適用する。 「本締めボルト本数」、「現場溶接」と「Uリブ溶接」は、簡易な形状・記号（点、線、面）を用いて位置と本数を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「II」を適用する。</p> <p>注) 1. 「地組質量」は、地上組立をすべき主桁（鋼床版・溶接版を含む）の質量であり、副部材及び高欄等の質量は除く。 2. 「橋体総質量」は、「鋼道路橋数量集計マニュアル（案）」における「工数算定要素集計表」の加工鋼材質量合計（本体及び本体と同様に集計する付属物の加工鋼材質量の合計）から排水装置の質量を除き、伸縮装置及び検査路（桁付・下部付）の加工鋼材質量を加算したものとす。なお、鋼床版桁の場合は排水桁の鋼材質量を加算する。 3. 主桁質量は、「鋼道路橋数量集計マニュアル（案）」にて主桁の大型材片及び小型材片に分類されている部材の総質量である。なお、鋼床版桁の場合は鋼床版の大型材片及び小型材片の質量の合計も含む。 4. 主桁架設回数には、鋼床版の架設回数を含む。なお、地組を行った場合の主桁架設回数は地組後の部材数を架設回数とする。</p>	項目	区分	3次元 モデル	属性情報				備考	規格・仕様	橋梁型式	単位	数量	地組質量		I	×	○	t		注) 1	架設	橋体総質量	I	×	○	t		注) 2	主桁質量	I	×	○	t			主桁架設回数	III	×	○	回			本締めボルト本数	II		○	×	本			現場溶接	II		○	×	m			Uリブ溶接	II		○	×	個		
項目	区分			規格・仕様						橋梁型式	単位	数量	備考																																																																																																																																																																																															
		規格	仕様																																																																																																																																																																																																									
地組質量		×	○		t																																																																																																																																																																																																							
架設	橋体総質量	×	○		t																																																																																																																																																																																																							
	主桁質量	×	○		t																																																																																																																																																																																																							
	主桁架設回数	×	○		回																																																																																																																																																																																																							
本締めボルト本数	○	×		本																																																																																																																																																																																																								
現場溶接	○	×		m																																																																																																																																																																																																								
Uリブ溶接	○	×		個																																																																																																																																																																																																								
金属支承	省総質量	×	×		t																																																																																																																																																																																																							
	省設置数	○	×		基																																																																																																																																																																																																							
	省据付材料	○	×		m ³																																																																																																																																																																																																							
ゴム支承	支承設置数	○	×		基																																																																																																																																																																																																							
	支承据付材料	○	×		m ³																																																																																																																																																																																																							
仮設備	落橋防止装置	○	×		組																																																																																																																																																																																																							
	ベント柱本数	×	×		本																																																																																																																																																																																																							
	ベント高さ	×	×		m																																																																																																																																																																																																							
	ベント質量	×	×		t																																																																																																																																																																																																							
	外桁間隔	×	×		m																																																																																																																																																																																																							
項目	区分	3次元 モデル	属性情報				備考																																																																																																																																																																																																					
			規格・仕様	橋梁型式	単位	数量																																																																																																																																																																																																						
地組質量		I	×	○	t		注) 1																																																																																																																																																																																																					
架設	橋体総質量	I	×	○	t		注) 2																																																																																																																																																																																																					
	主桁質量	I	×	○	t																																																																																																																																																																																																							
	主桁架設回数	III	×	○	回																																																																																																																																																																																																							
本締めボルト本数	II		○	×	本																																																																																																																																																																																																							
現場溶接	II		○	×	m																																																																																																																																																																																																							
Uリブ溶接	II		○	×	個																																																																																																																																																																																																							
積算上の注意事項	3-4-15 次頁から移動		(控え頁) 1/2																																																																																																																																																																																																									

記載の追加・削除

前頁から(一部)移動

3. 主桁質量は、「鋼道路橋数量集計マニュアル(案)」にて主桁の大型材片及び小型材片に分類されている部材の総質量である。なお、鋼床版の場合は鋼床版の大型材片及び小型材片の質量の合計も含む。

4. 主桁架設回数には、鋼床版の架設回数を含む。なお、地組を行った場合の主桁架設回数は地組後の部材数を架設回数とする。

5. 落橋防止装置は、PC鋼樑またはケーブルによって連結される落橋防止装置である。

6. 支保総質量には、アンカーボルトを含む。

7. 支保据付材料とは、無収縮モルタル等である。

8. 架設用仮設備において、基礎等が必要な場合は別途算出する。また、その他の架設方法は、必要に応じ所要数量を別途算出する。

4. 数量算出方法
 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) ベント設備質量
 トラッククレーン等によるベント工法で使用されるベントのように、架設する部材毎に設置し橋体のみを支持するベントで比較的大きな反力とならない高さ30m以内のベント質量は、下記により算出する。

ベント総質量(T)は、次式による。

$$T = \sum T_i$$

$$h < 10 \quad T_i = 0.372 \times (B + 1.5) + \{4.097 \times n + 0.372 \times (B + 1.5)\} \times h / 10$$

$$10 \leq h \leq 30 \quad T_i = 0.328 \times n \times h + 0.744 \times (B + 1.5) + 0.837 \times n$$

ただし、T: ベント総質量(つなぎ材、筋かい、梁等を含む)(t)
 T_i: 1基当りのベント質量(t)
 n: 1列当りのベント柱本数(本)

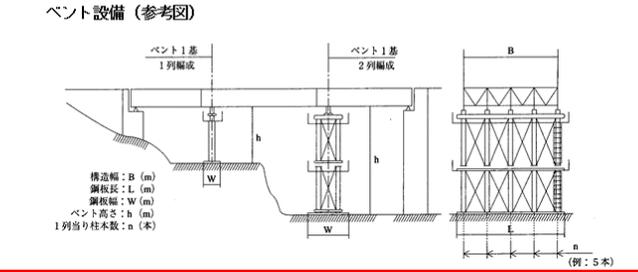
h: ベント高さ(基礎天端から主桁下端まで)(m)
 B: 外桁~外桁間隔(箱桁は外Web~外Web間隔)(m)
 なお、T_i、h、Bとも小数第1位止(2位四捨五入)とする。

(2) ベント基礎鋼板
 ベント基礎で鋼板を用いる場合の延べ面積(A)は次式による。

$$A = \sum A_i$$

$$A_i = (B + 2) \times 3$$

ただし、A_i: ベント1基当りの基礎の面積
 B: 外桁~外桁間隔(箱桁は外Web~外Web間隔)(m)
 なお、A_i、Bとも小数第1位止(2位四捨五入)とする。



3-4-16

前頁へ移動

次頁へ移動

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格・仕様	橋梁型式	単位	数量
金属支保	支保総質量	II	×	×	t	
	支保設置数	II	○	×	基	
	支保据付材料	I	○	×	m ³	
ゴム支保	支保設置数	II	○	×	基	
	支保据付材料	I	○	×	m ³	

「金属支保」の「支保総質量」と「支保設置数」は、簡易な形状・記号(点、線、面)を用いて位置と基数等を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「II」を適用する。「支保据付材料」は、体積を算出することより「I」を適用する。

「ゴム支保」の「支保設置数」は、簡易な形状・記号(点、線、面)を用いて位置と基数等を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を算出することより「II」を適用する。「支保据付材料」は、体積を算出することより「I」を適用する。

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格・仕様	橋梁型式	単位	数量
落橋防止装置	II	○	×	組		
仮ベント柱本数	III	×	×	本		
設ベント高さ	III	×	×	m		
備ベント質量	I	×	×	t		
外桁間隔	III	×	×	m		

「落橋防止装置」は、簡易な形状・記号(点、線、面)を用いて位置と基数を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「II」を適用する。「仮設備」の「仮ベント柱本数」、「設ベント高さ」、「外桁間隔」は、3次元モデルに関連付けした属性情報を用いて数量を算出することより「III」を適用する。「備ベント質量」は、体積を算出することより「I」を適用する。

注) 1. 落橋防止装置は、PC鋼樑またはケーブルによって連結される落橋防止装置である。
 2. 支保総質量には、アンカーボルトを含む。
 3. 支保据付材料とは、無収縮モルタル等である。
 4. 架設用仮設備において、基礎等が必要な場合は別途算出する。また、その他の架設方法は、必要に応じ所要数量を別途算出する。

4. 数量算出方法
 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) ベント設備質量
 トラッククレーン等によるベント工法で使用されるベントのように、架設する部材毎に設置し橋体のみを支持するベントで比較的大きな反力とならない高さ30m以内のベント質量は、下記により算出する。

ベント総質量(T)は、次式による。

$$T = \sum T_i$$

$$h < 10 \quad T_i = 0.372 \times (B + 1.5) + \{4.097 \times n + 0.372 \times (B + 1.5)\} \times h / 10$$

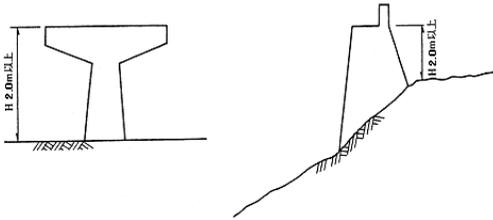
$$10 \leq h \leq 30 \quad T_i = 0.328 \times n \times h + 0.744 \times (B + 1.5) + 0.837 \times n$$

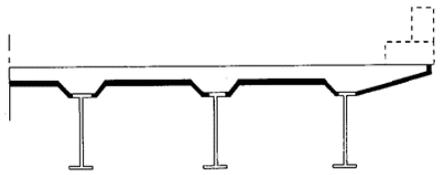
ただし、T: ベント総質量(つなぎ材、筋かい、梁等を含む)(t)
 T_i: 1基当りのベント質量(t)
 n: 1列当りのベント柱本数(本)

記載の追加・削除

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																	
	<p>現 行</p> <p>4.5 仮設工</p> <p>4.5.1 足場設備工</p> <p>1. 適用</p> <p>鋼橋架設工の足場設備工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>足場の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、使用目的、足場種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>使用目的</th> <th>足場種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 使用目的区分 使用目的による区分は下記のとおりとする。 ① 架設足場 ② 床版足場 ③ 現場塗装足場</p> <p>(3) 足場種類区分 足場種類による区分は、下記のとおりとする。 ① パイプ吊り足場 ② ワイヤブリッジ転用足場</p> <p>標準はパイプ足場とするが、次の場合はワイヤブリッジ転用足場を考慮する。 ① 地上又は水面上高さが10m以上となる場合 ② 対岸又は相隣接する橋台、橋脚間の作業場の通路がない場合 ③ その他安全管理上等ワイヤブリッジ転用足場が必要な場合</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 足場は、径間ごとに腹板高（H）が1.5m未満、以上に区分して算出する。</p> <p>A = W × L A：橋面積（m²） W：全幅員（地覆外線間距離）（m） L：橋長（m）</p> <p>3-4-17</p>	項目	区分	使用目的	足場種類	単位	数量	備考	足場		○	○	m ²			<p>改 正</p> <p>現 行</p> <p>改 正</p> <p>現 行</p> <p>現行どおり</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>使用目的</th> <th>足場種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場</td> <td>II</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「足場」は、簡易な形状・記号（点、線、面）を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて使用目的と足場種類を区分することより「II」を適用する。</p>	項目	区分	3次元モデル		属性情報			使用目的	足場種類	単位	数量	備考	足場	II	○	○	m ²			<p>備考</p> <p>記載の追加</p>
項目	区分	使用目的	足場種類	単位	数量	備考																														
足場		○	○	m ²																																
項目	区分	3次元モデル		属性情報																																
		使用目的	足場種類	単位	数量	備考																														
足場	II	○	○	m ²																																
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																	

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																		
現	行	改	正																																		
<p>4.5.2 防護設備工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鋼橋架設工の防護設備工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">防護の面積を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、防護種類とする。</div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">防護種類</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>防護種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防護</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>(2) 防護種類区分 防護種類による区分は、下記のとおりとする。 ① 板張防護工 ② シート張防護工 ③ ワイヤブリッジ防護工</p> <p>板張防護工は、桁下に鉄道、道路等があり、第三者に危険を及ぼす恐れのある場合に使用する。 シート張り防護工は、鋼橋塗装において塗料飛散を防止する必要がある場合に使用する。 ただし、桁下に鉄道、道路等があり、第三者に危険を及ぼす恐れがある場合は、板張防護とする。 ワイヤブリッジ防護工は、転落防護及び落下防止の目的で使用する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>防護工必要面積は、次式により算出する。</p> <p style="margin-left: 20px;">A = W × L A：防護工必要面積（m²） W：全幅員（地覆外縁間距離）（m） L：必要長（m）</p> <p>ただし、トラス、アーチ式、ランカー桁等側面塗装をする場合において飛散防止のためシート防護工を設置する場合は次式により算出する。</p> <p style="margin-left: 20px;">A = 側面投影面積（m²）× 2 A：トラスの側面面積（左右両弦の合計）（m²）</p>		項目	区分	防護種類	単位	数量	備考	防護種類	単位	数量	備考	防護	○		m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>防護種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防護</td> <td>II</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">「防護」は、簡易な形状・記号（点、線、面）を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて防護種類を算出することより「II」を適用する。</p> <p>現行どおり</p>	項目	区分	3次元 モデル	属性情報				防護種類	単位	数量	備考	防護	II		○	m ²			記載の追加
項目	区分							防護種類	単位	数量	備考																										
		防護種類	単位	数量	備考																																
防護	○		m ²																																		
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																		
			防護種類	単位	数量	備考																															
防護	II		○	m ²																																	
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																		

改正理由	一部改正	改正 現行																										
現 行	改 正		備 考																									
<p>4.5.3 登り棧橋工</p> <p>1. 適用</p> <p>鋼橋架設工の登り棧橋工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>登り棧橋の設置数を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、設置高さとする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>設置高さ</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登り棧橋</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>橋脚等における登り棧橋については、下記により算出することを原則とする。</p> <p>(1) 橋脚、橋台の高さが2.0m以上となる場合を対象とする。</p> <p>(2) 設置箇所数は2スパンに1箇所又は100mに1箇所として、河川をまたぐ場合は兩岸に各1箇所とする。</p>  <p>3-4-20</p>	区分 項目	設置高さ	単位	数 量	備 考	登り棧橋	○	箇所			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元 モデル II</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>設置高さ</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登り棧橋</td> <td></td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「登り棧橋」は、簡易な形状・記号（点、線、面）を用いて位置と箇所を算出し、属性情報をを用いて設置高さを算出することより「II」を適用する。</p> <p>現行どおり</p>	区分 項目	3次元 モデル II	属性情報				設置高さ	単位	数 量	備 考	登り棧橋		○	箇所			記載の追加
区分 項目	設置高さ	単位	数 量	備 考																								
登り棧橋	○	箇所																										
区分 項目	3次元 モデル II	属性情報																										
		設置高さ	単位	数 量	備 考																							
登り棧橋		○	箇所																									
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																									

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																
現行	改正	備考																																																																
<p>4.6 床版工</p> <p>4.6.1 コンクリート床版工</p> <p>1. 適用</p> <p>鋼橋上部工の床版工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>型枠面積、鉄筋質量、コンクリート体積及び床版面積を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型 枠</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄 筋</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>床 版</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>鉄筋、コンクリートの数量の算出は、「第1編（共通編）4章コンクリート工」によるが型枠の数量は、下図により算出する。</p>  <p style="text-align: center;">3-4-21</p>		項目	規格・仕様	単位	数量	備考	型 枠		m ²			鉄 筋		t			コンクリート		m ³			床 版		m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型枠</td> <td></td> <td>II</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td>II</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>I</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>床版</td> <td></td> <td>II</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「型枠」は、簡易な形状（面）を用いて位置と面積を算出することより「II」を適用する。 「鉄筋」は、「床版」の3次元モデルの内部に簡易な形状・記号（線、面）を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分し、質量を算出することより「II」を適用する。 「コンクリート」は、3次元モデルを用いて体積を算出することより「I」を適用する。 「床版」は、「橋梁本体」の3次元モデルに簡易な形状・記号（点、線、面）を用いて位置と面積を算出することより「II」を適用する。</p> <p>現行どおり</p>	項目	区分	3次元 モデル	属性情報			規格・仕様	単位	数量	備考	型枠		II		m ²			鉄筋		II		t			コンクリート		I		m ³			床版		II		m ²			記載の追加
項目	規格・仕様	単位	数量	備考																																																														
型 枠		m ²																																																																
鉄 筋		t																																																																
コンクリート		m ³																																																																
床 版		m ²																																																																
項目	区分	3次元 モデル	属性情報																																																															
			規格・仕様	単位	数量	備考																																																												
型枠		II		m ²																																																														
鉄筋		II		t																																																														
コンクリート		I		m ³																																																														
床版		II		m ²																																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																															

改正理由	一部改正	改正 現行																																																
現 行	改 正	備 考																																																
<p>4.6.2 グレーチング床版架設工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鋼橋床版工のうち、グレーチング床版による橋梁床版架設工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グレーチング床版の面積と鋼材質量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格・仕様とする。</div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">規格・仕様</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>区 分</th> <th>3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グレーチング床版面積</td> <td></td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>グレーチング床版鋼材質量</td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) グレーチング床版のブロックは以下に区分して算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 床版部材 (t) <ul style="list-style-type: none"> — グレーチング床版 — 地覆型枠外側プレート — グレーチング床版ハンチ部 <p>(2) その他の関連算出項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンクリート工は、「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.1コンクリート工」によるものとする。 2. 型枠工は、「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.2型枠工」によるものとする。 3. 鉄筋工は、「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.3.1鉄筋工」によるものとする。 	項目	区分	規格・仕様	単位	数 量	備 考	区 分	3次元 モデル	属性情報			グレーチング床版面積		×	m ²			グレーチング床版鋼材質量		○	t			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グレーチング床版面積</td> <td></td> <td>II</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>グレーチング床版鋼材質量</td> <td></td> <td>I</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「グレーチング床版面積」は、「橋梁本体」の3次元モデルに簡易な形状・記号（点、線、面）を加えて位置と面積を算出することより「II」を適用する。 「グレーチング床版鋼材質量」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区別することより「I」を適用する。</p> <p>現行どおり</p>	項目	区分	3次元 モデル	属性情報			備考	規格・仕様	単位	数量	グレーチング床版面積		II	×	m ²			グレーチング床版鋼材質量		I	○	t			記載の追加	
項目							区分	規格・仕様	単位	数 量	備 考																																							
	区 分	3次元 モデル	属性情報																																															
グレーチング床版面積		×	m ²																																															
グレーチング床版鋼材質量		○	t																																															
項目	区分	3次元 モデル	属性情報			備考																																												
			規格・仕様	単位	数量																																													
グレーチング床版面積		II	×	m ²																																														
グレーチング床版鋼材質量		I	○	t																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																															

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																	
現	行	改	正																																																																																
<p>4.7 橋梁付属物工</p> <p>4.7.1 伸縮装置工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">橋梁用鋼製伸縮装置工の新設（単独で発注する工事）及び補修に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">伸縮装置材料、補強鉄筋、コンクリートアンカ、打設コンクリートの数量を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格とする。</div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>新設</th> <th>取替</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸縮装置材料</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>補強鉄筋</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>必要な場合</td> </tr> <tr> <td>コンクリートアンカ</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>必要な場合</td> </tr> <tr> <td>打設コンクリート</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>—</td> <td></td> <td>必要な場合</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 伸縮装置材料 伸縮装置本体の延長を算出する。</p> <p>(2) 打設コンクリート 生コンクリート、超速硬コンクリート、樹脂モルタル等に区分して体積を算出する。</p> <p>(3) 補強鉄筋等 補強鉄筋及びコンクリートアンカは、質量及び本数を算出する。</p>		項目	区分	規格	単位	数量		備考	新設	取替	伸縮装置材料	○	m					補強鉄筋	○	t				必要な場合	コンクリートアンカ	○	本				必要な場合	打設コンクリート	○	m ³		—		必要な場合	<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">項目</th> <th rowspan="3">区分</th> <th rowspan="3">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>新設</th> <th>取替</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸縮装置材料</td> <td>II</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>補強鉄筋</td> <td>II</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td>必要な場合</td> </tr> <tr> <td>コンクリートアンカー</td> <td>II</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td>必要な場合</td> </tr> <tr> <td>打設コンクリート</td> <td>I</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td>—</td> <td></td> <td>必要な場合</td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">「伸縮装置材料」、「補強鉄筋」と「コンクリートアンカー」は、3次元モデルに簡易な形状・記号（点、線、面）を加えて位置と延長等を算出し、属性情報を用いて規格を区別することより「II」を適用する。 「打設コンクリート」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格を区別することより「I」を適用する。 ※関連「4.1.1 橋梁本体」</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報				規格	単位	数量		備考	新設	取替	伸縮装置材料	II	○	m				補強鉄筋	II	○	t			必要な場合	コンクリートアンカー	II	○	本			必要な場合	打設コンクリート	I	○	m ³	—		必要な場合	記載の追加
項目	区分					規格	単位		数量		備考																																																																								
		新設	取替																																																																																
伸縮装置材料	○	m																																																																																	
補強鉄筋	○	t				必要な場合																																																																													
コンクリートアンカ	○	本				必要な場合																																																																													
打設コンクリート	○	m ³		—		必要な場合																																																																													
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																																
			規格	単位	数量		備考																																																																												
					新設	取替																																																																													
伸縮装置材料	II	○	m																																																																																
補強鉄筋	II	○	t			必要な場合																																																																													
コンクリートアンカー	II	○	本			必要な場合																																																																													
打設コンクリート	I	○	m ³	—		必要な場合																																																																													
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																

改正理由	一部改正	改正 現行																																												
現 行	改 正		備 考																																											
<p>(4) 後打コンクリート 生コンクリート、超速硬コンクリート、樹脂モルタル等に区分して体積を算出する。</p> <p>(5) ガラスローピングクロス a) ガラスローピングの規格は、施工幅に応じて決定すること。 b) 層数は、必要に応じ数量を決定し、全長を算出する。</p> <p>(6) 打継用接着材 接着材の規格は、後打材の種類を考慮して決定し、実面積を算出する。</p> <p>(7) 特殊型種 特殊型種が必要な場合は別途算出する。</p> <p>3. 鋼製伸縮装置</p> <p>(1) 数量算出項目</p> <p>伸縮装置材料、後打コンクリート等の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>(2) 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="369 882 853 1058"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">規格</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>新 設</th> <th>取 替</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸縮装置材料</td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>補 強 鉄 筋</td> <td>○</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td>取替工では必要な場合算出</td> </tr> <tr> <td>コンクリートアンカー</td> <td>○</td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td>取替工では必要な場合算出</td> </tr> <tr> <td>後打コンクリート</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>打継用接着材</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td>—</td> <td></td> <td>必要な場合算出</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 伸縮装置の製作に必要な材料の数量も算出する。</p> <p>(2) 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編) 1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 伸縮継手延長を算出する。</p> <p>(2) 補強鉄筋等 補強鉄筋及びコンクリートアンカーは、質量及び本数を算出する。</p> <p>(3) 後打コンクリート 伸縮装置を取替える場合に算出する。</p> <p>(4) 打継用接着材 伸縮装置を取替える場合に計上し、接着材の規格は、後打コンクリートの種類を考慮して決定し、実面積を算出する。</p>	項目	区分	規格	単位	数 量		備 考	新 設	取 替	伸縮装置材料	○		m				補 強 鉄 筋	○		t			取替工では必要な場合算出	コンクリートアンカー	○		本			取替工では必要な場合算出	後打コンクリート	○		m ³	—			打継用接着材	○		m ²	—		必要な場合算出	<p>削除</p>	<p>記載の削除</p>
項目					区分	規格		単位	数 量		備 考																																			
	新 設	取 替																																												
伸縮装置材料	○		m																																											
補 強 鉄 筋	○		t			取替工では必要な場合算出																																								
コンクリートアンカー	○		本			取替工では必要な場合算出																																								
後打コンクリート	○		m ³	—																																										
打継用接着材	○		m ²	—		必要な場合算出																																								
積算上の注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>2/2</p>																																											

改正理由	一部改正	改正 現行																																																		
現 行	改 正		備 考																																																	
<p>4.7.2 橋梁排水管設置工</p> <p>1. 適用 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鋼管、V P 管（φ100mm～200mm）による各種系統タイプ及び溝部の橋梁排水管を設置する作業に適用し、排水樹設置及び排水管製作は含まない。</div></p> <p>2. 数量算出項目 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">排水管設置の延長を区分ごとに算出する。</div></p> <p>3. 区分 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、管種区分とする。</div></p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>管種区分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリートアンカーボルト設置</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>排水管設置</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>注) 1、2</td> </tr> <tr> <td>排水管（材料費）</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>注) 1、2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 流心延長も算出する。 2. 排水径は、φ100～φ200とする。</p> </div> <p>(2) 管種区分 管種区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>管種区分 ———— V P 管</p> <p style="margin-left: 20px;">└─── 鋼管</p> </div> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>1) 排水管（材料費）は、管種区分ごとに、直管の他、蛇腹管・エルボ等の排水管（付属品及び支持金具を含む）も算出する。</p>				項 目	管種区分	単 位	数 量	備 考	コンクリートアンカーボルト設置	×	箇所			排水管設置	○	m		注) 1、2	排水管（材料費）	○	m		注) 1、2	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>管種区分</th> <th>単位</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリートアンカーボルト設置</td> <td></td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">箇所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>排水管設置</td> <td></td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td>注) 1、2</td> </tr> <tr> <td>排水管（材料費）</td> <td></td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td>注) 1、2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 流心延長も算出する。 注) 2. 排水径は、φ100～φ200とする。</p> <p>「コンクリートアンカーボルト設置」は、3次元モデルに簡易な形状・記号（点、線、面）を用いて位置と延長を算出することより「II」を適用する。 「排水管設置」と「排水管（材料費）」は、3次元モデルに簡易な形状・記号（点、線、面）を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて管種区分をすることより「II」を適用する。 ※関連 「4.1.1 橋梁本体」</p> <p>現行どおり</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報			管種区分	単位	備考	コンクリートアンカーボルト設置		II	×	箇所		排水管設置		II	○	m	注) 1、2	排水管（材料費）		II	○	m	注) 1、2	<p>記載の追加</p>
項 目	管種区分	単 位	数 量	備 考																																																
コンクリートアンカーボルト設置	×	箇所																																																		
排水管設置	○	m		注) 1、2																																																
排水管（材料費）	○	m		注) 1、2																																																
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																	
			管種区分	単位	備考																																															
コンクリートアンカーボルト設置		II	×	箇所																																																
排水管設置		II	○	m	注) 1、2																																															
排水管（材料費）		II	○	m	注) 1、2																																															
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																	

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																
現	行	改	正																																																																															
<p>4.8 歩道橋(側道橋)架設工</p> <p>1. 適用</p> <p>横断歩道橋、側道橋(架設後、人道用として使用する橋で構造系として本橋(車道用)とは独立したもの)の架設に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>歩道橋(側道橋)の架設、側板の面積、橋面舗装の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、材質とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩道橋(側道橋)の架設</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横断歩道橋側板</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋面舗装</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 歩道橋(側道橋)架設は、以下の内訳で算出する。</p> <p>1) 横断歩道橋</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンカーフレーム据付</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支保工</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吊足場</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> <td>防護工が必要な場合</td> </tr> <tr> <td>手摺先行型枠組足場</td> <td>×</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>架設</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支柱据付</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>手摺設置</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> <td>注)</td> </tr> <tr> <td>摩擦接合用高力ボルト</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 数量は手摺延長とし、上下2段等複数段設置する場合の数量は1段分の延長とし、設置段数を明示すること。</p>		項目	区分	規格	単位	数量	備考	歩道橋(側道橋)の架設	×	t				横断歩道橋側板	○	m ²				橋面舗装	○	m ²				項目	区分	規格・仕様	単位	数量	備考	アンカーフレーム据付	×	t				支保工	×	t				吊足場	×	m ²			防護工が必要な場合	手摺先行型枠組足場	×	箇所				架設	○	t				支柱据付	×	t				手摺設置	×	m			注)	摩擦接合用高力ボルト	○	本				現行どおり		備考
		項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																											
歩道橋(側道橋)の架設	×	t																																																																																
横断歩道橋側板	○	m ²																																																																																
橋面舗装	○	m ²																																																																																
項目	区分	規格・仕様	単位	数量	備考																																																																													
アンカーフレーム据付	×	t																																																																																
支保工	×	t																																																																																
吊足場	×	m ²			防護工が必要な場合																																																																													
手摺先行型枠組足場	×	箇所																																																																																
架設	○	t																																																																																
支柱据付	×	t																																																																																
手摺設置	×	m			注)																																																																													
摩擦接合用高力ボルト	○	本																																																																																
積算上の注意事項		現行どおり		記載の追加																																																																														
				(控え頁) 1/1																																																																														

改正理由	一部改正	改正 現行																																												
現 行		改 正																																												
<p>5章 コンクリート橋上部工</p> <p>5.1 コンクリート主桁製作工</p> <p>5.1.1 プレテンション桁購入工</p> <p>1. 適用</p> <p>プレテンション桁橋の主桁購入工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>主桁の本数、質量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主桁本数</td> <td rowspan="2">○</td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主桁質量</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	区分	規格	単位	数量	備考	主桁本数	○		本			主桁質量		t			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th colspan="2">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主桁本数</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>主桁質量</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table> <p>「主桁本数」は、「主桁質量」を表現している3次元モデルより本数を算出し、属性情報を用いて規格を算出することより「A」を適用する。 「主桁質量」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「A」を適用する。</p>		項目	区分	3次元モデル		属性情報			規格	単位	数量	備考		主桁本数	A	○	本				主桁質量	A	○	t			
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																									
主桁本数	○		本																																											
主桁質量			t																																											
項目	区分	3次元モデル		属性情報																																										
		規格	単位	数量	備考																																									
主桁本数	A	○	本																																											
主桁質量	A	○	t																																											
積算上の注意事項		記載の追加																																												
		(控え頁)																																												
		1/1																																												

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																				
	<p>5.1.2 ポストテンションT(I)桁製作工</p> <p>1. 適用</p> <p>ポストテンションT(I)桁橋の主桁製作工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>鉄筋、コンクリート、PCケーブル、PC緊張等の数量を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型 枠</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>鋼製型枠面積算出用</td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>型枠工、養生工、主桁製作用足場工を含む</td> </tr> <tr> <td>PCケーブル</td> <td>○</td> <td>m(kg)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>PC 緊 張</td> <td>○</td> <td>ケーブル</td> <td></td> <td>定着装置を含む</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>桁長別に桁本数を取りまとめる。 また、桁の形状が異なるごとに桁1本当りの数量を算出し集計する。</p> <p>(1) 型枠 型枠面積は、側部及び端部面積のみとし、定着部面積は考慮しない。 底型枠は、主桁製作台を利用する。</p> <p>(2) コンクリート 桁1本当りの質量も算出する。</p> <p>(3) PCケーブル ケーブル延長は、定着具内面間の実延長とし、ケーブルの種類ごとにケーブル延長及び質量を算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ケーブルの種類</th> <th>シ ー ス 径</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1300KN(130t)型(7S12.7B)</td> <td>φ55</td> </tr> <tr> <td>2200KN(225t)型(12S12.7B)</td> <td>φ65</td> </tr> <tr> <td>3100KN(320t)型(12S15.2B)</td> <td>φ75</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) PC緊張 ケーブルの種類ごとに算出する。</p> <p>3-5-3</p>	項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	型 枠	○	m ²		鋼製型枠面積算出用	コンクリート	○	m ³		型枠工、養生工、主桁製作用足場工を含む	PCケーブル	○	m(kg)			PC 緊 張	○	ケーブル		定着装置を含む	ケーブルの種類	シ ー ス 径	1300KN(130t)型(7S12.7B)	φ55	2200KN(225t)型(12S12.7B)	φ65	3100KN(320t)型(12S15.2B)	φ75	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型枠</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td>鋼製型枠面積算出用</td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>型枠工、養生工、主桁製作用足場工を含む</td> </tr> <tr> <td>PCケーブル</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m(kg)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>PC緊張</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>ケーブル</td> <td></td> <td>定着装置を含む</td> </tr> </tbody> </table> <p>「型枠」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「コンクリート」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「A」を適用する。 「PCケーブル」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置とケーブル延長を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「PC緊張」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する</p> <p>現行どおり</p>	項目	区分	属性情報				3次元モデル	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	型枠	B	○	m ²		鋼製型枠面積算出用	コンクリート	A	○	m ³		型枠工、養生工、主桁製作用足場工を含む	PCケーブル	B	○	m(kg)			PC緊張	B	○	ケーブル		定着装置を含む	記載の追加
項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																																																			
型 枠	○	m ²		鋼製型枠面積算出用																																																																			
コンクリート	○	m ³		型枠工、養生工、主桁製作用足場工を含む																																																																			
PCケーブル	○	m(kg)																																																																					
PC 緊 張	○	ケーブル		定着装置を含む																																																																			
ケーブルの種類	シ ー ス 径																																																																						
1300KN(130t)型(7S12.7B)	φ55																																																																						
2200KN(225t)型(12S12.7B)	φ65																																																																						
3100KN(320t)型(12S15.2B)	φ75																																																																						
項目	区分	属性情報																																																																					
	3次元モデル	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																																																		
型枠	B	○	m ²		鋼製型枠面積算出用																																																																		
コンクリート	A	○	m ³		型枠工、養生工、主桁製作用足場工を含む																																																																		
PCケーブル	B	○	m(kg)																																																																				
PC緊張	B	○	ケーブル		定着装置を含む																																																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																				

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																									
現	行	改	正																																																																																																								
<p>5.1.3 PCホロースラブ製作工</p> <p>1. 適用</p> <p>ポストテンション場所打ホロースラブ橋の主桁製作工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>円筒型枠、鉄筋、コンクリート、PCケーブル、PC緊張、接続工、落橋防止装置、支承等の数量を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>円筒型枠</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>PCケーブル</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>グラウト及びシースの数量は、PCケーブル工に含むため算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>PC緊張</td> <td>○</td> <td>ケーブル</td> <td></td> <td>定着装置の数量は、PC緊張を含むため算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>接続工</td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支 承</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>落橋防止装置</td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 架設支保工については、「第3編(道路編) 5章5. 3架設支保工」によるものとする。</p> <p>3. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編) 1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>各通ごとに数量を取りまとめる。</p> <p>(1) 円筒型枠 径ごとに円筒型枠の延長を算出する。 なお、円筒型枠1m当りの取付バンド、受台、締め付けボルト数についても算出する。</p> <p>(2) 鉄筋 鉄筋の数量は、「第1編(共通編) 4章コンクリート工 4. 3. 1鉄筋工」により算出する。</p> <p>(3) コンクリート コンクリート量の算出にあたっては、打設回数に応じて集計する。</p>		項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	円筒型枠	○	m			鉄筋	○	t			コンクリート	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。	PCケーブル	○	m		グラウト及びシースの数量は、PCケーブル工に含むため算出する必要はない。	PC緊張	○	ケーブル		定着装置の数量は、PC緊張を含むため算出する必要はない。	接続工	○	組			支 承	○	個			落橋防止装置	○	組			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区分</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>円筒型枠</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>PCケーブル</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>グラウト及びシースの数量は、PCケーブル工に含むため算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>PC緊張</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>ケーブル</td> <td></td> <td>定着装置の数量は、PC緊張を含むため算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>接続工</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支承</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>落橋防止装置</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「円筒型枠」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「鉄筋」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と延長を用いて質量を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「コンクリート」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「A」を適用する。 「PCケーブル」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置とケーブル延長を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「PC緊張」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「接続工」は、ケーブル接続が必要な場合に計上することより「C」を適用する。 「支承」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と個数を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「落橋防止装置」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と組数を、属性情報を用いて規格・仕様を算出することより「B」を適用する。</p> <p>注) 架設支保工については、「第3編(道路編) 5章5. 3架設支保工」によるものとする。</p> <p>次頁へ移動</p>	項目	区分		属性情報			3次元モデル	規格・仕様	単位	数量	備考	円筒型枠	B	○	m			鉄筋	B	○	t			コンクリート	A	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。	PCケーブル	B	○	m		グラウト及びシースの数量は、PCケーブル工に含むため算出する必要はない。	PC緊張	B	○	ケーブル		定着装置の数量は、PC緊張を含むため算出する必要はない。	接続工	C	○	組			支承	B	○	個			落橋防止装置	B	○	組			<p>記載の追加</p>
項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																																																																																							
円筒型枠	○	m																																																																																																									
鉄筋	○	t																																																																																																									
コンクリート	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。																																																																																																							
PCケーブル	○	m		グラウト及びシースの数量は、PCケーブル工に含むため算出する必要はない。																																																																																																							
PC緊張	○	ケーブル		定着装置の数量は、PC緊張を含むため算出する必要はない。																																																																																																							
接続工	○	組																																																																																																									
支 承	○	個																																																																																																									
落橋防止装置	○	組																																																																																																									
項目	区分		属性情報																																																																																																								
	3次元モデル	規格・仕様	単位	数量	備考																																																																																																						
円筒型枠	B	○	m																																																																																																								
鉄筋	B	○	t																																																																																																								
コンクリート	A	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。																																																																																																						
PCケーブル	B	○	m		グラウト及びシースの数量は、PCケーブル工に含むため算出する必要はない。																																																																																																						
PC緊張	B	○	ケーブル		定着装置の数量は、PC緊張を含むため算出する必要はない。																																																																																																						
接続工	C	○	組																																																																																																								
支承	B	○	個																																																																																																								
落橋防止装置	B	○	組																																																																																																								
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																																								

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																						
	<p>5.1.4 RC場所打ホロースラブ製作工</p> <p>1. 適用</p> <p>RC場所打ホロースラブ橋の主桁製作工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>円筒型枠、鉄筋、コンクリート、落橋防止装置、支承等の数量を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>円筒型枠</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>型枠工及び養生工の数量は、コンクリートに含むため算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>落橋防止装置</td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支 承</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 架設支保工については、「第3編(道路編)5章5.3架設支保工」によるものとする。</p> <p>3. 数量計算方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。各違ごとに数量を取りまとめる。</p> <p>(1) 円筒型枠 径ごとに円筒型枠の延長を算出する。 なお、円筒型枠1m当りの取付バンド、受台、締め付けボルト数についても算出する。</p> <p>(2) 鉄筋 鉄筋の数量は、「第1編(共通編)4章コンクリート工 4.3.1鉄筋工」により算出する。</p> <p>(3) コンクリート コンクリート量の算出にあたっては、打設回数に応じて集計する。</p> <p>(4) 落橋防止装置 落橋防止装置は、PC鋼棒又はケーブルによって連結される落橋防止装置である。 なお、落橋防止装置1組当りの伸縮スポンジ、緩衝パッキン、支圧板、座金、PC鋼材、ナット、シース等の数量についても算出する。</p> <p>(5) 支承 支承は、道路橋示方書でいうタイプBのゴム支承である。金属支承については、「第3編(道路編)4章4.4鋼橋架設工」によることとする。 なお、支承1個当りの無収縮モルタル量(m³)についても算出する。</p>	項 目	規格・仕様	単位	数 量	備 考	円筒型枠	○	m			鉄筋	○	t			コンクリート	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリートに含むため算出する必要はない。	落橋防止装置	○	組			支 承	○	個			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元 モデル</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>円筒型枠</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>落橋防止装置</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支承</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「円筒型枠」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「鉄筋」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「コンクリート」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「A」を適用する。 「落橋防止装置」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と組数を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「支承」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と個数を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を算出することより「B」を適用する。</p> <p>注) 架設支保工については、「第3編(道路編)5章5.3架設支保工」によるものとする。</p> <p>現行どおり</p>	項 目	区分	属性情報				3次元 モデル	規格・仕様	単位	数量	円筒型枠	B	○	m			鉄筋	B	○	t			コンクリート	A	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。	落橋防止装置	B	○	組			支承	B	○	個			記載の追加
項 目	規格・仕様	単位	数 量	備 考																																																																					
円筒型枠	○	m																																																																							
鉄筋	○	t																																																																							
コンクリート	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリートに含むため算出する必要はない。																																																																					
落橋防止装置	○	組																																																																							
支 承	○	個																																																																							
項 目	区分	属性情報																																																																							
		3次元 モデル	規格・仕様	単位	数量																																																																				
円筒型枠	B	○	m																																																																						
鉄筋	B	○	t																																																																						
コンクリート	A	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。																																																																				
落橋防止装置	B	○	組																																																																						
支承	B	○	個																																																																						
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																						

改 正 理 由	一 部 改 正	改 正 現 行	備 考																																														
現	行	改	正																																														
<p>5.1.5 PC箱桁製作工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ポストテンション場所打箱桁橋の主桁製作工（場所打固定式支保工法によるPC定着工法）に適用する。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 鉄筋、コンクリート、ケーブル・緊張、接続工、落橋防止装置、支承等の数量を算出する。 </div>		<p>（1）数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="2">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含まれ算出する必要はない</td> </tr> <tr> <td>ケーブル・緊張</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>ケーブル</td> <td></td> <td>グラウト、シース及び定着装置の数量はケーブル・緊張工に含まれ算出する必要はない</td> </tr> <tr> <td>接続工</td> <td>C</td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支 承</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>落橋防止装置</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「コンクリート」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「A」を適用する。 「ケーブル・緊張」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置とケーブル延長を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「接続工」は、ケーブル接続が必要な場合に計上することより「C」を適用する。 「支承」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と個数を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「落橋防止装置」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と組数を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。</p> <p>注）架設支保工については、「第3編（道路編）5章5.3架設支保工」によるものとする。</p>	項目	区分	3次元モデル		属性情報		規格・仕様	単位	数量	備考	鉄筋	B	○	t			コンクリート	A	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含まれ算出する必要はない	ケーブル・緊張	B	○	ケーブル		グラウト、シース及び定着装置の数量はケーブル・緊張工に含まれ算出する必要はない	接続工	C	○	組			支 承	B	○	個			落橋防止装置	B	○	組			<p>記載の追加</p>
項目	区分				3次元モデル		属性情報																																										
		規格・仕様	単位	数量	備考																																												
鉄筋	B	○	t																																														
コンクリート	A	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含まれ算出する必要はない																																												
ケーブル・緊張	B	○	ケーブル		グラウト、シース及び定着装置の数量はケーブル・緊張工に含まれ算出する必要はない																																												
接続工	C	○	組																																														
支 承	B	○	個																																														
落橋防止装置	B	○	組																																														
<p>（1）数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄 筋</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含まれ算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>ケーブル・緊張</td> <td>○</td> <td>ケーブル</td> <td></td> <td>グラウト、シース及び定着装置の数量は、ケーブル・緊張工に含まれ算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>接 続 工</td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支 承</td> <td>○</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>落橋防止装置</td> <td>○</td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）架設支保工については、「第3編（道路編）5章5.3架設支保工」によるものとする。</p> <p>3. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 各種ごとに数量を取りまとめる。</p> <p>（1）鉄筋 鉄筋の数量は、「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.3.1鉄筋工」により算出する。</p> <p>（2）コンクリート コンクリート量の算出にあたっては、打設回数に応じて集計する。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>（3）ケーブル・緊張 PCケーブルの延長は、定着装置内面間の実延長とし、PCケーブルの種類及び緊張方法（縦、横、鉛直締め）、PCケーブルの接続の有無（縦締めケーブルに限る）、緊張区分（両片締め）、定着装置の種類（緊張、固定用）ごとにPCケーブル数（ケーブル）を算出する。 なお、定着装置の名称・規格等については、備考欄に明記する。</p> </div> <p>3-5-7</p>		項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	鉄 筋	○	t			コンクリート	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含まれ算出する必要はない。	ケーブル・緊張	○	ケーブル		グラウト、シース及び定着装置の数量は、ケーブル・緊張工に含まれ算出する必要はない。	接 続 工	○	組			支 承	○	個			落橋防止装置	○	組			<p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p>												
項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																													
鉄 筋	○	t																																															
コンクリート	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含まれ算出する必要はない。																																													
ケーブル・緊張	○	ケーブル		グラウト、シース及び定着装置の数量は、ケーブル・緊張工に含まれ算出する必要はない。																																													
接 続 工	○	組																																															
支 承	○	個																																															
落橋防止装置	○	組																																															
積算上の注意事項			（控え頁） 1/1																																														

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																								
現 行	改 正		備 考																																																																																																																							
<p>5.1.6 プレビーム桁製作工</p> <p>1. 適用</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">プレビーム桁の製作工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主桁、鉄筋、コンクリート、型枠、アールカオン、リリースを区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、規格・仕様とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="border: 2px solid red;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主桁製作設備</td> <td></td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄 筋</td> <td></td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>下フランジ、ウェブ</td> </tr> <tr> <td>型 枠</td> <td></td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アールカオン</td> <td></td> <td>×</td> <td>回</td> <td></td> <td>桁2本当り回数</td> </tr> <tr> <td>リリース</td> <td></td> <td>×</td> <td>回</td> <td></td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>主桁解体</td> <td></td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 主桁製作設備は以下の内訳で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主桁製作設備</td> <td></td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td></td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 型枠</p> <p>型枠は鋼製型枠（下フランジ）と木製型枠（ウェブ）に区分する。</p>		項目	区分	規格・仕様	単位	数量	備 考	主桁製作設備		×	基			鉄 筋		○	t			コンクリート		○	m ³		下フランジ、ウェブ	型 枠		○	m ²			アールカオン		×	回		桁2本当り回数	リリース		×	回		〃	主桁解体		×	本			項目	区分	規格・仕様	単位	数量	備 考	主桁製作設備		×	基			足場		×	m			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="2">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主桁製作設備</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td>下フランジ、ウェブ</td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレフレクション</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>回</td> <td>桁2本当り回数</td> </tr> <tr> <td>リリース</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>回</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>主桁解体</td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「主桁製作設備」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と基数・足場を算出することより「B」を適用する。 「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「コンクリート」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「A」を適用する。 「型枠」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「プレフレクション」と「リリース」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と回数を算出することより「B」を適用する。 「主桁解体」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と基数を算出することより「B」を適用する。</p> <p>現行どおり</p> <p style="text-align: right;">記載の追加</p>		項目	区分	3次元モデル		属性情報		規格・仕様	単位	数量	備考	主桁製作設備		B	×	基		鉄筋		B	○	t		コンクリート		A	○	m ³	下フランジ、ウェブ	型枠		B	○	m ²		プレフレクション		B	×	回	桁2本当り回数	リリース		B	×	回	〃	主桁解体		B	×	本		
項目	区分	規格・仕様	単位	数量	備 考																																																																																																																					
主桁製作設備		×	基																																																																																																																							
鉄 筋		○	t																																																																																																																							
コンクリート		○	m ³		下フランジ、ウェブ																																																																																																																					
型 枠		○	m ²																																																																																																																							
アールカオン		×	回		桁2本当り回数																																																																																																																					
リリース		×	回		〃																																																																																																																					
主桁解体		×	本																																																																																																																							
項目	区分	規格・仕様	単位	数量	備 考																																																																																																																					
主桁製作設備		×	基																																																																																																																							
足場		×	m																																																																																																																							
項目	区分	3次元モデル		属性情報																																																																																																																						
		規格・仕様	単位	数量	備考																																																																																																																					
主桁製作設備		B	×	基																																																																																																																						
鉄筋		B	○	t																																																																																																																						
コンクリート		A	○	m ³	下フランジ、ウェブ																																																																																																																					
型枠		B	○	m ²																																																																																																																						
プレフレクション		B	×	回	桁2本当り回数																																																																																																																					
リリース		B	×	回	〃																																																																																																																					
主桁解体		B	×	本																																																																																																																						
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																																																							

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																		
現 行	改 正		備 考																																																																																																	
<p>5.1.7 PC片持製作工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>PC橋のうち最大支間長170m以下で2主桁の場所打ち片持ち製作工（斜張橋は除く）を対象とする。</p> </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>型枠、鉄筋、コンクリート、PCケーブル、PC鋼棒、PC鋼棒継手、緊張等の数量を算出する。</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型 枠</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄 筋</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td>養生工含む</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">PCケーブル</td> <td>PCケーブル定着</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>シース及びクラフトを含む</td> </tr> <tr> <td>PCケーブル緊張工</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">PC鋼棒</td> <td>PC鋼棒継手工</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>PC鋼棒定着工</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>定着装置を含む</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>3. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 各連ごとに数量をとりまとめる。</p> <p>(1) 型枠 型枠は鋼製型枠と木製型枠に下記内容で区分する。</p>		項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	型 枠		m ²			鉄 筋		t			コンクリート		m ³		養生工含む	PCケーブル	PCケーブル定着	箇所		シース及びクラフトを含む	PCケーブル緊張工	箇所			PC鋼棒	PC鋼棒継手工	箇所			PC鋼棒定着工	箇所		定着装置を含む	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型枠</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>養生工含む</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">PCケーブル</td> <td>PCケーブル定着</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>シース及びクラフトを含む</td> </tr> <tr> <td>PCケーブル緊張工</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">PC鋼棒</td> <td>PC鋼棒継手工</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>PC鋼棒定着工</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>定着装置を含む</td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;"> 「型枠」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「コンクリート」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「A」を適用する。 「PCケーブル」の「PCケーブル定着工」と「PCケーブル緊張工」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「PC鋼棒」の「PC鋼棒継手工」と「PC鋼棒定着工」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 </p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	属性情報				3次元モデル	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	型枠		B	○	m ²			鉄筋		B	○	t			コンクリート		A	○	m ³		養生工含む	PCケーブル	PCケーブル定着	B	○	箇所		シース及びクラフトを含む	PCケーブル緊張工	B	○	箇所			PC鋼棒	PC鋼棒継手工	B	○	箇所			PC鋼棒定着工	B	○	箇所		定着装置を含む	記載の追加
項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																																																																																
型 枠		m ²																																																																																																		
鉄 筋		t																																																																																																		
コンクリート		m ³		養生工含む																																																																																																
PCケーブル	PCケーブル定着	箇所		シース及びクラフトを含む																																																																																																
	PCケーブル緊張工	箇所																																																																																																		
PC鋼棒	PC鋼棒継手工	箇所																																																																																																		
	PC鋼棒定着工	箇所		定着装置を含む																																																																																																
項目	区分	属性情報																																																																																																		
		3次元モデル	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																																																																														
型枠		B	○	m ²																																																																																																
鉄筋		B	○	t																																																																																																
コンクリート		A	○	m ³		養生工含む																																																																																														
PCケーブル	PCケーブル定着	B	○	箇所		シース及びクラフトを含む																																																																																														
	PCケーブル緊張工	B	○	箇所																																																																																																
PC鋼棒	PC鋼棒継手工	B	○	箇所																																																																																																
	PC鋼棒定着工	B	○	箇所		定着装置を含む																																																																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																																	

改正理由	一部改正	改正 現行																													
現 行	改 正		備 考																												
<p>5.2 架設工</p> <p>5.2.1 プレキャストセグメント主桁組立工</p> <p>1. 適用</p> <p>プレキャストセグメント工法の主桁組立工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>主桁組立本数、PCケーブルの長さを区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セグメント主桁組立</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>セグメント主桁</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>PCケーブル</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 規格 規格はPCケーブルの種類とする。 ケーブル  1300k N(130t)型(7S12.7B, 8S12.4A) 2200k N(225t)型(12S12.7B) 3100k N(320t)型(12S15.2B)</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) セグメント主桁組立は主桁分割数を算出する。 (2) セグメント主桁は主桁分割数ごとの質量を算出する。 (3) PCケーブルは桁1本当りの長さを算出する。</p>				項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考	セグメント主桁組立	×	本				セグメント主桁	×	t				PCケーブル	○	m							
項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考																										
セグメント主桁組立	×	本																													
セグメント主桁	×	t																													
PCケーブル	○	m																													
→																															
<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="2">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セグメント主桁組立</td> <td>B</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td>注)1</td> </tr> <tr> <td>セグメント主桁</td> <td>A</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>PCケーブル</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「セグメント主桁組立」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と主桁分割数を算出することより「B」を適用する。 「セグメント主桁」は、3次元モデルより主桁分割数ごとの質量を算出することより「A」を適用する。 「PCケーブル」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 注)1 桁高ごとに算出すること。</p> <p>(2) 規格 規格はPCケーブルの種類とする。 ケーブル  1300k N(130t)型(7S12.7B, 8S12.4A) 2200k N(225t)型(12S12.7B) 3100k N(320t)型(12S15.2B)</p> <p>現行どおり</p>				項目	区 分	3次元モデル		属性情報		規格	単位	数量	備考	セグメント主桁組立	B	×	本		注)1	セグメント主桁	A	×	t			PCケーブル	B	○	m		
項目	区 分	3次元モデル				属性情報																									
		規格	単位	数量	備考																										
セグメント主桁組立	B	×	本		注)1																										
セグメント主桁	A	×	t																												
PCケーブル	B	○	m																												
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																												

記載の追加

改 正 理 由	一 部 改 正	改 正 現 行	備 考																																																																																																																																																										
現	行	改	正																																																																																																																																																										
<p>5.2.2 プレベーム桁架設工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">プレベーム桁の架設工に適用する。</div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">主桁本数、鉄筋の質量、コンクリートの体積、足場の延長、型枠の面積、ブロック桁の本数、横桁取付箇所数、部分プレストレスの径間数を区分ごとに算出する。</div> <p>3. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">区分は、規格・仕様とする。</div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項 目</th> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">規 格 ・ 仕 様</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> <th colspan="2">3 次 元</th> <th colspan="2">属 性 情 報</th> </tr> <tr> <th>モ デ ル</th> <th>規 格 ・ 仕 様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブロック桁組立</td> <td>○</td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>横桁取付</td> <td>×</td> <td></td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>箇所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>部分プレストレス</td> <td>×</td> <td></td> <td>径間</td> <td></td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>径間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄 筋</td> <td>○</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td>床版、横組</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>型 枠</td> <td>×</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>足 場</td> <td>×</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> <td>B</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> <p style="margin-top: 10px;">(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th rowspan="2">規格・仕様</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数量</th> <th rowspan="2">備考</th> <th colspan="2">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブロック桁組立</td> <td>A</td> <td>○</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横桁取付</td> <td>B</td> <td>×</td> <td></td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>部分プレストレス</td> <td>B</td> <td>×</td> <td></td> <td>径間</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>B</td> <td>○</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td>床版、横組</td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>B</td> <td>×</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td>B</td> <td>×</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「ブロック桁組立」は、3次元モデルを用いて質量を算出することより「A」を適用する。 「横桁取付」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置を算出することより「B」を適用する。 「部分プレストレス」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置を算出することより「B」を適用する。 「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。 「コンクリート」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「A」を適用する。 「型枠」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出することより「B」を適用する。 「足場」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出することより「B」を適用する。</p>		項 目	区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位	数 量	備 考	3 次 元		属 性 情 報		モ デ ル	規 格 ・ 仕 様	単 位	数 量	備 考	ブロック桁組立	○		本			A	○	t		横桁取付	×		箇所			B	×	箇所		部分プレストレス	×		径間			B	×	径間		鉄 筋	○		t			B	○	t		コンクリート	○		m ³		床版、横組	A	○	m ³		型 枠	×		m ²			B	×	m ²		足 場	×		m ²			B	×	m ²		項目	区分	3次元モデル	規格・仕様	単位	数量	備考	属性情報		規格・仕様	単位	数量	備考	ブロック桁組立	A	○		t				横桁取付	B	×		箇所				部分プレストレス	B	×		径間				鉄筋	B	○		t				コンクリート	A	○		m ³		床版、横組		型枠	B	×		m ²				足場	B	×		m ²				<p>現行どおり</p> <p>現行どおり</p>	<p>記載の追加</p>
項 目	区 分							規 格 ・ 仕 様	単 位	数 量	備 考	3 次 元		属 性 情 報																																																																																																																																															
		モ デ ル	規 格 ・ 仕 様	単 位	数 量	備 考																																																																																																																																																							
ブロック桁組立	○		本			A	○	t																																																																																																																																																					
横桁取付	×		箇所			B	×	箇所																																																																																																																																																					
部分プレストレス	×		径間			B	×	径間																																																																																																																																																					
鉄 筋	○		t			B	○	t																																																																																																																																																					
コンクリート	○		m ³		床版、横組	A	○	m ³																																																																																																																																																					
型 枠	×		m ²			B	×	m ²																																																																																																																																																					
足 場	×		m ²			B	×	m ²																																																																																																																																																					
項目	区分	3次元モデル	規格・仕様	単位	数量	備考	属性情報																																																																																																																																																						
							規格・仕様	単位	数量	備考																																																																																																																																																			
ブロック桁組立	A	○		t																																																																																																																																																									
横桁取付	B	×		箇所																																																																																																																																																									
部分プレストレス	B	×		径間																																																																																																																																																									
鉄筋	B	○		t																																																																																																																																																									
コンクリート	A	○		m ³		床版、横組																																																																																																																																																							
型枠	B	×		m ²																																																																																																																																																									
足場	B	×		m ²																																																																																																																																																									
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																																																																																										

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																													
現	行	改 正	備 考																																																																													
<p>5.2.3 PC片持架設工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> PC橋のうち最大支間長170m以下で2主桁の場所打ち片持ち架設工（斜張橋は除く）を対象とする。 </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 各支保工、剛結工、作業車組立解体、作業車移動据付工、作業車クランプ工、作業車引展工の数量を算出する。 </div>		<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>架設支保工</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>空 m³</td> <td>側部間部くくさび結合支保、支柱支保</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">柱頭部仮支保</td> <td>柱頭部仮支保</td> <td>A</td> <td></td> <td>m³</td> <td>鉄筋、型枠工、コンクリート、仮支保撤去取壊を含む</td> </tr> <tr> <td>剛結工</td> <td>B</td> <td></td> <td>箇所</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ブラケット式支保工</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>空 m³</td> <td rowspan="2">柱頭部く上支保工、本体内工</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> </tr> <tr> <td>吊支保工</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>t</td> <td>中央閉合部</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">枠組式支保工</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>空 m³</td> <td rowspan="2">張出床版部、箱桁内部</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1台1回</td> </tr> <tr> <td>作業車組立解体工</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>1台1回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>作業車移動据付工</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>〃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>作業車クランプ工</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>〃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>作業車引展工</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「架設支保工」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と空体積を算出することより「B」を適用する。 「柱頭部仮支保」の「柱頭部仮支保」は、3次元モデルより体積を算出することより「A」を適用する。「剛結工」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と箇所を算出することより「B」を適用する。 「ブラケット式支保工」、「吊支保工」と「枠組式支保工」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積より空体積等を算出することより「B」を適用する。 「作業車組立解体工」、「作業車移動据付工」、「作業車クランプ工」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置より回数を算出することより「B」を適用する。 「作業車引展工」、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置より距離を算出することより「B」を適用する。</p> <p>現行どおり</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報			規格・仕様	単位	数量	備考	架設支保工		B		空 m ³	側部間部くくさび結合支保、支柱支保	柱頭部仮支保	柱頭部仮支保	A		m ³	鉄筋、型枠工、コンクリート、仮支保撤去取壊を含む	剛結工	B		箇所		ブラケット式支保工		B		空 m ³	柱頭部く上支保工、本体内工				t	吊支保工		B		t	中央閉合部	枠組式支保工		B		空 m ³	張出床版部、箱桁内部				1台1回	作業車組立解体工		B		1台1回		作業車移動据付工		B		〃		作業車クランプ工		B		〃		作業車引展工		B		m		<p>記載の追加</p>
項目	区分					3次元モデル	属性情報																																																																									
		規格・仕様	単位	数量	備考																																																																											
架設支保工		B		空 m ³	側部間部くくさび結合支保、支柱支保																																																																											
柱頭部仮支保	柱頭部仮支保	A		m ³	鉄筋、型枠工、コンクリート、仮支保撤去取壊を含む																																																																											
	剛結工	B		箇所																																																																												
ブラケット式支保工		B		空 m ³	柱頭部く上支保工、本体内工																																																																											
				t																																																																												
吊支保工		B		t	中央閉合部																																																																											
枠組式支保工		B		空 m ³	張出床版部、箱桁内部																																																																											
				1台1回																																																																												
作業車組立解体工		B		1台1回																																																																												
作業車移動据付工		B		〃																																																																												
作業車クランプ工		B		〃																																																																												
作業車引展工		B		m																																																																												
<p>3. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>各適ごとに数量をとりまとめる。</p> <p style="text-align: center;">3-5-15</p>																																																																																
積算上の注意事項			（控え頁） 1/1																																																																													

改正理由	一部改正	改 正 現 行	
------	------	------------	--

現 行

a) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	支保耐力 (kN/m ²) (t/m ²)	支保高さ (m)	単位	数量	備 考
くさび結合 支 保	19.8以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	0.6以上1.2以下	空m ³		
		1.2超え3.6以下			
		3.6超え6.0以下			
		6.0超え8.4以下			
		8.4超え11.0以下			
		11.0超え13.4以下			
	29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	0.6以上1.2以下			
		1.2超え3.6以下			
		3.6超え6.0以下			
		6.0超え8.4以下			
		8.4超え11.0以下			
		11.0超え13.4以下			
	39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	0.6以上1.2以下			
		1.2超え3.6以下			
		3.6超え6.0以下			
		6.0超え8.4以下			
		8.4超え11.0以下			
		11.0超え13.4以下			
	49.0以上58.8未満 (5.0以上6.0未満)	0.6以上1.2以下			
		1.2超え3.6以下			
		3.6超え6.0以下			
		6.0超え8.4以下			
		8.4超え11.0以下			
		11.0超え13.4以下			
58.8以上68.6未満 (6.0以上7.0未満)	0.6以上1.2以下				
	1.2超え3.6以下				
	3.6超え6.0以下				
	6.0超え8.4以下				
	8.4超え11.0以下				
	11.0超え13.4以下				
68.6以上78.5以下 (7.0以上8.0以下)	0.6以上1.2以下				
	1.2超え3.6以下				
	3.6超え6.0以下				
	6.0超え8.4以下				
	8.4超え11.0以下				
	11.0超え13.4以下				



改 正

a) 数量算出項目及び区分一覧表

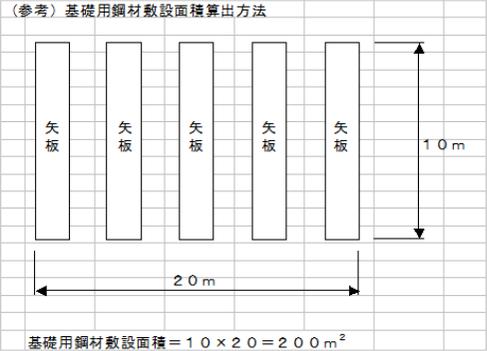
区分 項目	3次元 モデル	属性情報				
		支保耐力 (kN/m ²) (t/m ²)	支保高さ (m)	単位	数量	
くさび結合 支 保	B	19.6 以上 29.4 未 満 (2.0 以上 3.0 未満)	0.6 以上 1.2 以下	空 m ³		
			1.2 超え 3.6 以下			
			3.6 超え 6.0 以下			
			6.0 超え 8.4 以下			
			8.4 超え 11.0 以下			
			11.0 超え 13.4 以下			
			29.4 以上 39.2 未 満 (3.0 以上 4.0 未満)		0.6 以上 1.2 以下	
			1.2 超え 3.6 以下			
			3.6 超え 6.0 以下			
			6.0 超え 8.4 以下			
			8.4 超え 11.0 以下			
			11.0 超え 13.4 以下			
39.2 以上 49.0 未 満 (4.0 以上 5.0 未満)	0.6 以上 1.2 以下					
1.2 超え 3.6 以下						
3.6 超え 6.0 以下						
6.0 超え 8.4 以下						
8.4 超え 11.0 以下						
11.0 超え 13.4 以下						
49.0 以上 58.8 未 満 (5.0 以上 6.0 未満)	0.6 以上 1.2 以下					
1.2 超え 3.6 以下						
3.6 超え 6.0 以下						
6.0 超え 8.4 以下						
8.4 超え 11.0 以下						
11.0 超え 13.4 以下						
58.8 以上 68.6 未 満 (6.0 以上 7.0 未満)	0.6 以上 1.2 以下					
1.2 超え 3.6 以下						
3.6 超え 6.0 以下						
6.0 超え 8.4 以下						
8.4 超え 11.0 以下						
11.0 超え 13.4 以下						
68.6 以上 78.5 以 下 (7.0 以上 8.0 以下)	0.6 以上 1.2 以下					
1.2 超え 3.6 以下						
3.6 超え 6.0 以下						
6.0 超え 8.4 以下						
8.4 超え 11.0 以下						
11.0 超え 13.4 以下						

「くさび結合支保」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と空体積を算出することより「B」を適用する。

備 考

記載の追加

積算上の注意事項

改正理由	一部改正	改正 現行																										
現 行	改 正	備 考																										
<p>(2) 基礎用鋼材</p> <p>1) 数量算出項目</p> <p>基礎用鋼材の敷設面積を算出する。</p> <p>a) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎用鋼材</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 砂利等が必要な場合及び撤去する場合は別途算出する。</p> <p>(参考) 基礎用鋼材敷設面積算出方法</p>  <p>基礎用鋼材敷設面積 = 10 × 20 = 200 m²</p> <p>3. 支柱支保工</p> <p>(1) 支柱支保</p> <p>1) 数量算出項目</p> <p>支柱支保の空体積を区分ごとに算出する。</p> <p>2) 区分</p> <p>区分は、開口部延長、支保耐力、支保高さとする。</p> <p>3-5-21</p>	項目	規格・仕様	単位	数量	備 考	基礎用鋼材	○	m ²			<p>現行どおり</p> <p>a) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">3次元</th> <th colspan="2">属性情報</th> </tr> <tr> <th>モデル</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎用鋼材</td> <td>B</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「基礎用鋼材」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。</p> <p>注) 砂利等が必要な場合及び撤去する場合は別途算出する。</p> <p>現行どおり</p>	項目	区分	3次元		属性情報		モデル	規格・仕様	単位	数量	基礎用鋼材	B	○		m ²		<p>記載の追加</p>
項目	規格・仕様	単位	数量	備 考																								
基礎用鋼材	○	m ²																										
項目	区分	3次元		属性情報																								
		モデル	規格・仕様	単位	数量																							
基礎用鋼材	B	○		m ²																								
積算上の注意事項			(控え頁) 2/4																									

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

a) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	開口部 延長 (m)	支保耐力 (kN/m ²) (t/m ²)	支保高さ (m)	単位	数量	備考
支柱支保	7以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.5以上4.6未満	空m ³		
			4.6以上7.6未満			
			7.6以上10.6以下			
			1.5以上4.6未満			
			4.6以上7.6未満			
			7.6以上10.6以下			
		29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	1.5以上4.6未満			
			4.6以上7.6未満			
			7.6以上10.6以下			
			1.5以上4.6未満			
			4.6以上7.6未満			
			7.6以上10.6以下			
	39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.5以上4.6未満				
		4.6以上7.6未満				
		7.6以上10.6以下				
		1.5以上4.6未満				
		4.6以上7.6未満				
		7.6以上10.6以下				
	10以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.6以上4.8未満	空m ³		
			4.8以上7.8未満			
			7.8以上10.8以下			
			1.6以上4.8未満			
			4.8以上7.8未満			
			7.8以上10.8以下			
29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)		1.6以上4.8未満				
		4.8以上7.8未満				
		7.8以上10.8以下				
		1.6以上4.8未満				
		4.8以上7.8未満				
		7.8以上10.8以下				
39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.6以上4.8未満					
	4.8以上7.8未満					
	7.8以上10.8以下					
	1.6以上4.8未満					
	4.8以上7.8未満					
	7.8以上10.8以下					
13以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.8以上4.8未満	空m ³			
		4.8以上7.8未満				
		7.8以上10.8以下				
		1.8以上4.8未満				
		4.8以上7.8未満				
		7.8以上10.8以下				
	29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)	1.8以上4.8未満				
		4.8以上7.8未満				
		7.8以上10.8以下				
		1.8以上4.8未満				
		4.8以上7.8未満				
		7.8以上10.8以下				
39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.8以上4.8未満					
	4.8以上7.8未満					
	7.8以上10.8以下					
	1.8以上4.8未満					
	4.8以上7.8未満					
	7.8以上10.8以下					
49.0以上58.8未満 (5.0以上6.0未満)	1.8以上4.8未満					
	4.8以上7.8未満					
	7.8以上10.8以下					
	1.8以上4.8未満					
	4.8以上7.8未満					
	7.8以上10.8以下					

a) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	開口部 延長(m)	支保耐力(kN/m ²) (t/m ²)	属性情報 支保高さ(m)	単位	数量	備考	
支柱支保	B	7以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.5以上4.6未満	空m ³			
				4.6以上7.6未満				
				7.6以上10.6以下				
				29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)		1.5以上4.6未満		
				4.6以上7.6未満				
				7.6以上10.6以下				
			39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.5以上4.6未満				
				4.6以上7.6未満				
				7.6以上10.6以下				
				49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)		1.5以上4.6未満		
				4.6以上7.6未満				
				7.6以上10.6以下				
		10以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.6以上4.8未満	空m ³			
				4.8以上7.8未満				
				7.8以上10.8以下				
				29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)		1.6以上4.8未満		
				4.8以上7.8未満				
				7.8以上10.8以下				
			39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.6以上4.8未満				
				4.8以上7.8未満				
				7.8以上10.8以下				
				49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)		1.6以上4.8未満		
				4.8以上7.8未満				
				7.8以上10.8以下				
13以下	19.6以上29.4未満 (2.0以上3.0未満)	1.8以上4.8未満	空m ³					
		4.8以上7.8未満						
		7.8以上10.8以下						
		29.4以上39.2未満 (3.0以上4.0未満)		1.8以上4.8未満				
		4.8以上7.8未満						
		7.8以上10.8以下						
	39.2以上49.0未満 (4.0以上5.0未満)	1.8以上4.8未満						
		4.8以上7.8未満						
		7.8以上10.8以下						
		49.0以上58.8以下 (5.0以上6.0以下)		1.8以上4.8未満				
		4.8以上7.8未満						
		7.8以上10.8以下						

「支柱支保」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と空体積を算出することより「B」を適用する

・積算基準の改定に伴う記載の修正
・記載の追加

改正理由	一部改正	改正 現行																													
現 行	改 正	備 考																													
<p>(2) 支柱受台</p> <p>1) 数量算出項目</p> <p>H形鋼の布設延長を算出する。</p> <p>a) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H 形 鋼</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) コンクリート基礎が必要な場合は別途算出する。</p>		項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	H 形 鋼	○	m			<p>(2) 支柱受台</p> <p>1) 数量算出項目</p> <p>H形鋼の布設延長を算出する。</p> <p>a) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元 モデル</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H形鋼</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「H形鋼」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「B」を適用する。</p>		項目	区分	属性情報				3次元 モデル	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	H形鋼		B	○	m		
項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																											
H 形 鋼	○	m																													
項目	区分	属性情報																													
		3次元 モデル	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																									
H形鋼		B	○	m																											
積算上の注意事項	3-5-24	<p>(控え頁)</p> <p>4/4</p>																													

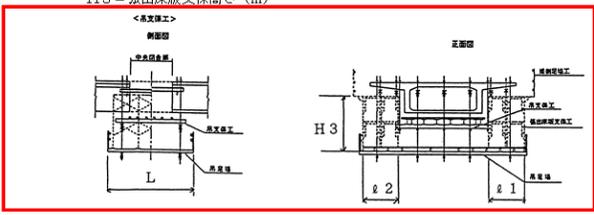
- ・記載の追加
- ・記載の削除

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																											
	<p style="text-align: center;">現 行</p> <p>5.4 横組工</p> <p>5.4.1 プレテンション桁</p> <p>1. 適用</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">プレテンション桁の横組工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鉄筋、コンクリート、PCケーブル、緊張等の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は規格とする。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td></td> <td>型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>PCケーブル</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>緊張</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">ケーブル</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 特別な養生が必要な場合は別途算出する。</p> </div> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 鉄筋 鉄筋の数量は、「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.3.1鉄筋工」により算出する。</p> <p>(2) コンクリート 横桁及び間詰コンクリートの数量を算出する。</p> <p>(3) PCケーブル PCケーブルの延長は、定着装置内面間の実延長とし、PCケーブルの種類ごとにPCケーブル延長を算出する。</p> <p>(4) 緊張 PCケーブルの種類及び定着装置の種類（緊張用、固定用）ごとに算出する。</p> <p>(5) 養生 特別な養生が必要な場合、養生面積は、間詰床版の面積とする。</p> <p style="text-align: center;">3-5-25</p>	項目	規格	単位	数量	備考	鉄筋	○	t			コンクリート	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。	PCケーブル	○	m		グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない。	緊張	○	ケーブル			<p style="text-align: center;">改 正</p> <p style="text-align: center;">現 行</p> <p style="text-align: center;">(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td>型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>PCケーブル</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">m</td> <td>グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない。</td> </tr> <tr> <td>緊張</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">ケーブル</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">「鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「コンクリート」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「A」を適用する。 「PCケーブル」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「緊張」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。</p> <p>注) 1. 特別な養生が必要な場合は別途算出する。</p>	項目	区分	属性情報				3次元モデル	規格	単位	数量	鉄筋	B	○		t		コンクリート	A	○		m ³	型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。	PCケーブル	B	○		m	グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない。	緊張	B	○	ケーブル			<p style="text-align: center;">備 考</p> <p style="text-align: center;">記載の追加</p>
項目	規格	単位	数量	備考																																																										
鉄筋	○	t																																																												
コンクリート	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。																																																										
PCケーブル	○	m		グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない。																																																										
緊張	○	ケーブル																																																												
項目	区分	属性情報																																																												
		3次元モデル	規格	単位	数量																																																									
鉄筋	B	○		t																																																										
コンクリート	A	○		m ³	型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない。																																																									
PCケーブル	B	○		m	グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない。																																																									
緊張	B	○	ケーブル																																																											
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																											

改正理由	一部改正	改正 現行																																																								
現	行	改	正																																																							
<p>5.4.2 ポストテンションT桁</p> <p>1. 適用</p> <p>ポストテンション桁の横組工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>鉄筋、コンクリート、PCケーブル、緊張等の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td>型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない</td> </tr> <tr> <td>PCケーブル</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない</td> </tr> <tr> <td>緊張</td> <td>○</td> <td>ケーブル</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 特別な養生が必要な場合は別途算出する。</p> <p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 鉄筋 鉄筋の数量は、「第1編(共通編)4章コンクリート工 4.3.鉄筋工」により算出する。</p> <p>(2) コンクリート 横桁及び間詰コンクリートの数量を算出する。</p> <p>(3) PCケーブル PCケーブルの延長は、定着装置内面間の実延長とし、PCケーブルの種類ごとにPCケーブル延長を算出する。</p> <p>(4) 緊張 PCケーブルの種類及び定着装置の種類(緊張用、固定用)ごとに算出する。</p> <p>(5) 養生 特別な養生が必要な場合、養生面積は、間詰床版の面積とする。</p>		項目	規格	単位	数量	備考	鉄筋	○	t			コンクリート	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない	PCケーブル	○	m		グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない	緊張	○	ケーブル			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PCケーブル</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>緊張</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>ケーブル</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「鉄筋」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「コンクリート」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「A」を適用する。 「PCケーブル」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と延長を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「緊張」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。</p> <p>注) 1. 特別な養生が必要な場合は別途算出する。</p> <p>現行どおり</p>		項目	区分	3次元モデル	属性情報			規格	単位	数量	鉄筋	B	○	t		コンクリート	A	○	m ³		PCケーブル	B	○	m		緊張	B	○	ケーブル		備考
項目	規格	単位	数量	備考																																																						
鉄筋	○	t																																																								
コンクリート	○	m ³		型枠工及び養生工の数量は、コンクリート工に含むため算出する必要はない																																																						
PCケーブル	○	m		グラウト及びシースの数量はPC工に含むため算出する必要はない																																																						
緊張	○	ケーブル																																																								
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																							
			規格	単位	数量																																																					
鉄筋	B	○	t																																																							
コンクリート	A	○	m ³																																																							
PCケーブル	B	○	m																																																							
緊張	B	○	ケーブル																																																							
積算上の注意事項			記載の追加																																																							
			(控え頁) 1/1																																																							

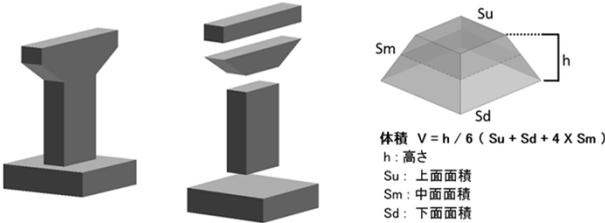
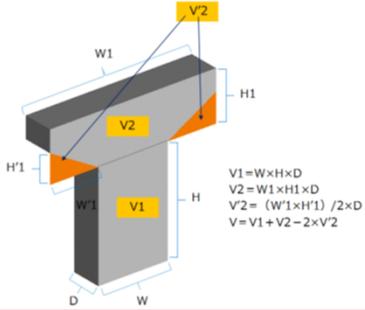
改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																																
	<p>5.5 支承工</p> <p>1. 適用</p> <p>コンクリート橋上部工の支承工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>ゴム支承、アンカー、アンカーキャップ、スパイラル筋、防触材、モルタル等の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゴム支承</td> <td>○</td> <td>個 (m)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー</td> <td>○</td> <td>kg (本)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーキャップ</td> <td>○</td> <td>kg (本)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スパイラル筋</td> <td>○</td> <td>kg (本)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防触材</td> <td>○</td> <td>kg (本)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>モルタル</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) ゴム支承 Aタイプ（フレクション床版橋用 簡易タイプ）、Aタイプ（パッドタイプ）、Bタイプごとに算出する。</p> <p>(2) アンカーバー 規格・径ごとに算出する。</p> <p>(3) アンカーキャップ 規格・径ごとに算出する。</p> <p>(4) スパイラル筋 規格・径ごとに算出する。</p> <p>(5) 防触材 アイガス等の数量を算出する。</p>	項目	規格	単位	数量	備考	ゴム支承	○	個 (m)			アンカー	○	kg (本)			アンカーキャップ	○	kg (本)			スパイラル筋	○	kg (本)			防触材	○	kg (本)			モルタル	○	m ³			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゴム支承</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>個 (m)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーバー</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg (本)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーキャップ</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg (本)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スパイラル筋</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg (本)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防触材</td> <td></td> <td>B</td> <td>○</td> <td>kg (本)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>モルタル</td> <td></td> <td>A</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「ゴム支承」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と個数（延長）を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「アンカーバー」、「アンカーキャップ」、「スパイラル筋」と「防触材」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と質量（本数）を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「モルタル」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「A」を適用する。</p> <p>4. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) ゴム支承 Aタイプ（フレクション床版橋用 簡易タイプ）、Aタイプ（パッドタイプ）、Bタイプごとに算出する。</p> <p>(2) アンカーバー 規格・径ごとに算出する。</p> <p>(3) アンカーキャップ 規格・径ごとに算出する。</p> <p>(4) スパイラル筋 規格・径ごとに算出する。</p> <p>(5) 防触材 アイガス等の数量を算出する。</p> <p>(6) モルタル 支承1 m又は1個当りの種類別に無収縮モルタル量（m³）を算出する。</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報			規格	単位	数量	ゴム支承		B	○	個 (m)		アンカーバー		B	○	kg (本)		アンカーキャップ		B	○	kg (本)		スパイラル筋		B	○	kg (本)		防触材		B	○	kg (本)		モルタル		A	○	m ³		<p>記載の追加</p>
項目	規格	単位	数量	備考																																																																															
ゴム支承	○	個 (m)																																																																																	
アンカー	○	kg (本)																																																																																	
アンカーキャップ	○	kg (本)																																																																																	
スパイラル筋	○	kg (本)																																																																																	
防触材	○	kg (本)																																																																																	
モルタル	○	m ³																																																																																	
項目	区分	3次元モデル	属性情報																																																																																
			規格	単位	数量																																																																														
ゴム支承		B	○	個 (m)																																																																															
アンカーバー		B	○	kg (本)																																																																															
アンカーキャップ		B	○	kg (本)																																																																															
スパイラル筋		B	○	kg (本)																																																																															
防触材		B	○	kg (本)																																																																															
モルタル		A	○	m ³																																																																															
積算上の注意事項	3-5-27 前頁から移動		(控え頁) 1/1																																																																																

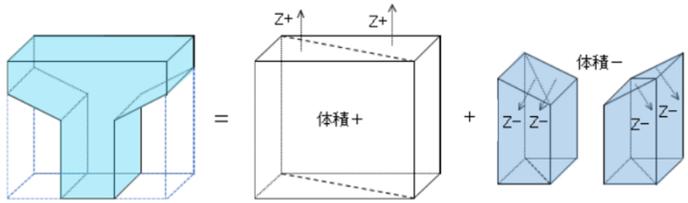
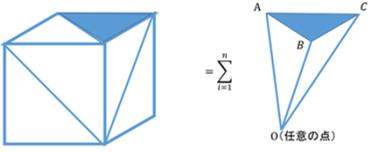
改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																												
	現 行	改 正																																													
	<p>5.6 仮設工</p> <p>5.6.1 足場設備工</p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>プレテンション桁、ポストテンション桁、プレビーム桁の架設工及びPC片持架設工の足場設備工に適用する。</p> </div> <p>2. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>足場及び手摺りの数量を算出する</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>桁下足場</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>プレテンション桁(T桁)、ポストテンション桁、プレビーム桁</td> </tr> <tr> <td>側部足場</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td>プレテンション桁(スタア桁)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">PC片持</td> <td>柱頭部足場</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋側足場</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋面手摺工</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>3. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 桁下足場 足場工は、パイプ吊足場を標準とし、次式により算出する。 $A = W \cdot L$ A：足場面積 (m²) W：全幅員（地覆外縁距離又は、壁高欄縁距離） (m) L：橋長 (m)</p> <p>(2) 側部足場 足場総延長 (m) を算出する。</p> <p>(3) 柱頭部足場 A = 橋体幅 × 柱頭部施工長 A：足場面積 (m²)</p>	項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	桁下足場		m ²		プレテンション桁(T桁)、ポストテンション桁、プレビーム桁	側部足場		m		プレテンション桁(スタア桁)	PC片持	柱頭部足場	m ²			橋側足場	m			橋面手摺工	m			<p>現行どおり</p>																	
項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																											
桁下足場		m ²		プレテンション桁(T桁)、ポストテンション桁、プレビーム桁																																											
側部足場		m		プレテンション桁(スタア桁)																																											
PC片持	柱頭部足場	m ²																																													
	橋側足場	m																																													
	橋面手摺工	m																																													
		<p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元 モデル</th> <th colspan="3">属性情報</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>桁下足場</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td>プレテンション桁(T桁)、ポストテンション桁、プレビーム桁</td> </tr> <tr> <td>側部足場</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td>プレテンション桁(スタア桁)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">PC片持</td> <td>柱頭部足場</td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋側足場</td> <td>B</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>橋面手摺工</td> <td>B</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="color: red; font-size: small;">「桁下足場」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出することより「B」を適用する。 「側部足場」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出することより「B」を適用する。 「PC片持」の「柱頭部足場」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出することより「B」を適用する。 「PC片持」の「橋側足場」と「橋面手摺工」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出することより「B」を適用する。</p>	項目	区分	3次元 モデル	属性情報			規格・仕様	単 位	数 量	備 考	桁下足場		B		m ²		プレテンション桁(T桁)、ポストテンション桁、プレビーム桁	側部足場		B		m		プレテンション桁(スタア桁)	PC片持	柱頭部足場	B		m ²			橋側足場	B		m			橋面手摺工	B		m			<p>現行どおり</p>	<p>記載の追加</p>
項目	区分	3次元 モデル				属性情報																																									
			規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																									
桁下足場		B		m ²		プレテンション桁(T桁)、ポストテンション桁、プレビーム桁																																									
側部足場		B		m		プレテンション桁(スタア桁)																																									
PC片持	柱頭部足場	B		m ²																																											
	橋側足場	B		m																																											
	橋面手摺工	B		m																																											
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																												

改正理由	一部改正	改正 現行																										
現	行	改 正	備 考																									
<p>5.6.2 防護設備工</p> <p>1. 適用</p> <p>プレテンション桁、ポストテンション桁、プレビーム桁の架設工及びPC片持架設工の防護設備工に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>PC防護の面積を算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PC防護</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>PC防護(軒面を含む)は、桁下に鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に設置するものとし、次式により算出する。</p> <p>A = 全幅員 × 必要長 A : 防護設備必要面積 (m²)</p> <p>・ PC片持架設</p> <p>柱頭部、中央閉合部における必要面積を算出するものとし、次式を標準とし算出する。</p> <p>(柱頭部)</p> $A = \{ (\text{橋体幅} + 1000 \times 2) \times H1 + \text{柱頭部施工長} \times H2 \} \times 2$ <p>A = 防護設備必要面積 (m²) H1 = 柱頭部足場高 (m) H2 = 張出床版支保高さ (m)</p> <p>(中央閉合部)</p> $A = \{ L \times 2 + (\text{L1} + \text{L2}) \times 2 \} \times H3$ <p>A = 防護設備必要面積 (m²) H3 = 張出床版支保高さ (m)</p>  <p>3-5-31</p>	項目	規格・仕様	単位	数量	備考	PC防護		m ²			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PC防護</td> <td></td> <td>B</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「PC防護」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と面積を算出することより「B」を適用する。</p> <p>現行どおり</p> <p>次頁に移動</p>	項目	区分	属性情報				3次元モデル	規格・仕様	単位	数量	PC防護		B		m ²		<p>記載の追加</p>
項目	規格・仕様	単位	数量	備考																								
PC防護		m ²																										
項目	区分	属性情報																										
		3次元モデル	規格・仕様	単位	数量																							
PC防護		B		m ²																								
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																									

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																																																																				
現 行	改 正	備 考																																																																																																																																																				
<p>7章 橋台・橋脚工</p> <p>7.1 橋台・橋脚工</p> <p>7.1.1 橋台・橋脚工(1)</p> <p>1. 適用</p> <p>橋台及び橋脚の施工に適用する。なお、以下の適用を外れる橋台・橋脚については、橋台・橋脚工(2)」を適用する。</p> <p>1-1. 適用出来る範囲</p> <p>(1) 構造物高さ5m以上25m未満のT形橋脚(円形及び小判型含む)の場合 (2) 構造物高さ5m以上20m未満の壁式橋脚(小判型含む)の場合 (3) 構造物高さ12m未満かつ翼壁厚0.4m以上0.8m以下の逆T式橋台の場合</p> <p>1-2. 適用出来ない範囲</p> <p>(1) 同一構造物で、フーチングと躯体のコンクリート強度が異なる場合。 (2) フーチングのみの工事、又は躯体のみの工事の場合。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>橋台・橋脚本体コンクリート(橋台においては翼壁を含む)、化粧型枠、鉄筋の数量を区分毎に算出する。 また、基礎砕石(敷均し厚20cm以下)、均しコンクリートについては必要の有無を確認する。</p> <p>注) 1. 鉄筋については「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」によるものとする。 2. 基礎砕石(敷均し厚20cmを超える場合)については、「第1編(共通編)9.1基礎・裏込砕石工、基礎・裏込礫石工」によるものとする。 3. 冬季の施工で雪害仮囲いが必要な場合については、「第1編(共通編)11.6.2雪害仮囲い工」によるものとする。 4. 逆T式橋台において水抜パイプが必要な場合は、別途考慮するものとする。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、形式とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>形式</th> <th>必要性の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>橋台・橋脚本体コンクリート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td>注)2</td> </tr> <tr> <td>基礎</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>砕石</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>化粧型枠</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td>○</td> <td>必要量計上</td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>t</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(×)</td> <td>-</td> <td>×</td> <td>注)3</td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>逆T式橋台のみ必要に応じ計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 橋台・橋脚本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。 2. 橋台・橋脚本体コンクリートの形式は、逆T式橋台、T型橋脚、壁式橋脚とし、各形式における打設量区分については、3.(2)を参照のこと。</p> <p>3-7-2</p>	項目	区分	規格	形式	必要性の有無	単位	数量	備考	橋台・橋脚本体コンクリート	○	○	○	-	m ³	○	注)2	基礎	×	×	×	○	-	×		砕石	○	×	×	-	m ²	○		均しコンクリート	×	×	×	○	-	×		化粧型枠	×	×	×	-	m ²	○	必要量計上	鉄筋	○	×	×	-	t	○		足場	×	×	×	(×)	-	×	注)3	水抜パイプ	×	×	×	-	-	○	逆T式橋台のみ必要に応じ計上	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規格</th> <th>形式</th> <th>必要性の有無</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>橋台・橋脚本体コンクリート</td> <td>A</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>m³</td> <td>注)1 注)2</td> </tr> <tr> <td>基礎</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>砕石</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>化粧型枠</td> <td>B</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>m²</td> <td>必要量計上</td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(×)</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td>C</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>注)3 逆T式橋台のみ必要に応じ計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>「橋台・橋脚本体コンクリート」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格・形式を区分することより「A」を適用する。 「基礎砕石」の「敷均し厚20cm以下」は、必要性の有無を確認し、必要な場合は計上するが、材</p> <p>次頁へ移動</p>	項目	区分	3次元モデル	属性情報				備考	規格	形式	必要性の有無	単位	橋台・橋脚本体コンクリート	A	○	○	○	-	m ³	注)1 注)2	基礎	C	×	×	×	○	-		砕石	B	○	×	×	-	m ²		均しコンクリート	C	×	×	×	○	-		化粧型枠	B	×	×	×	-	m ²	必要量計上	鉄筋	B	○	×	×	-	t		足場	C	×	×	×	(×)	-		水抜パイプ	C	×	×	×	-	-	注)3 逆T式橋台のみ必要に応じ計上	<p>記載の追加</p>
項目	区分	規格	形式	必要性の有無	単位	数量	備考																																																																																																																																															
橋台・橋脚本体コンクリート	○	○	○	-	m ³	○	注)2																																																																																																																																															
基礎	×	×	×	○	-	×																																																																																																																																																
砕石	○	×	×	-	m ²	○																																																																																																																																																
均しコンクリート	×	×	×	○	-	×																																																																																																																																																
化粧型枠	×	×	×	-	m ²	○	必要量計上																																																																																																																																															
鉄筋	○	×	×	-	t	○																																																																																																																																																
足場	×	×	×	(×)	-	×	注)3																																																																																																																																															
水抜パイプ	×	×	×	-	-	○	逆T式橋台のみ必要に応じ計上																																																																																																																																															
項目	区分	3次元モデル	属性情報				備考																																																																																																																																															
			規格	形式	必要性の有無	単位																																																																																																																																																
橋台・橋脚本体コンクリート	A	○	○	○	-	m ³	注)1 注)2																																																																																																																																															
基礎	C	×	×	×	○	-																																																																																																																																																
砕石	B	○	×	×	-	m ²																																																																																																																																																
均しコンクリート	C	×	×	×	○	-																																																																																																																																																
化粧型枠	B	×	×	×	-	m ²	必要量計上																																																																																																																																															
鉄筋	B	○	×	×	-	t																																																																																																																																																
足場	C	×	×	×	(×)	-																																																																																																																																																
水抜パイプ	C	×	×	×	-	-	注)3 逆T式橋台のみ必要に応じ計上																																																																																																																																															
積算上の注意事項		(控え頁) 1/4																																																																																																																																																				

改正理由	一部改正	改 正 現 行	備 考
現 行	改 正		
<p>3. 雪寒仮囲い等で足場が必要な場合及び特殊な足場を別途計上する必要がある場合は、必要の有無を「×」とし別途算出するなお、一般的な施工をする場合は必要の有無を記載する必要はない。</p> <p style="text-align: right;">3-7-3</p>	<p style="text-align: center;">現行なし →</p> <p style="text-align: center;">前頁から移動 →</p> <p style="text-align: center;">} 現行どおり</p> <p style="color: red; font-size: small;"> 料数量の算出は不要のため「C」を適用する。 「基礎砕石」の「敷均し厚 20cm 越え」は、3次元モデルより面積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「化粧型枠」を使用する場合は、3次元モデルより面積を算出するため「B」を適用する。なお一般の型枠を使用する場合は、「C」を適用する。 「均しコンクリート」、「足場」と「氷拔パイプ」は、必要性の有無を確認し、必要な場合は計上するが、材料数量の算出は不要のため「C」を適用する。 「鉄筋」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 </p> <p style="font-size: x-small;"> 注) 1. 橋台・橋脚本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。 2. 橋台・橋脚本体コンクリートの形式は、逆T式橋台、I型橋脚、壁式橋脚とし、各形式における打設量区分については、3.(2)を参照のこと。 </p>		<p>記載の追加</p>
積算上の注意事項			(控え頁) 2/4

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	<p>4. 数量算出方法</p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。</p> <p>なお、体積の計算において、3次元CAD等を用いる場合は、3次元CADソフト等の自動計算機能により3次元モデルを分割し、各分割の体積算出及び各分割の合計等を自動計算により算出することができるものとする。</p> <p>（参考）3次元モデルの分割、各分割の合計等の方式の例</p> <p>a) 水平方向等の分割による算出</p> <p>① 3次元モデルを変化点ごとに、XY 平面の水平方向の多角錐体に分割後、多角錐体の各体積を合計し算出する。</p>  <p>体積 $V = h / 6 (Su + Sd + 4 X Sm)$ h : 高さ Su : 上面面積 Sm : 中面積 Sd : 下面面積</p> <p>② 単純な幾何図形に分割した各体積を基に、各体積の和、差等の集合演算により算出する。</p>  <p>$V1 = W \times H \times D$ $V2 = W1 \times H1 \times D$ $V2 = (W1 \times H1) / 2 \times D$ $V = V1 + V2 - 2 \times V2$</p> <p>3-7-5</p>	<p>現行どおり</p> <p>削除</p>	<p>記載の削除</p>
積算上の注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>3/4</p>

改正理由	一部改正	改正 現行	備考
	<p style="text-align: center;">現 行</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>b) 三角形分割による算出</p> <p>① 3次元モデル表面を三角形分割し、各面とモデル最下水平面との間の柱体積の合計をモデルの体積とする。この時、面の法線ベクトルのZ成分の符号を柱体積の符号とし、+は加算、-は控除する。</p>  <p>② 3次元モデル表面を三角形分割し、それぞれの三角形に対して、三角形の3点と1点（例えばモデル原点）を結んで作られる三角錐の体積を合計する。</p> <p>計算式</p> $V_{tetra} = \frac{1}{6} ((\vec{OA} \times \vec{OB}) \cdot \vec{OC})$ $V = \sum_{i=1}^n V_{tetra}$  <p style="font-size: small;">n: 三角形面の数</p> <p style="font-size: x-small;">三角形ABCは表が反時計回りとなるように定める。 三角形面の外側に1点がある場合、計算される体積値は負となるが、その場合、他の三角錐から控除するべき体積であるので、和は全体の体積と等しくなる。</p> </div> <p style="text-align: center;">削除 →</p>		記載の削除
積算上の注意事項	3-7-6		(控え頁) 4/4

改 正 理 由	一部改正	改 正 現 行																																																																																																																																															
現	行	改	正																																																																																																																																														
<p>8.2 支 承 取 替 工</p> <p>1. 適 用</p> <p>橋梁補修工のうち、鋼橋及びPC橋の鋼製支承からの支承取替工に適用するものとし、RCの支承取替には適用しないものとする。</p> <p>適用できる範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋼橋の支承形式は以下を標準とする。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>種 類</td> <td colspan="3">鋼橋-鋼製支承</td> <td>鋼橋-ゴム支承</td> </tr> <tr> <td>形 式</td> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> </tr> <tr> <td>作用する反力 kN(t)</td> <td>1471.0kN (150t)以下</td> <td>1471.0kN(150t)を越え 2451.7kN(250t)以下</td> <td>2451.7kN(250t)を越え 3138.1kN(320t)以下</td> <td>1471.0kN (150t)以下</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> PC橋の支承形式は以下を標準とする。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>種 類</td> <td>PC橋-ゴム支承</td> </tr> <tr> <td>形 式</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td>作用する反力 kN(t)</td> <td>1961.3kN (200t)以下</td> </tr> </table> <p>2. 数量算出項目</p> <p>支承取替（鋼橋）、支承取替（PC橋）、支承（材料費）、足場の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、規格、支承形式、現場条件、供用日数とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格</th> <th>支承形式</th> <th>現場条件</th> <th>供用日数</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支承取替（鋼橋）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支承取替（PC橋）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支承（材料費）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足 場</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 現場条件は以下を標準とする。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>現 場 条 件</td> <td>敷 桁</td> <td>1 桁 2 番</td> <td>1 桁 1 番</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		種 類	鋼橋-鋼製支承			鋼橋-ゴム支承	形 式	I	II	III	IV	作用する反力 kN(t)	1471.0kN (150t)以下	1471.0kN(150t)を越え 2451.7kN(250t)以下	2451.7kN(250t)を越え 3138.1kN(320t)以下	1471.0kN (150t)以下	種 類	PC橋-ゴム支承	形 式	V	作用する反力 kN(t)	1961.3kN (200t)以下	項目	規格	支承形式	現場条件	供用日数	単位	数量	備 考	支承取替（鋼橋）	○	○	○	×	基			支承取替（PC橋）	○	×	×	×	基			支承（材料費）	○	×	×	×	個			足 場	○	×	×	○	m ²			現 場 条 件	敷 桁	1 桁 2 番	1 桁 1 番					<p>8.2 支 承 取 替 工</p> <p>1. 適 用</p> <p>橋梁補修工のうち、鋼橋及びPC橋の鋼製支承からの支承取替工に適用するものとし、RCの支承取替鋼橋及びPC橋以外の支承取替の場合（RC橋・PRC橋・複合橋等）沓座コンクリートのはつりにウォータージェットを使用する場合、膨張型薄型ジャッキ（フラットジャッキ等）を使用する場合、補修用足場にペント設備を用いる場合には適用しないものとする。</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格</th> <th>支承形式</th> <th>現場条件</th> <th>下部工ブラケット 下取付の有無</th> <th>供用日数</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支承取替（鋼橋）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支承取替（PC橋）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支承（材料費）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>沓座コンクリートはつり （支承直下部以外）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下部工ブラケット取付</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td style="text-align: center;">(ブラケット 単部材質量)</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下部工ブラケット （材料費）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足 場</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">次項に移動</p>		項目	規格	支承形式	現場条件	下部工ブラケット 下取付の有無	供用日数	単位	数量	備 考	支承取替（鋼橋）	○	○	○	○	×	基			支承取替（PC橋）	○	×	×	×	×	基			支承（材料費）	○	×	×	×	×	個			沓座コンクリートはつり （支承直下部以外）	○	×	×	×	×	m ³			下部工ブラケット取付	○	×	×	(ブラケット 単部材質量)	×	基			下部工ブラケット （材料費）	○	×	×	×	×	基			足 場	○	×	×	×	×	m ²			<p>積算基準の改定に伴う記載の追加</p> <p>積算基準の改定に伴う記載の追加</p>
種 類	鋼橋-鋼製支承			鋼橋-ゴム支承																																																																																																																																													
形 式	I	II	III	IV																																																																																																																																													
作用する反力 kN(t)	1471.0kN (150t)以下	1471.0kN(150t)を越え 2451.7kN(250t)以下	2451.7kN(250t)を越え 3138.1kN(320t)以下	1471.0kN (150t)以下																																																																																																																																													
種 類	PC橋-ゴム支承																																																																																																																																																
形 式	V																																																																																																																																																
作用する反力 kN(t)	1961.3kN (200t)以下																																																																																																																																																
項目	規格	支承形式	現場条件	供用日数	単位	数量	備 考																																																																																																																																										
支承取替（鋼橋）	○	○	○	×	基																																																																																																																																												
支承取替（PC橋）	○	×	×	×	基																																																																																																																																												
支承（材料費）	○	×	×	×	個																																																																																																																																												
足 場	○	×	×	○	m ²																																																																																																																																												
現 場 条 件	敷 桁	1 桁 2 番	1 桁 1 番																																																																																																																																														
項目	規格	支承形式	現場条件	下部工ブラケット 下取付の有無	供用日数	単位	数量	備 考																																																																																																																																									
支承取替（鋼橋）	○	○	○	○	×	基																																																																																																																																											
支承取替（PC橋）	○	×	×	×	×	基																																																																																																																																											
支承（材料費）	○	×	×	×	×	個																																																																																																																																											
沓座コンクリートはつり （支承直下部以外）	○	×	×	×	×	m ³																																																																																																																																											
下部工ブラケット取付	○	×	×	(ブラケット 単部材質量)	×	基																																																																																																																																											
下部工ブラケット （材料費）	○	×	×	×	×	基																																																																																																																																											
足 場	○	×	×	×	×	m ²																																																																																																																																											
積算上の注意事項			(控え頁)																																																																																																																																														
			1/2																																																																																																																																														

改正理由	一部改正	改正 現行	備考												
	<p style="text-align: center;">現 行</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>2. 支承取替工における足場工は、下図に示す橋脚回り足場を標準とする。 なお、現場条件等により、これによりがたい場合は別途考慮するものとする。</p> <p>(2) 支承取替（鋼橋）の支承形式による区分は、以下のとおりとする。 支承形式 — I — II — III — IV</p> <p>(3) 支承取替（鋼橋）の現場条件による区分は、以下のとおりとする。 現場条件 縦桁（支承形式 II、IIIのみ） — 1 箱桁 2 巻（支承形式 II、IIIのみ） — 1 箱桁 1 巻（支承形式 II、IIIのみ）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4">関連数量算出項目</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場補修塗装工</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 支承（材料費）は、規格ごとにアンカーボルトを含み、個数を算出する。</p> <p>(2) 足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次式により算定する。</p> $\text{足場面積} A = (L + 2) \times 1.0 \times 2 \times n$ <p>L：橋台及び橋脚の長さ (m) n：橋台及び橋脚の数（ただし、橋台の場合は1/2とする。）</p> </div> </div>	関連数量算出項目				項目	単位	数量	備考	現場補修塗装工	m ²			<p style="text-align: center;">改 正</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>2. 支承取替工における足場工は、下図に示す橋脚回り足場を標準とする。 なお、現場条件等により、これによりがたい場合は別途考慮するものとする。</p> <p>(4) 下部工ブラケット取付の単部材質量による区分は、以下のとおりとする。 単部材質量 — 600kg 以下 — 600kg を超え 2,000kg 以下</p> </div> <p style="text-align: center;">(次頁へ移動)</p>	<p style="text-align: center;">備 考</p> <p>積算基準の改定に伴う記載の修正</p> <p>積算基準の改定に伴う記載の追加</p> <p>積算基準の改定に伴う記載の修正</p>
関連数量算出項目															
項目	単位	数量	備考												
現場補修塗装工	m ²														
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2												

改正理由	一部改正	改正 現行																																																																																																
現 行		改 正																																																																																																
備 考																																																																																																		
<p>9.1.2 掘削・支保工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>①掘削・ずり出し延長を区分ごとに算出する。 ②掘削1m当たりのロックボルト本数を区分毎に算出する。</p> </div> <p>2. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>区分は、掘削、加背割、設計掘削断面種、延長とする。</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分 項目</th> <th>掘削</th> <th>加背割</th> <th>設計掘削断面種</th> <th>延長</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削延長</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ロックボルト本数</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>本/m</td> <td></td> <td>先受けボルトがある場合は同様に計上</td> </tr> <tr> <td>ずり出し延長</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 掘削区分</p> <p>掘削による区分は、「道路トンネル技術基準（構造編）・同解説」第3編設計1・概説1-2地山分類による。また、掘削区分に対応する岩分類は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <caption>掘削区分に対応する岩分類</caption> <thead> <tr> <th>掘削区分</th> <th>岩分類</th> <th>掘削区分</th> <th>岩分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B</td> <td>硬岩（硬岩Ⅰ）</td> <td>DⅡ</td> <td>軟岩（Ⅱ）</td> </tr> <tr> <td>CⅠ</td> <td rowspan="2">中硬岩</td> <td>注）1</td> <td>軟岩（Ⅰ）</td> </tr> <tr> <td>CⅡ</td> <td>DⅢ</td> <td>軟岩（Ⅱ）</td> </tr> <tr> <td>DⅠ</td> <td>軟岩（Ⅰ）</td> <td>注）2</td> <td>軟岩（Ⅰ）</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>土砂</td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 掘削区分DⅡの岩分類の判定にあたっては、岩の性状により決定するものとする。 2. 坑口部等は掘削区分DⅢとし、岩分類の判定にあたっては岩の性状により別途決定するものとする。</p> <p style="text-align: center;">3-9-3</p> </div>		区分 項目	掘削	加背割	設計掘削断面種	延長	単位	数量	備考	掘削延長	○	○	○	○	m			ロックボルト本数	○	○	○	×	本/m		先受けボルトがある場合は同様に計上	ずり出し延長	○	○	○	○	m			掘削区分	岩分類	掘削区分	岩分類	B	硬岩（硬岩Ⅰ）	DⅡ	軟岩（Ⅱ）	CⅠ	中硬岩	注）1	軟岩（Ⅰ）	CⅡ	DⅢ	軟岩（Ⅱ）	DⅠ	軟岩（Ⅰ）	注）2	軟岩（Ⅰ）				土砂	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th rowspan="2">3次元モデル</th> <th colspan="6">属性情報</th> </tr> <tr> <th>掘削</th> <th>加背割</th> <th>設計掘削断面種</th> <th>延長</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削延長</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ロックボルト本数</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>本/m</td> <td>先受けボルトがある場合は同様に計上する。</td> </tr> <tr> <td>ずり出し延長</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「掘削延長」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長や設計掘削断面種を算出し、属性情報を用いて掘削区分、加背割を区分することより「B」を適用する。 「ロックボルト本数」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と1mあたりの本数を算出し、属性情報を用いて掘削区分、加背割を区分することより「B」を適用する。 「ずり出し延長」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長や設計掘削断面種を算出し、属性情報を用いて掘削区分、加背割を区分することより「B」を適用する。</p> <p>現行どおり</p>		区分 項目	3次元モデル	属性情報						掘削	加背割	設計掘削断面種	延長	単位	数量	備考	掘削延長	B	○	○	○	○	m		ロックボルト本数	B	○	○	○	×	本/m	先受けボルトがある場合は同様に計上する。	ずり出し延長	B	○	○	○	○	m		記載の追加
区分 項目	掘削	加背割	設計掘削断面種	延長	単位	数量	備考																																																																																											
掘削延長	○	○	○	○	m																																																																																													
ロックボルト本数	○	○	○	×	本/m		先受けボルトがある場合は同様に計上																																																																																											
ずり出し延長	○	○	○	○	m																																																																																													
掘削区分	岩分類	掘削区分	岩分類																																																																																															
B	硬岩（硬岩Ⅰ）	DⅡ	軟岩（Ⅱ）																																																																																															
CⅠ	中硬岩	注）1	軟岩（Ⅰ）																																																																																															
CⅡ		DⅢ	軟岩（Ⅱ）																																																																																															
DⅠ	軟岩（Ⅰ）	注）2	軟岩（Ⅰ）																																																																																															
			土砂																																																																																															
区分 項目	3次元モデル	属性情報																																																																																																
		掘削	加背割	設計掘削断面種	延長	単位	数量	備考																																																																																										
掘削延長	B	○	○	○	○	m																																																																																												
ロックボルト本数	B	○	○	○	×	本/m	先受けボルトがある場合は同様に計上する。																																																																																											
ずり出し延長	B	○	○	○	○	m																																																																																												
積算上の注意事項			（控え頁） 1/1																																																																																															

改正理由	一部改正	改正 現行																																																															
現 行	改 正		備 考																																																														
<p>9.1.3 覆工コンクリート・防水工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">覆工コンクリート・防水延長を区分ごとに算出する。</div> <p>2. 区分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">区分は、掘削、掘削断面積とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>掘削</th> <th>掘削断面積</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削延長</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>覆工コンクリート規格、防水シート規格を明記する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 掘削・掘削断面積区分 掘削による区分は、「9.1.2 掘削・支保工」による。</p> <p>(3) 設計掘削断面積</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>掘削区分</th> <th>設計掘削断面積 (m²)</th> <th>断面積範囲 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="9" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">発破掘削工法 (坑口工法)</td> <td rowspan="3">C I、II</td> <td>50</td> <td>50.0 A < 52.5</td> </tr> <tr> <td>55</td> <td>52.5 A < 57.5</td> </tr> <tr> <td>60</td> <td>57.5 A < 62.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">D I、II</td> <td>65</td> <td>62.5 A < 67.5</td> </tr> <tr> <td>70</td> <td>67.5 A < 72.5</td> </tr> <tr> <td>75</td> <td>72.5 A < 77.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">D III</td> <td>80</td> <td>77.5 A < 82.5</td> </tr> <tr> <td>85</td> <td>82.5 A < 87.5</td> </tr> <tr> <td>90</td> <td>87.5 A < 92.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>95</td> <td>92.5 A < 95.0</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>掘削区分</th> <th>設計掘削断面積 (m²)</th> <th>断面積範囲 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">非常駐車帯工</td> <td rowspan="7">C I、II D I、II</td> <td>70</td> <td>70.0 A < 75.0</td> </tr> <tr> <td>80</td> <td>75.0 A < 85.0</td> </tr> <tr> <td>90</td> <td>85.0 A < 95.0</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>95.0 A < 105.0</td> </tr> <tr> <td>110</td> <td>105.0 A < 115.0</td> </tr> <tr> <td>120</td> <td>115.0 A < 125.0</td> </tr> <tr> <td>130</td> <td>125.0 A < 130.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 掘削断面積には、余堀を含まない。</p>				区分	掘削	掘削断面積	単位	数量	備考	掘削延長	○	○	m		覆工コンクリート規格、防水シート規格を明記する。	区分	掘削区分	設計掘削断面積 (m ²)	断面積範囲 (m ²)	発破掘削工法 (坑口工法)	C I、II	50	50.0 A < 52.5	55	52.5 A < 57.5	60	57.5 A < 62.5	D I、II	65	62.5 A < 67.5	70	67.5 A < 72.5	75	72.5 A < 77.5	D III	80	77.5 A < 82.5	85	82.5 A < 87.5	90	87.5 A < 92.5			95	92.5 A < 95.0	区分	掘削区分	設計掘削断面積 (m ²)	断面積範囲 (m ²)	非常駐車帯工	C I、II D I、II	70	70.0 A < 75.0	80	75.0 A < 85.0	90	85.0 A < 95.0	100	95.0 A < 105.0	110	105.0 A < 115.0	120	115.0 A < 125.0	130	125.0 A < 130.0
区分	掘削	掘削断面積	単位	数量	備考																																																												
掘削延長	○	○	m		覆工コンクリート規格、防水シート規格を明記する。																																																												
区分	掘削区分	設計掘削断面積 (m ²)	断面積範囲 (m ²)																																																														
発破掘削工法 (坑口工法)	C I、II	50	50.0 A < 52.5																																																														
		55	52.5 A < 57.5																																																														
		60	57.5 A < 62.5																																																														
	D I、II	65	62.5 A < 67.5																																																														
		70	67.5 A < 72.5																																																														
		75	72.5 A < 77.5																																																														
	D III	80	77.5 A < 82.5																																																														
		85	82.5 A < 87.5																																																														
		90	87.5 A < 92.5																																																														
		95	92.5 A < 95.0																																																														
区分	掘削区分	設計掘削断面積 (m ²)	断面積範囲 (m ²)																																																														
非常駐車帯工	C I、II D I、II	70	70.0 A < 75.0																																																														
		80	75.0 A < 85.0																																																														
		90	85.0 A < 95.0																																																														
		100	95.0 A < 105.0																																																														
		110	105.0 A < 115.0																																																														
		120	115.0 A < 125.0																																																														
		130	125.0 A < 130.0																																																														
	<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>3次元モデル</th> <th>掘削</th> <th>掘削断面積</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>属性情報</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掘削延長</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td></td> <td>覆工コンクリート規格、防水シート規格を明記する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>「掘削延長」は、簡易な形状(点、線、面)を用いて位置と延長や掘削断面積を算出することにより「B」を適用する。</p> <p>現行どおり</p>	区分	3次元モデル	掘削	掘削断面積	単位	数量	属性情報	備考	掘削延長	B	○	○	m			覆工コンクリート規格、防水シート規格を明記する。	記載の追加																																															
区分	3次元モデル	掘削	掘削断面積	単位	数量	属性情報	備考																																																										
掘削延長	B	○	○	m			覆工コンクリート規格、防水シート規格を明記する。																																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																														

改正理由	一部改正	改正 現行	備考																																																																																
	<p>9.1.4 インバート工</p> <p>1. 数量算出項目</p> <p>インバートの数量を区分ごとに算出する。</p> <p>2. 区分</p> <p>区分は、掘削、設計・支払とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>掘削</th> <th>設計・支払</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">インバート</td> <td>インバート設置延長</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td>インバート厚さを明記する。</td> </tr> <tr> <td>インバート断面積</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>インバート型枠</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td>設計断面積とする。</td> </tr> <tr> <td>インバート鉄筋</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>インバート埋戻し</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 掘削区分 掘削による区分は、「9.1.2 掘削・支保工」による。</p> <p>(2) 設計・支払区分 設計・支払による区分は、「9.1.2 掘削・支保工」による。</p> <p>3. 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) インバートコンクリート インバートコンクリートを設計、支払別に、「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.1 コンクリート工」によりコンクリートの規格ごとに算出する。 (インバートコンクリート(m³)=インバート断面積(m²)×インバート設置延長(m))</p> <p>(2) インバート鉄筋 「第1編（共通編）4章コンクリート工 4.3.1 鉄筋工」により鉄筋の種類ごとに算出する。</p>	項目	区分	掘削	設計・支払	単位	数量	備考	インバート	インバート設置延長	○	×	m		インバート厚さを明記する。	インバート断面積	○	○	m ²			インバート型枠	○	×	m ²		設計断面積とする。	インバート鉄筋	○	×	t			インバート埋戻し	○	×	m ³			<p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">属性情報</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>3次元モデル</th> <th>掘削</th> <th>設計・支払</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">インバート</td> <td>インバート設置延長</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m</td> <td>インバート厚さを明記する。</td> </tr> <tr> <td>インバート断面積</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>インバート型枠</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td>設計断面積とする。</td> </tr> <tr> <td>インバート鉄筋</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> </tr> <tr> <td>インバート埋戻し</td> <td>B</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m³</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>「インバート設置延長」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長を算出することより「B」を適用する。 「インバート断面積」と「インバート型枠」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出することより「B」を適用する。 「インバート鉄筋」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出することより「B」を適用する。 「インバート埋戻し」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積と延長より体積を算出することより「B」を適用する。</p> <p>現行どおり</p>	項目	区分	属性情報				備考	3次元モデル	掘削	設計・支払	単位	インバート	インバート設置延長	B	○	×	m	インバート厚さを明記する。	インバート断面積	B	○	○	m ²		インバート型枠	B	○	×	m ²	設計断面積とする。	インバート鉄筋	B	○	×	t		インバート埋戻し	B	○	×	m ³		<p>記載の追加</p>
項目	区分	掘削	設計・支払	単位	数量	備考																																																																													
インバート	インバート設置延長	○	×	m		インバート厚さを明記する。																																																																													
	インバート断面積	○	○	m ²																																																																															
	インバート型枠	○	×	m ²		設計断面積とする。																																																																													
	インバート鉄筋	○	×	t																																																																															
	インバート埋戻し	○	×	m ³																																																																															
項目	区分	属性情報				備考																																																																													
		3次元モデル	掘削	設計・支払	単位																																																																														
インバート	インバート設置延長	B	○	×	m	インバート厚さを明記する。																																																																													
	インバート断面積	B	○	○	m ²																																																																														
	インバート型枠	B	○	×	m ²	設計断面積とする。																																																																													
	インバート鉄筋	B	○	×	t																																																																														
	インバート埋戻し	B	○	×	m ³																																																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																																																

改正理由	一部改正	改正 現行																												
現 行	改 正		備 考																											
<p>9.2 トンネル内装板設置工</p> <p>1. 適用 トンネル内装板設置工の側壁用内装板のみに適用する。</p> <p>2. 数量算出項目 トンネル内装板設置、トンネル内装板（材料費）の数量を算出する。</p> <p>3. 区分 区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="border: 2px solid red;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トンネル内装板設置</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>トンネル内装板（材料費）</td> <td>○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場</td> <td>掛m²</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）11.4足場工」参照及び、必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>高所作業車</td> <td></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 数量算出方法 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。</p>				項 目	規格	単位	数量	備考	トンネル内装板設置	×	m ²			トンネル内装板（材料費）	○	m ²			項目	単位	数量	備考	足場	掛m ²		「第1編（共通編）11.4足場工」参照及び、必要な場合別途計上	高所作業車			必要な場合別途計上
項 目	規格	単位	数量	備考																										
トンネル内装板設置	×	m ²																												
トンネル内装板（材料費）	○	m ²																												
項目	単位	数量	備考																											
足場	掛m ²		「第1編（共通編）11.4足場工」参照及び、必要な場合別途計上																											
高所作業車			必要な場合別途計上																											
3-9-12																														
積算上の注意事項		(控え頁) 1/1																												

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項 目	区分	3次元	属性情報			
		モデル	規格	単位	数量	備考
トンネル内装板設置		B	×	m ²		
トンネル内装板（材料費）		B	○	m ²		

「トンネル内装板設置」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出することより「B」を適用する。
「トンネル内装板（材料費）」は、簡易な形状（点、線、面）を用いて位置と面積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

現行どおり

記載の追加